本文

官報

第七千八百號

明治四十二年六月二十六日　土曜日

印刷局

○勅令

朕典獄看守長略服ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治四十二年六月二十五日

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

司法大臣　子爵岡部長職

勅令第百七十號

典獄看守長略服

典獄看守長略服圖例

		典獄	看守長
帽	地質	濃紺又ハ黑羅紗	同上
	製式	圓形黑革製前庇及幅三分五厘ノ黑革製顋紐ヲ附シ顋紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑三分五厘ノ圓形内櫻花章金色釦各一箇ヲ以テ留メ幅一寸二分ニシテ隆起線三條ヲ織出シタル黑縞織緣ヲ纒フ天井喰出ハ幅一分トス但シ夏ハ白布ヲ覆フ	幅四分ニシテ隆起線一條ヲ織出シタル黑縞織緣ヲ纒フ餘ハ同上
徽章		徑七分ノ黑天鵞絨製ノ臺ニ徑六分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ハ金色細線二條ヲ以テ纒ヒ其周圍ヲ「モール」製金色櫻（蕾ハ銀色）ヲ以テ包擁ス其ノ縱徑一寸三分横徑一寸八分トス	同上
上衣	地質	濃紺又ハ黑羅紗但シ夏衣ハ白布	同上
	製式	立襟一行釦長ジヤケツト前面ノ左右ニ各二箇ノ物入ヲ附ス左右各上部ノ物入ニハ蓋ヲ附ス	同上
	袖章	幅一分五厘ノ黑蛇腹組線三條ヲ連ネタルモノヲ一分ノ間隔ヲ以テ二通リ平列セシメ其ノ上部ニ一分ヲ隔テ同蛇腹組線一條ヲ纒ヒ其ノ中央ヲ徑一寸ノ輪狀ト爲ス各線何レモ表半面ニ纒フモノトス但シ夏衣ハ白色三分線三條ヲ纒フ	幅一分五厘ノ黑蛇腹組線三條ヲ連ネ其ノ上部ニ一分ヲ隔テ同蛇腹組線一條ヲ纒ヒ其ノ中央ヲ徑一寸ノ輪狀ト爲ス各線何レモ表半面ニ纒フモノトス但シ夏衣ハ白色三分線二條ヲ纒フ
	肩章	長四寸幅一寸七分地質濃紺又ハ黑羅紗兩緣及上端緣ハ幅一分ノ圈套銀線編目繡ヲ施シ其ノ中間ニ幅四分ノ平織金線二條ヲ縱ニ附シ徑四分ノ金色釦一箇及徑五分ノ金色櫻花章二箇ヲ附ス	平織金線一條ヲ附シ金色櫻花章一箇ヲ附ス餘ハ同上
	釦	金色梨地徑六分ノモノ五箇ヲ前部ニ附シ左右上部ノ物入ニハ同徑五分ノモノ各一箇ヲ附ス但シ夏衣ハ何レモ銀色トス	同上
	領章	徑三分ノ金色櫻花章二箇ヲ附ス但シ夏衣ハ銀色トス	同上
袴	地質	濃紺又ハ黑羅紗但シ夏袴ハ白布	同上
	製式	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	同上
短袴	地質	袴ニ同シ	同上
	製式	長髁上ニ止ム裾口ヲ裂クコト五寸之ニ釦各四箇ヲ附シ兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	同上

備考

一　夏衣ニハ肩章ヲ裝著セサルモノトス

一　平常勤務ノ場合ニ於テハ肩章ヲ用ヰサルコトヲ得

一　短袴ハ長靴、脚絆又ハ「ゲートル」ヲ用ウルトキ之ヲ著用スルモノトス

一　土地ノ狀況ニ依リ防寒具ノ必要アルトキハ司法大臣之ヲ定ム

一　外套、刀及刀帶ハ明治二十九年勅令第三百六十六號ノ式ニ依ル但シ刀帶中第二ノ釣革ハ乘馬ノ際之ヲ用ヰサルコトヲ得

一　刀緒ハ前號ニ掲クル勅令ニ規定スル常緒ヲ用ウ

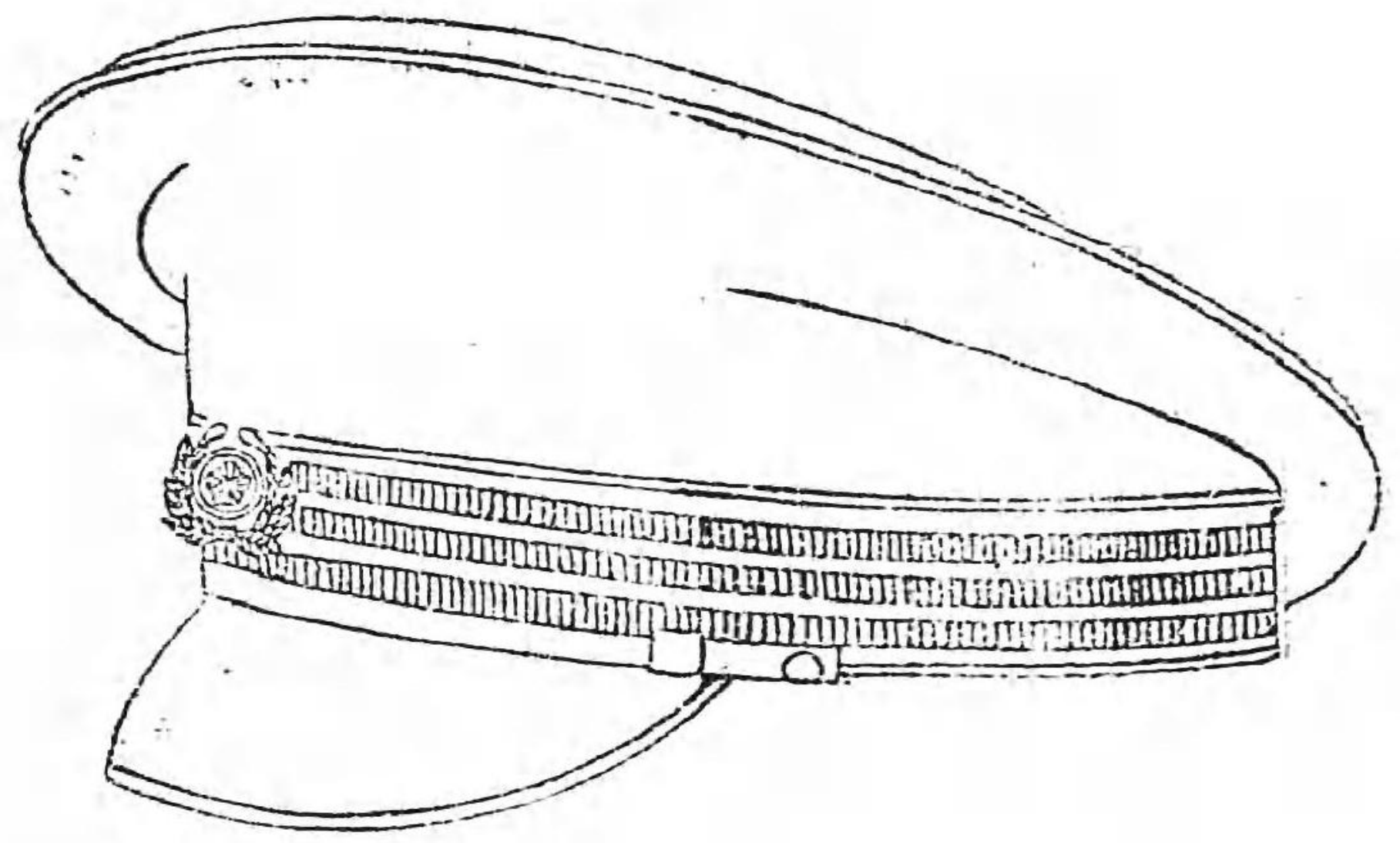
附則

明治四十三年五月三十一日迄ハ仍從前ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

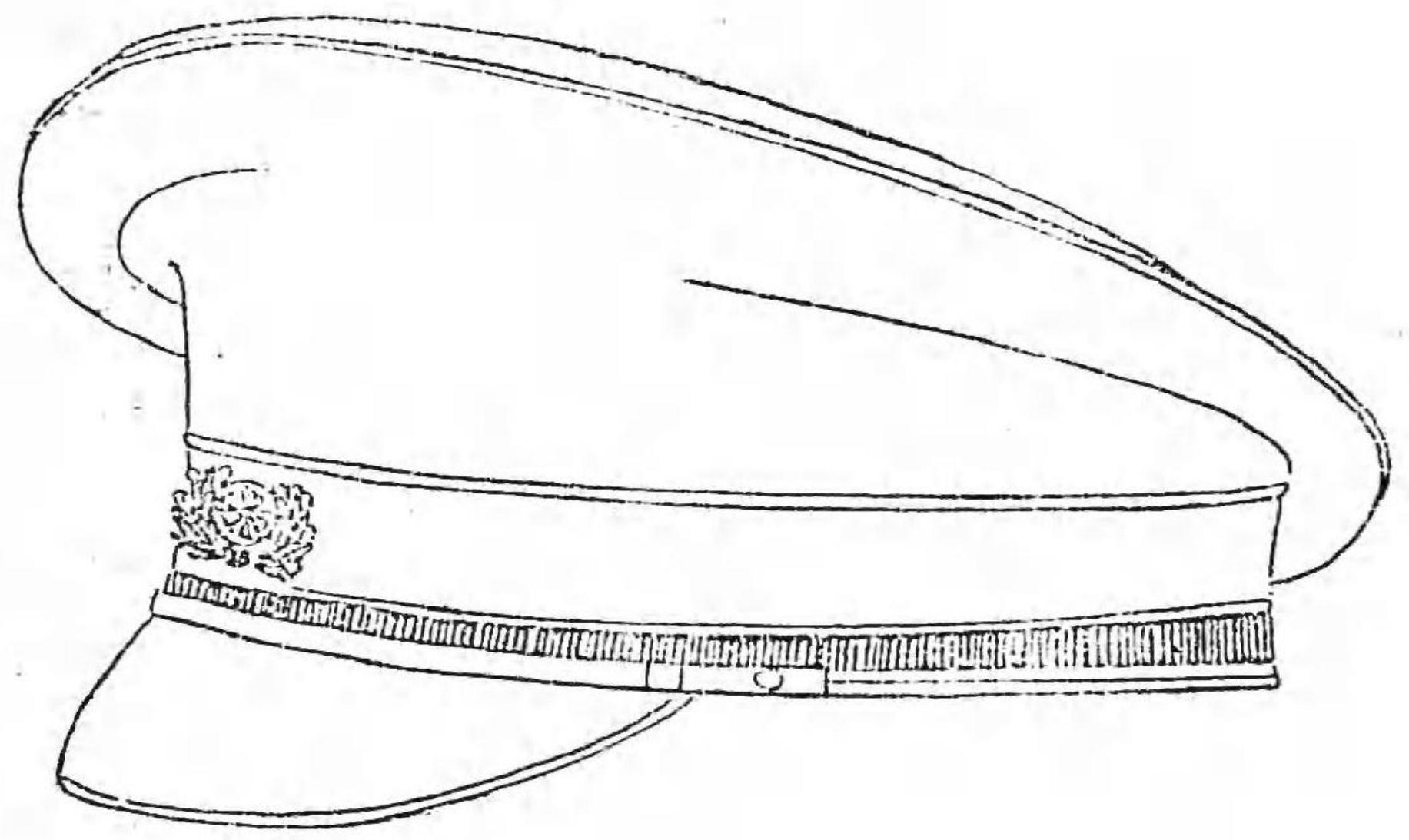
第7800号 本文

帽

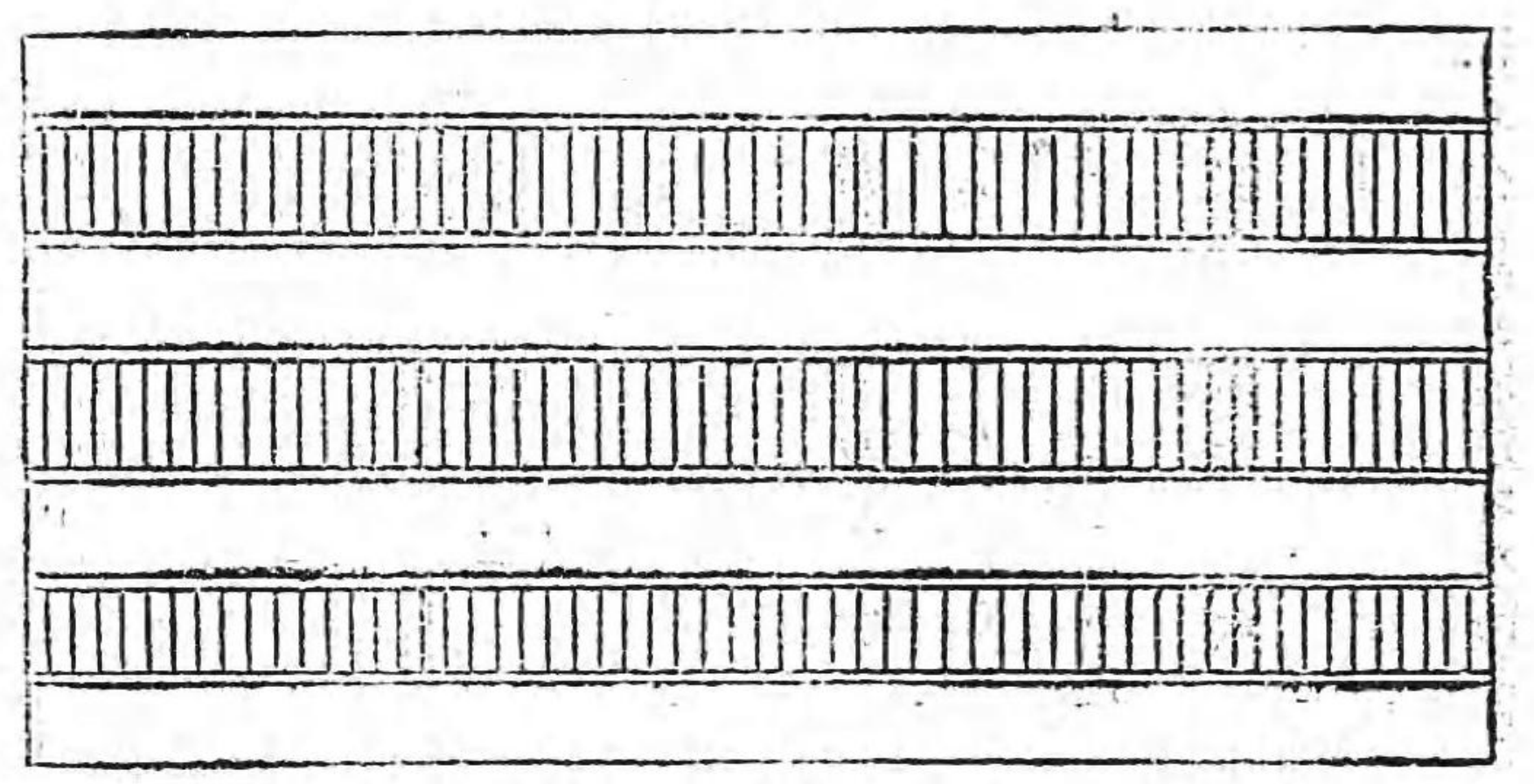
典獄



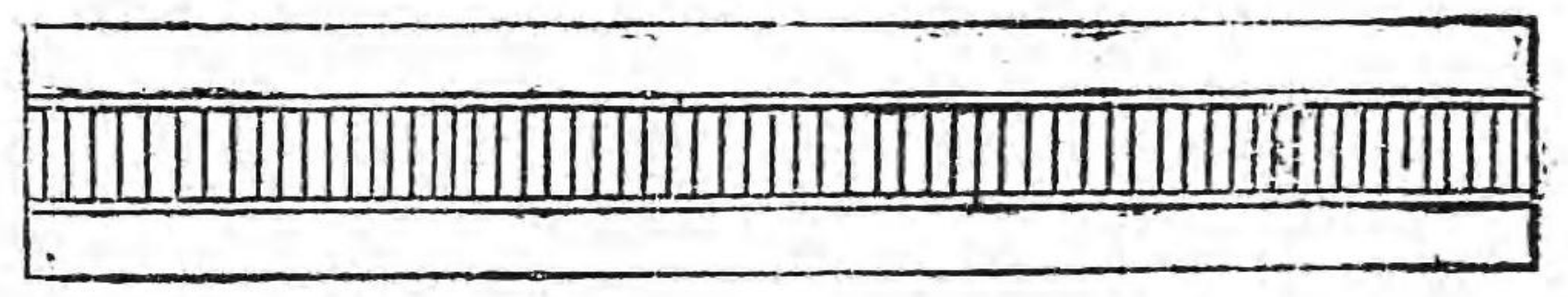
看守長



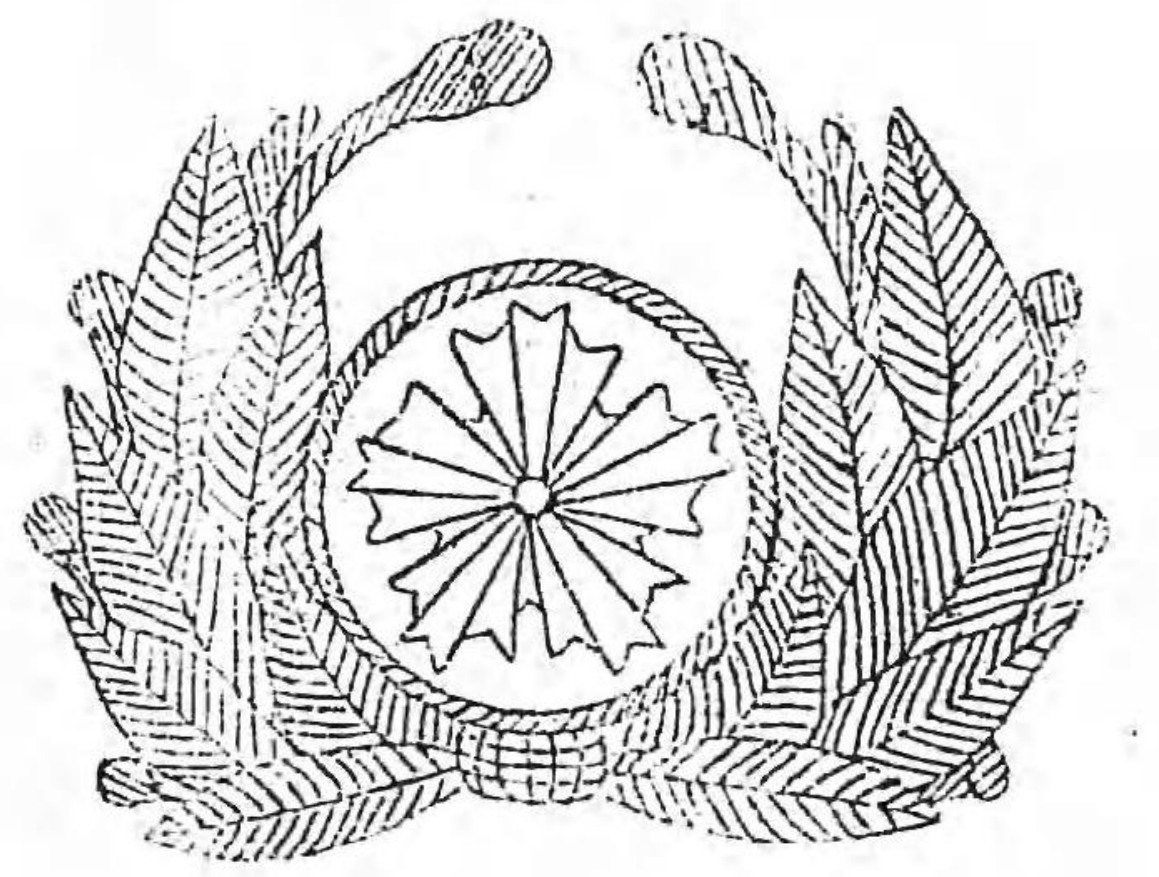
典獄



看守長

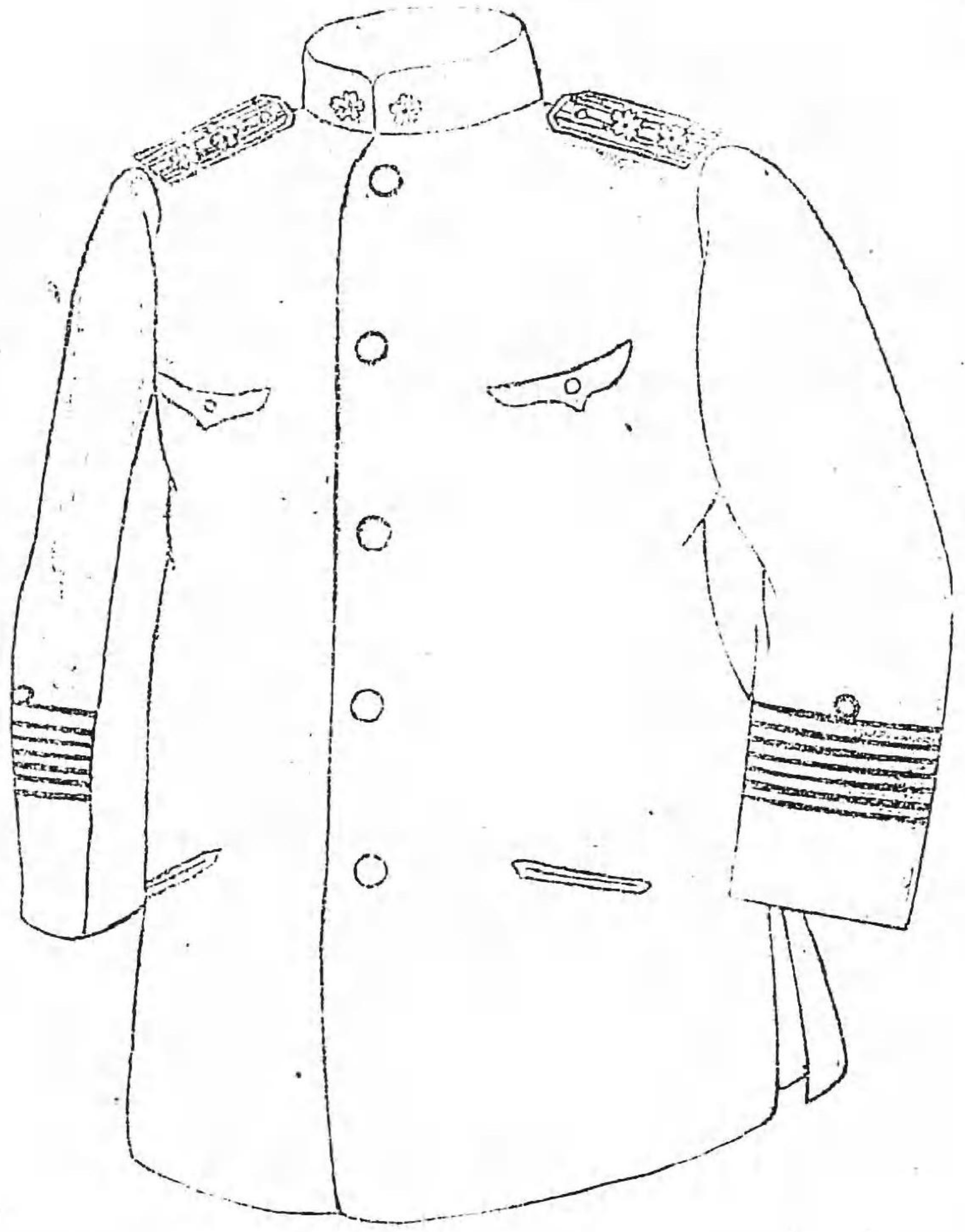


徽章

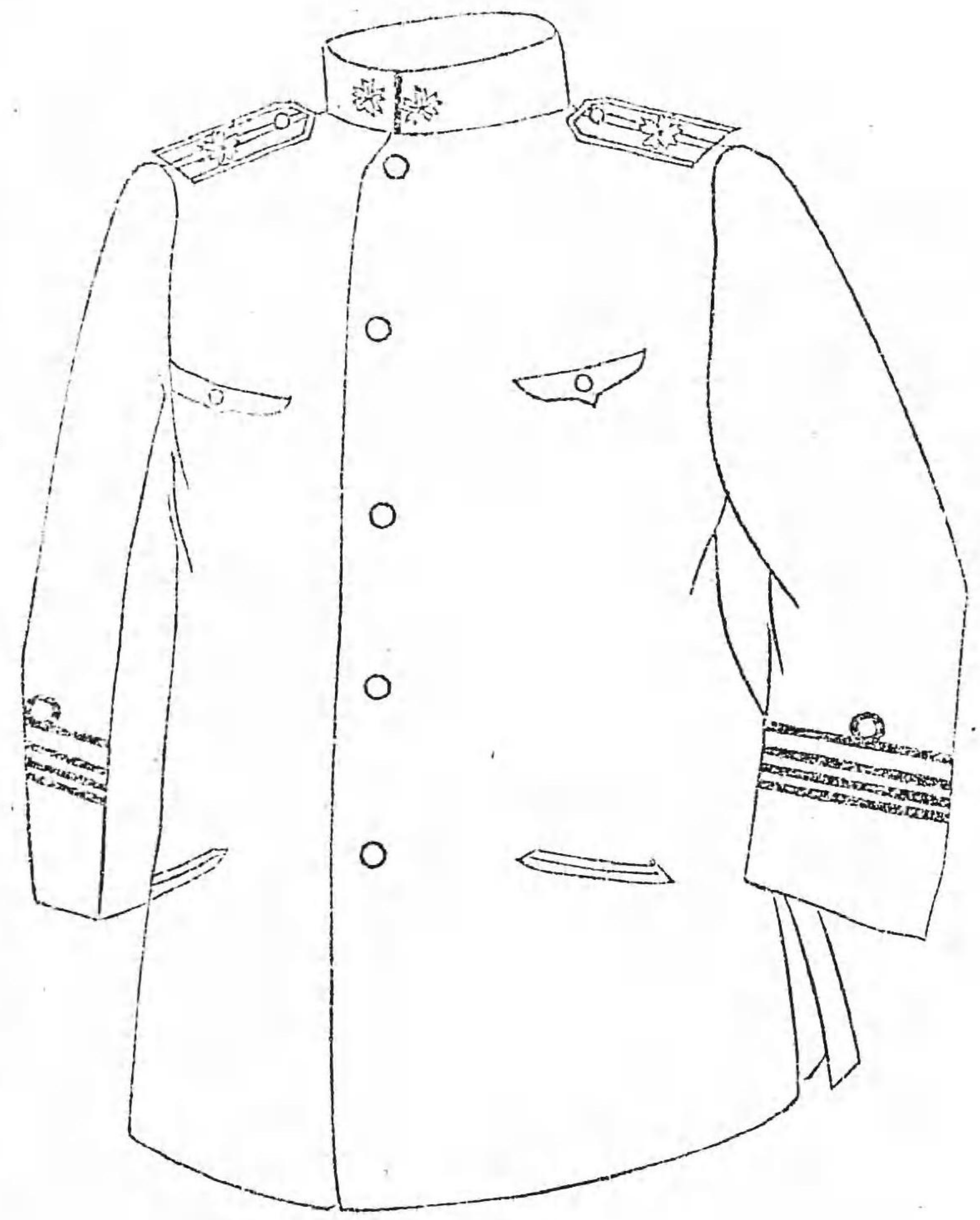


上衣

典獄

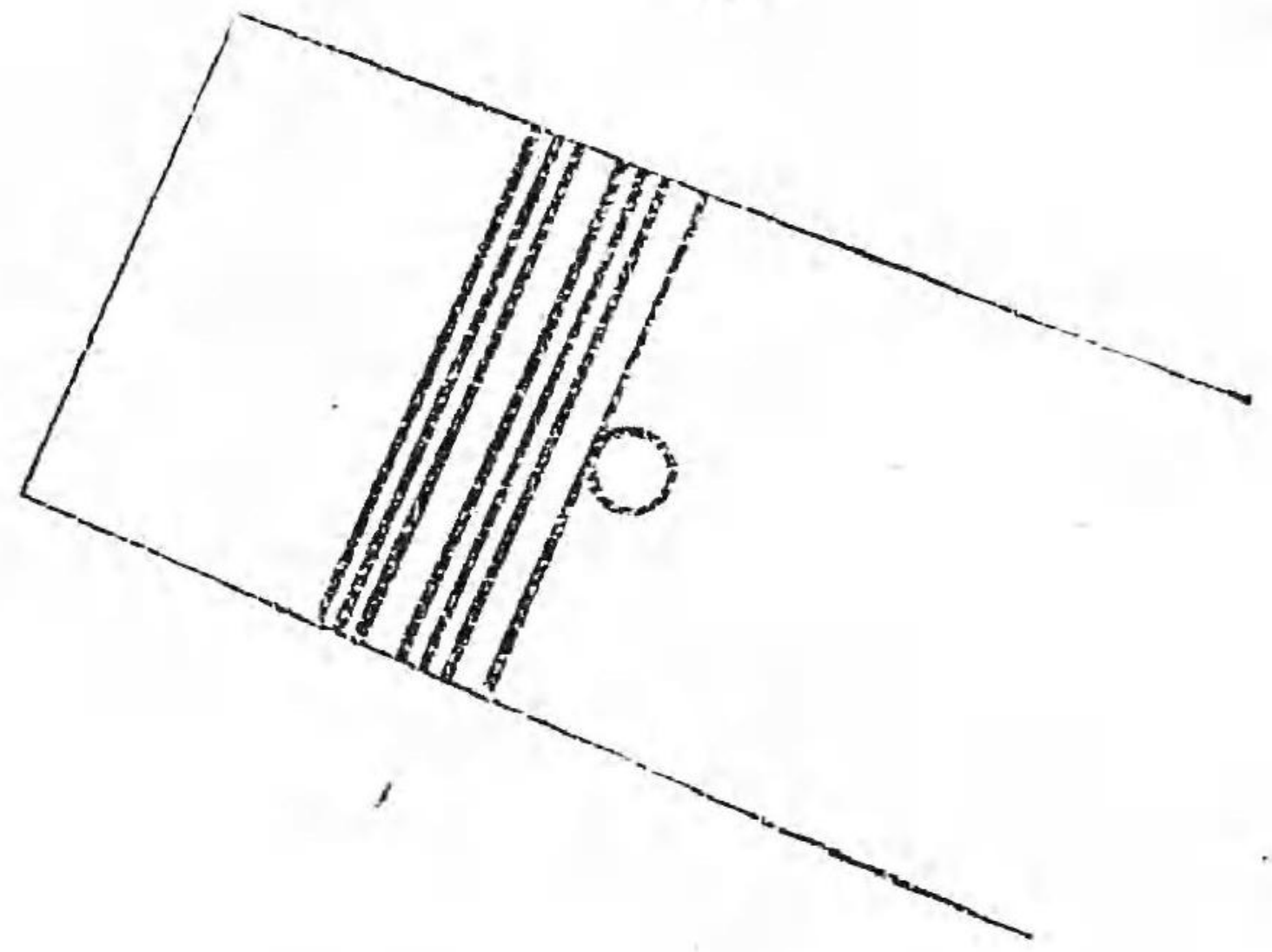


看守長

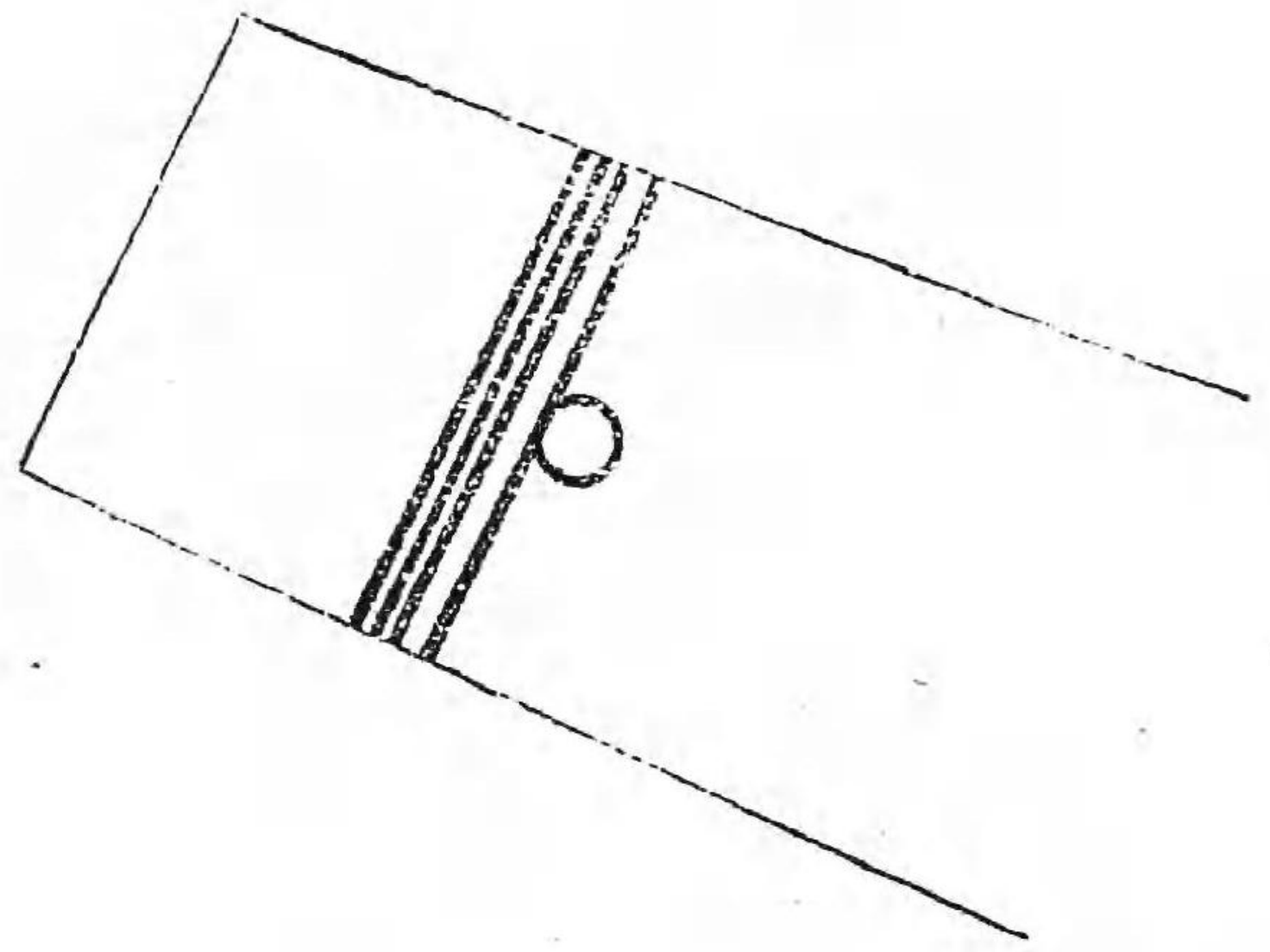


袖章

典獄

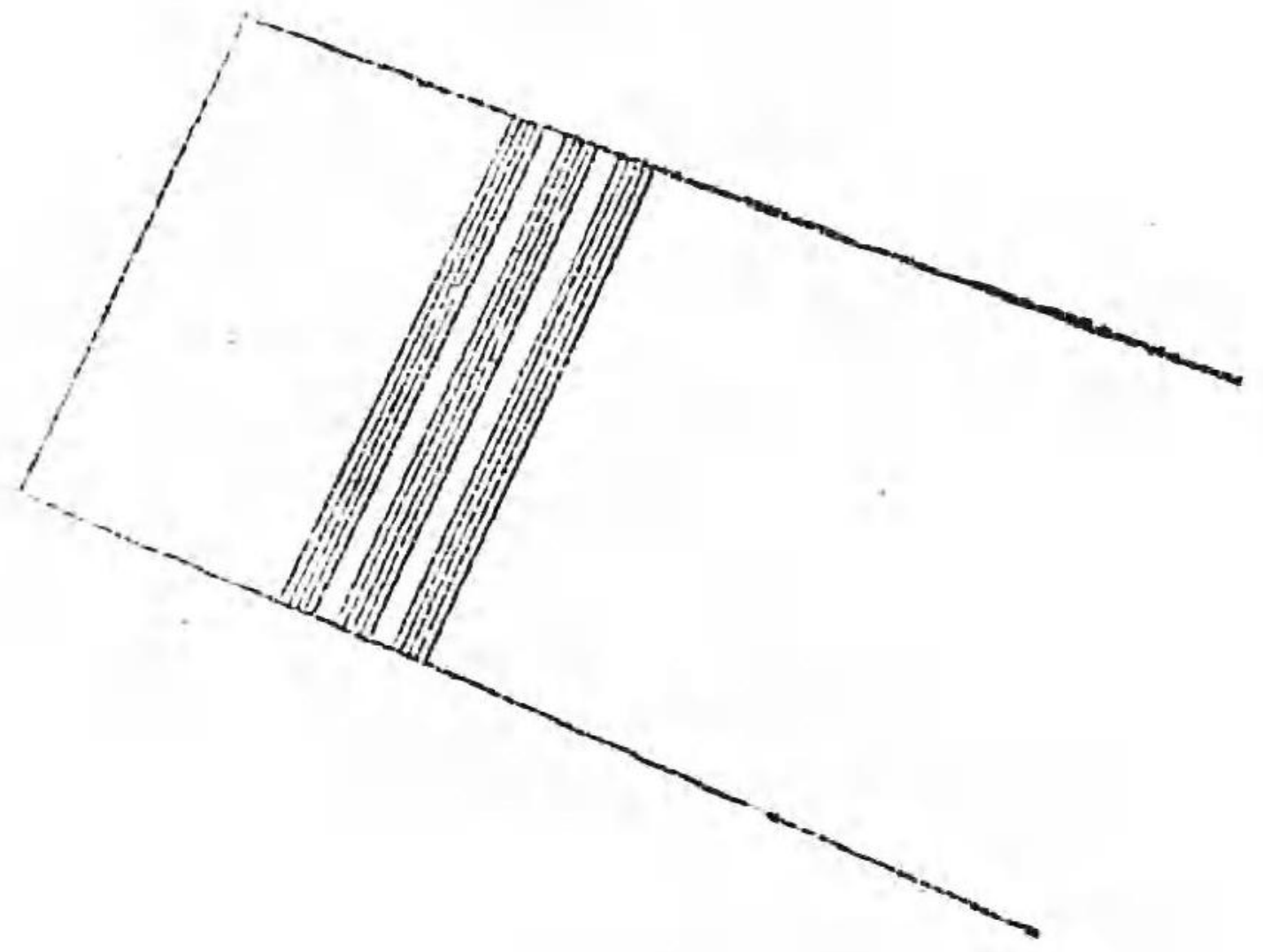


看守長

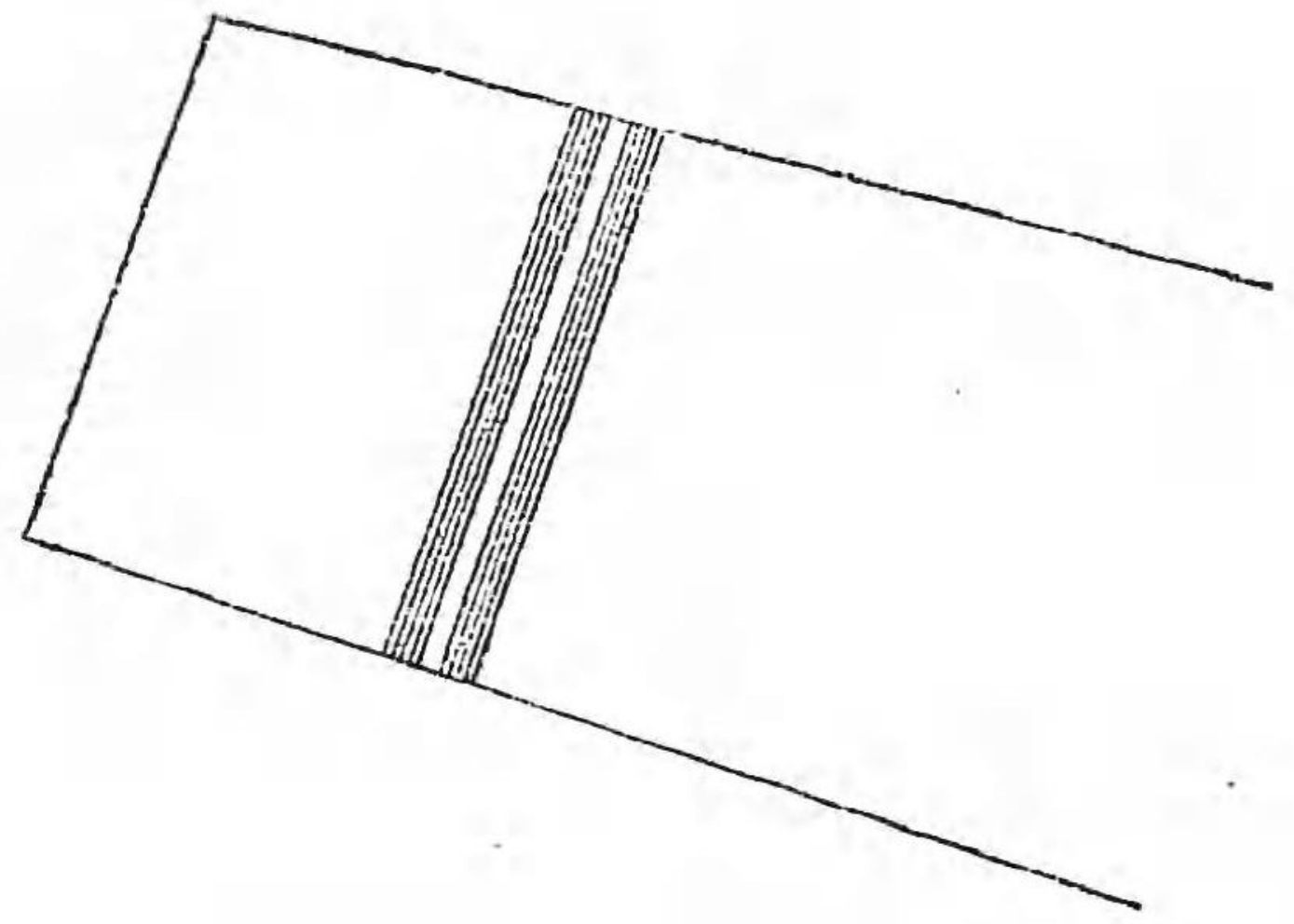


夏衣袖章

典獄

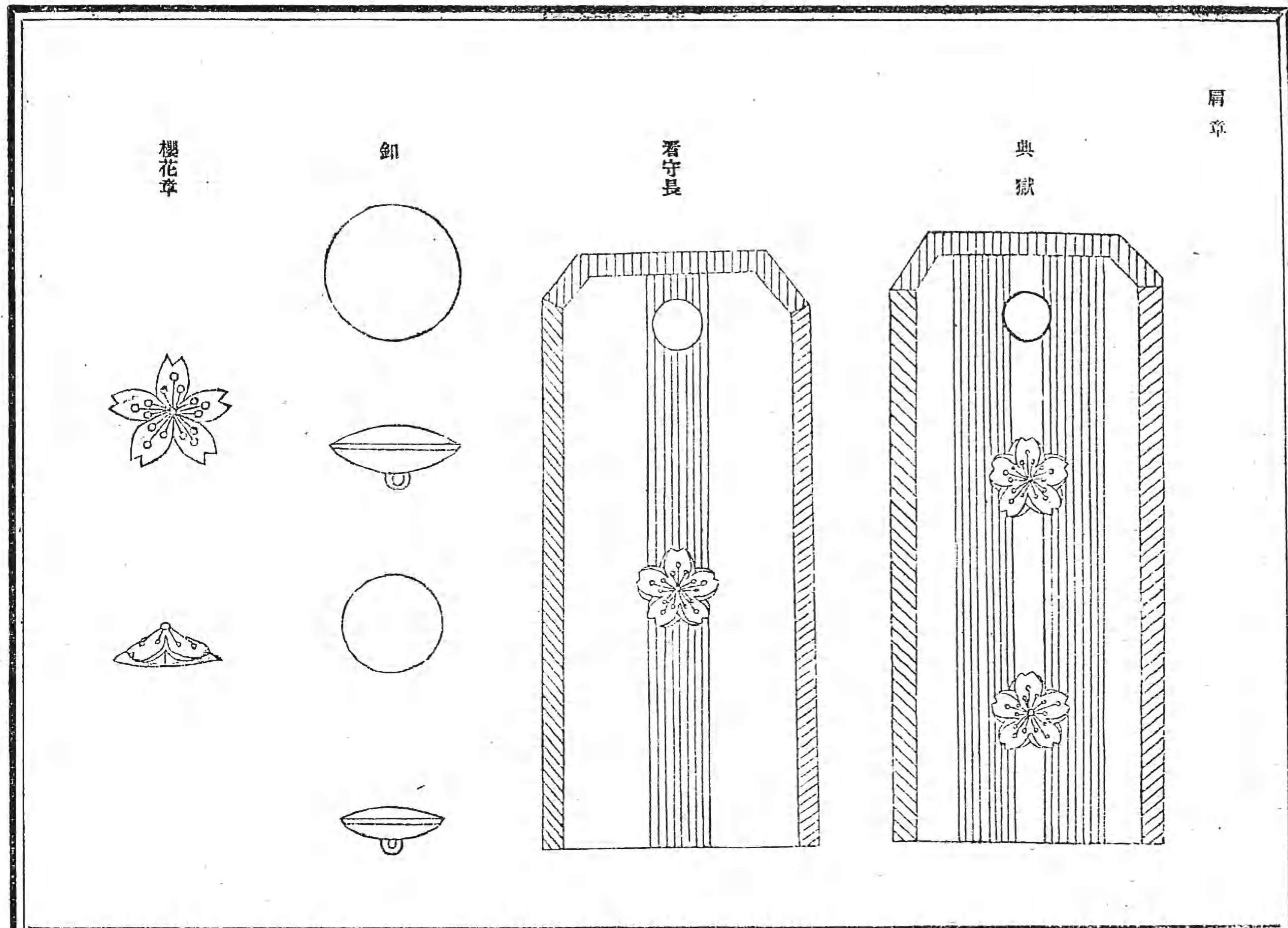


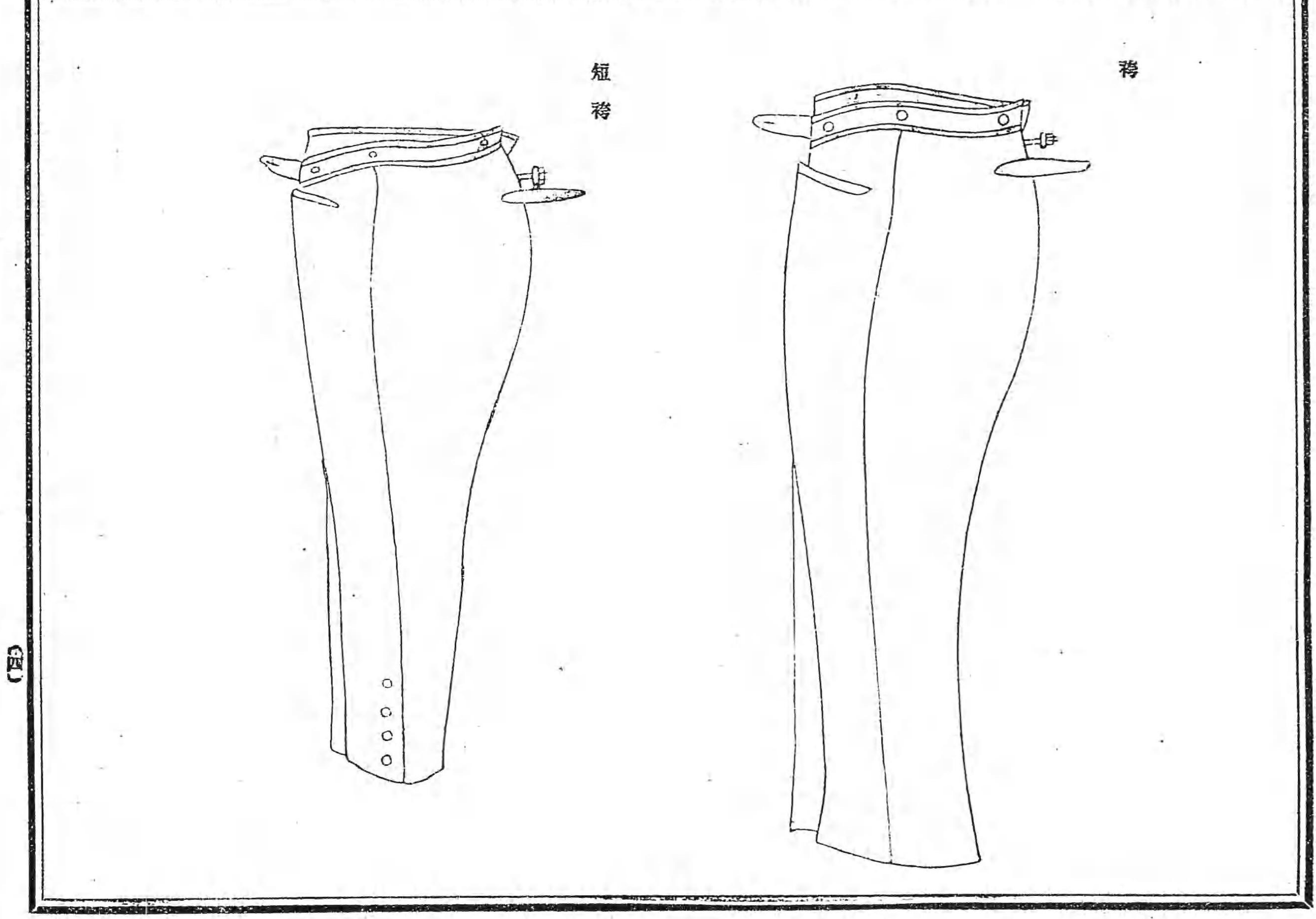
看守長



第7800号　本文

第7800号 本文





朕看守服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年六月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
司法大臣 子爵岡部長職

勅令第百七十一號

看守服制

看守服制圖例

			看守部長	看守
帽	地質		濃紺又ハ黒羅紗	同上
	製式		圓形黒革製前庇及幅三分五厘ノ黒革製顋紐ヲ附シ顋紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑三分五厘ノ圓形内櫻花章眞鍮釦各一箇ヲ以テ留ム天井喰出ハ幅一分トス但シ夏ハ白布ヲ覆フ	同上
	徽章		徑六分ノ略日章ヲ櫻ヲ以テ包擁シ共ニ眞鍮製打出ト爲ス其ノ縦徑一寸二分横徑一寸五分トス	同上
上衣	地質		濃紺又ハ黒羅紗但シ夏衣ハ白雲齋	同上
	製式		立襟一行釦長ジヤケット前面ノ左右ニ各二箇ノ物入ヲ附ス左右各上部ノ物入ニハ蓋ヲ附ス	同上
	袖章		幅一分五厘ノ黒蛇腹組線二條ヲ表半面ニ綴フ其ノ間隔ハ一分トシ上線ノ中央ヲ徑一寸ノ輪狀ト爲ス但シ夏衣ハ袖口ヨリ上二寸ノ所ニ白色三分線一條及同一分五厘線一條ヲ綴フ	幅一分五厘ノ黒蛇腹組線一條ヲ表半面ニ綴ヒ其ノ中央ヲ徑一寸ノ輪狀ト爲ス但シ夏衣ハ袖口ヨリ上二寸ノ所ニ白色三分線一條ヲ綴フ
	肩章		長四寸幅一寸七分地質濃紺又ハ黒羅紗兩縁及上端縁ハ幅三分ノ平織銀線其ノ中間ニ幅一分ノ平織銀線一條ヲ縦ニ附シ徑四分ノ金色釦一箇及徑五分ノ金色櫻花章一箇ヲ附ス	中間ニ平織銀線ヲ附セス餘ハ同上
	釦		徑六分ノ無地眞鍮釦五箇ヲ前部ニ附シ左右上部ノ物入ニハ同徑五分ノモノ各一箇ヲ附ス	同上
	領章		徑三分ノ眞鍮櫻花章二箇ヲ附ス	同上
袴	地質		濃紺又ハ黒羅紗但シ夏袴ハ白雲齋	同上
	製式		普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	同上
短袴	地質		袴ニ同シ	同上
	製式		長ハ膝上ニ止ム裾口ヲ裂クコト五寸之ニ釦各四箇ヲ附シ兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	同上
外套	甲種	地質	濃紺又ハ黒羅紗	同上
		製式	長ハ靴踵上際ヲ距ルコト約八寸袖ノ長ハ腕關節ヨリ延ルコト五分襟ノ幅ハ二寸立襟胸二重徑七分五厘眞鍮圓形内ニ櫻花ヲ鐫刻セル釦六箇二行側部ニ同各三箇收紐同一箇ヲ附ス覆面ニ徑五分五厘黒角釦三箇襟部ニ同五箇後面ハ裾ヲ裂キ同四箇ヲ附ス左右ノ腰部ニ物入各一箇ヲ設ク	同上
		袖章	袖口ヨリ約二寸ノ部ニ徑三分五厘ノ眞鍮櫻花章二箇ヲ表半面ニ附ス	眞鍮櫻花章一箇ヲ附ス餘ハ同上
	乙種	地質	甲種ニ同シ	同上
		製式	通常マント形長前面襟下ヨリ約一尺六寸背面約一尺八寸五分襟ノ幅二寸胸部ニ徑五分五厘黒角釦三箇襟部ニ同五箇ヲ附ス	同上
刀			柄ハ黒革眞鍮線卷背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮長四寸乃至六寸鍔ハ眞鍮鞘ハ磨鐵長一尺六寸乃至二尺兩箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ日本刀但シ乘馬勤務ノ者ニ限リ柄ノ背面ヲ覆ヒタル金具ハ鐵長四寸乃至六寸鍔ハ鐵ヲニツケル鍍トシ鞘ハ長二尺七寸迄トシ一箇ノ釣鐶ヲ附ス	同上
刀帶			黒象皮長適宜幅一寸二分釣革長第一ノ分二寸第二ノ分一尺二寸以内ニシテ幅六分五厘締輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ徑一寸四分金具ハ總テ眞鍮但シ乘馬勤務ノ者ニ限リ釣革ハ長一尺二寸以内一本トシ革ヲ鎖ニ代フルコトヲ得	同上
刀緒			茶色革	同上

備考

一 夏衣ニハ肩章ヲ裝著セサルモノトス

一 短袴ハ長靴、脚絆又ハ「ゲートル」ヲ用ウルトキ之ヲ著用スルモノトス

一 土地ノ狀況ニ依リ防寒具ノ必要アルトキハ司法大臣之ヲ定ム

附則

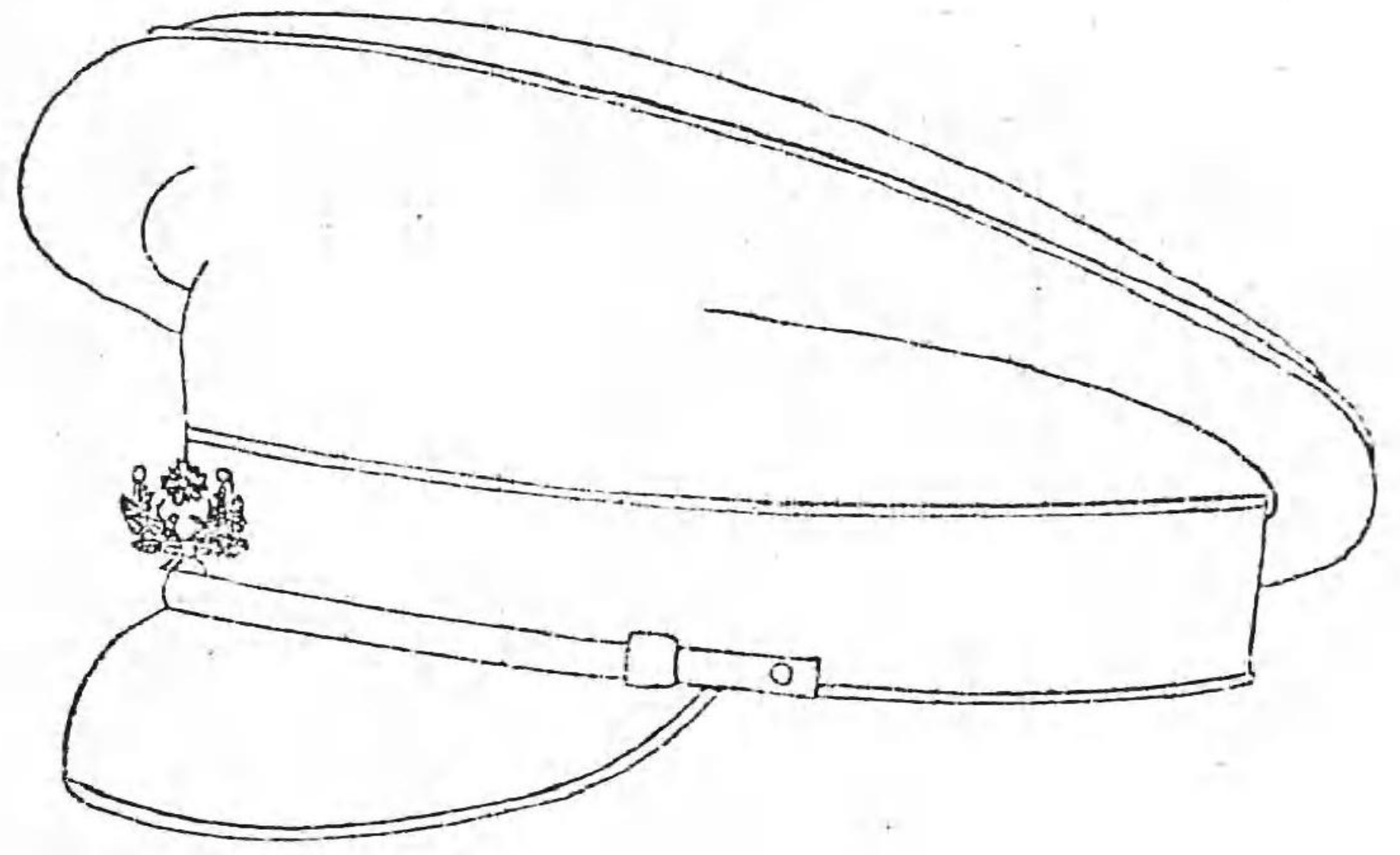
本令ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第7800号 本文

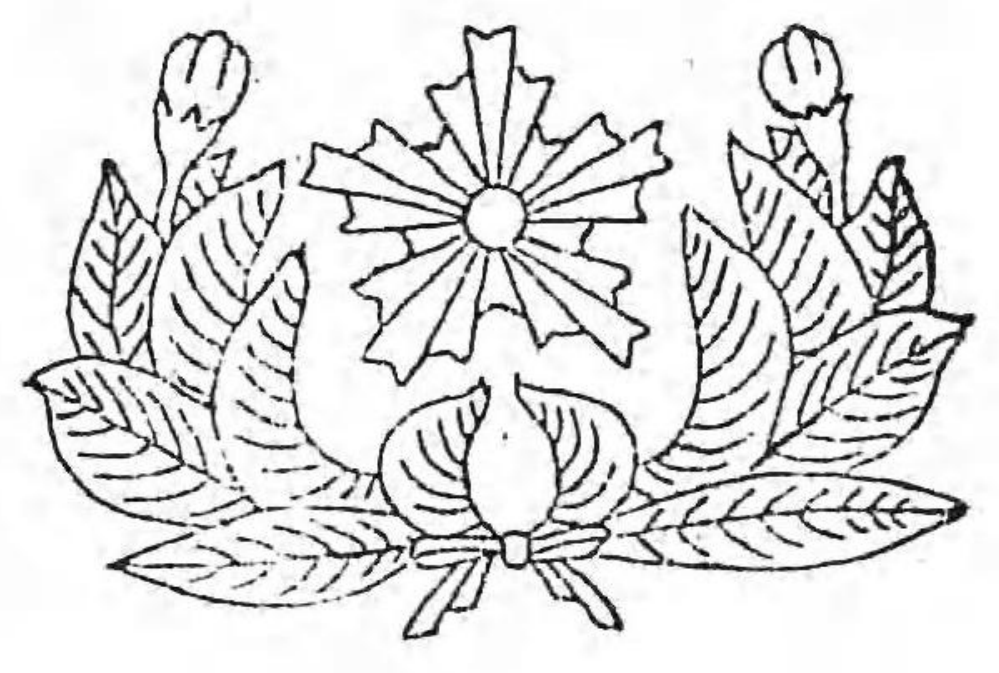
帽

看守部長

看守

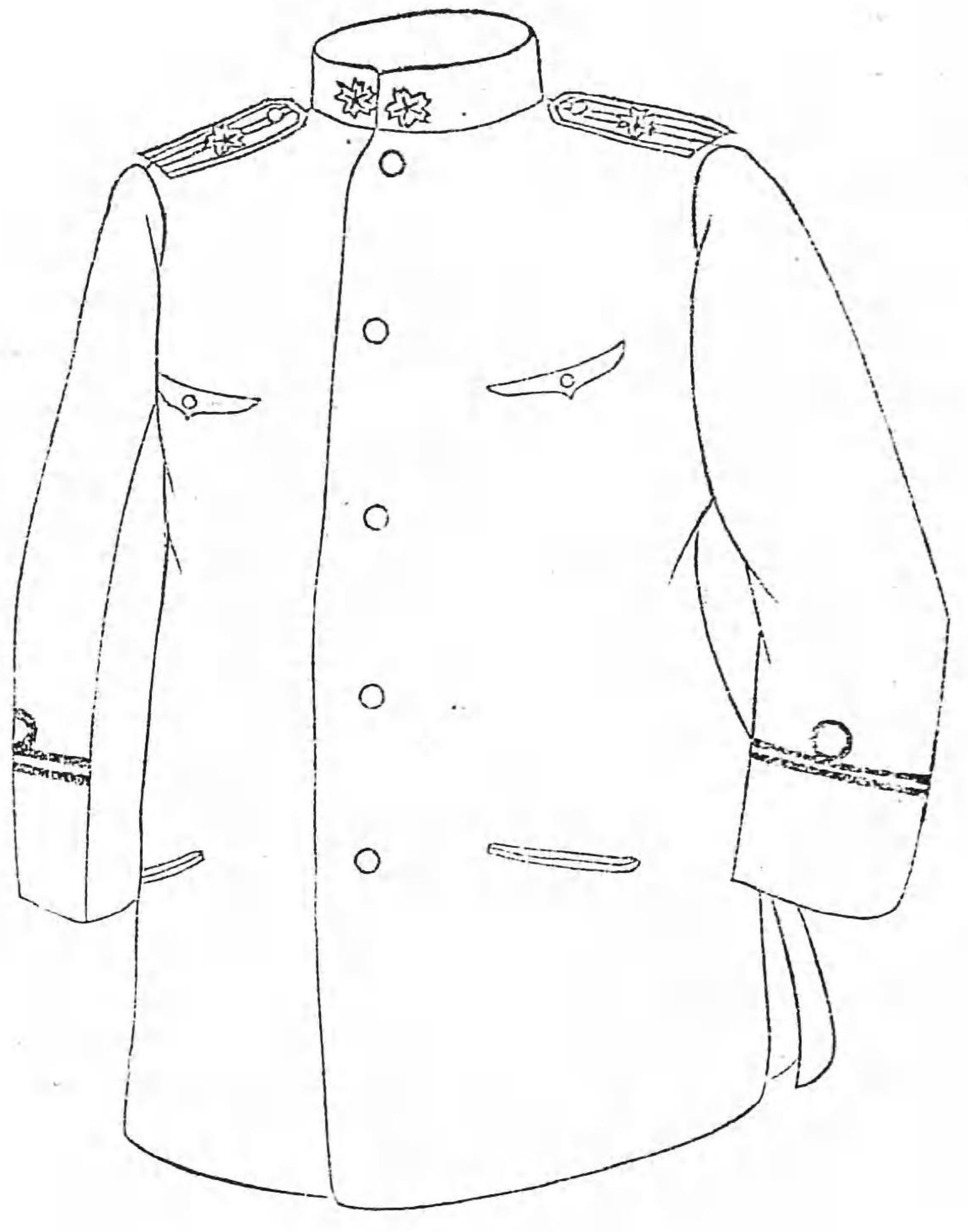


徽章

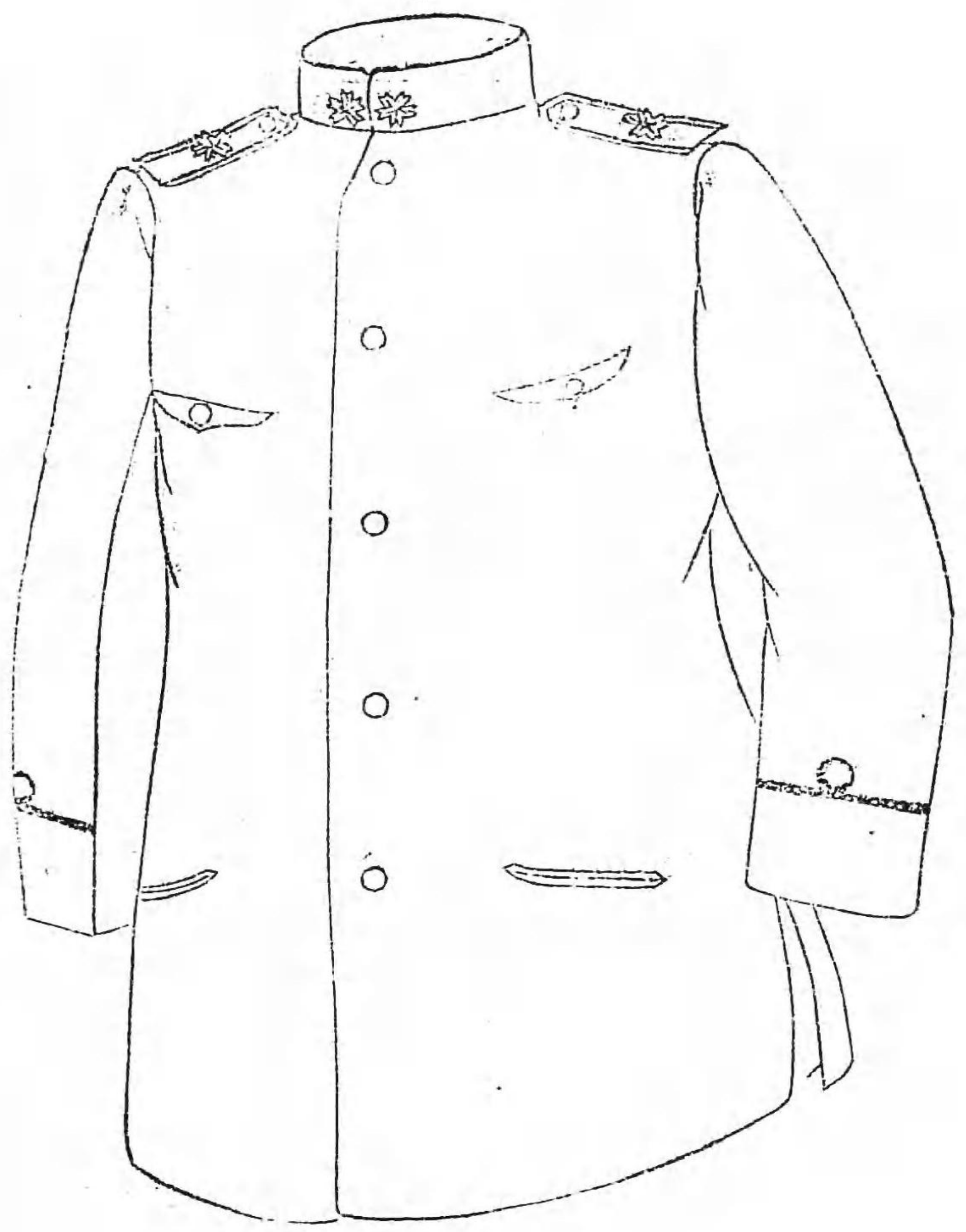


上衣

看守部長

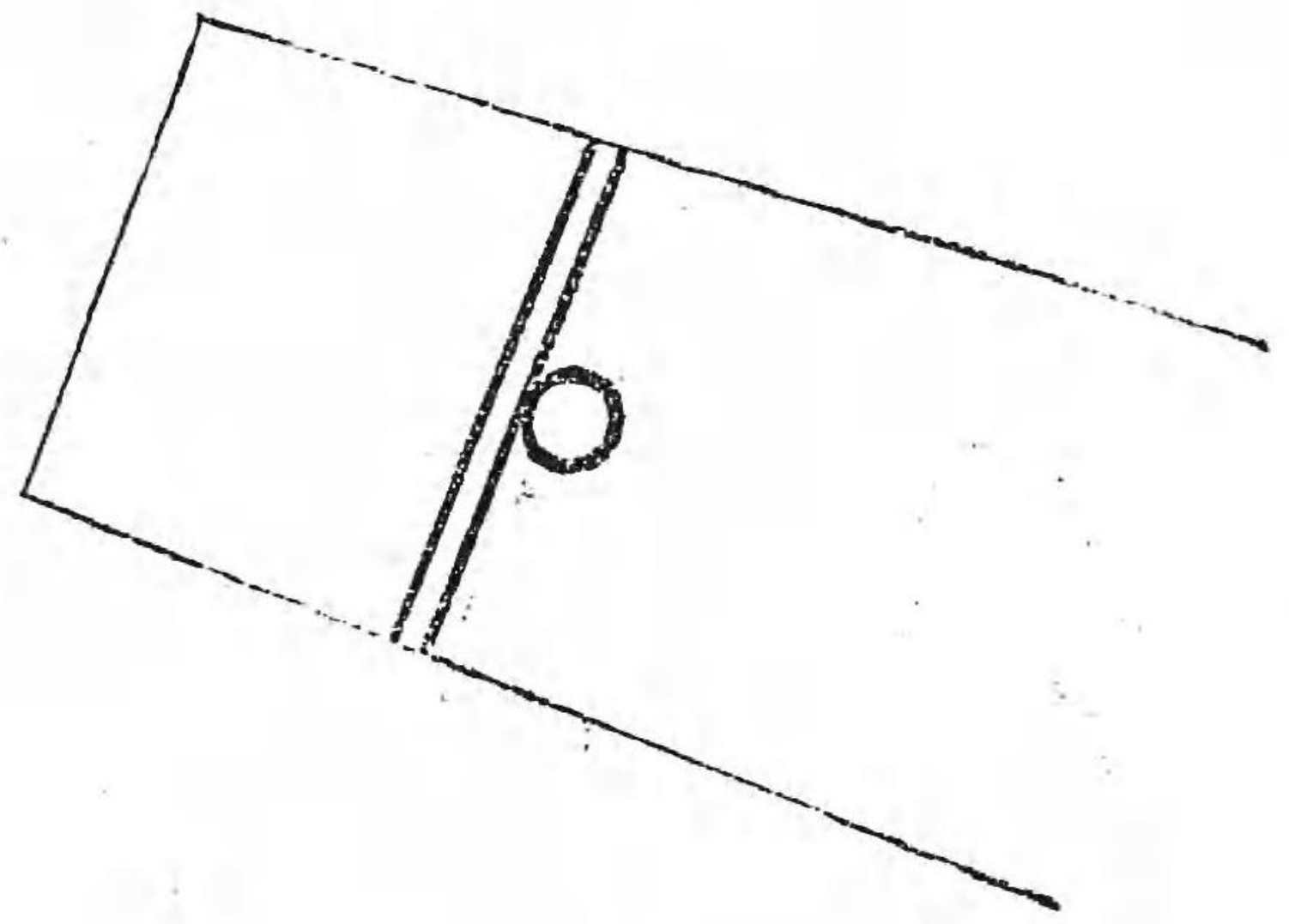


看守

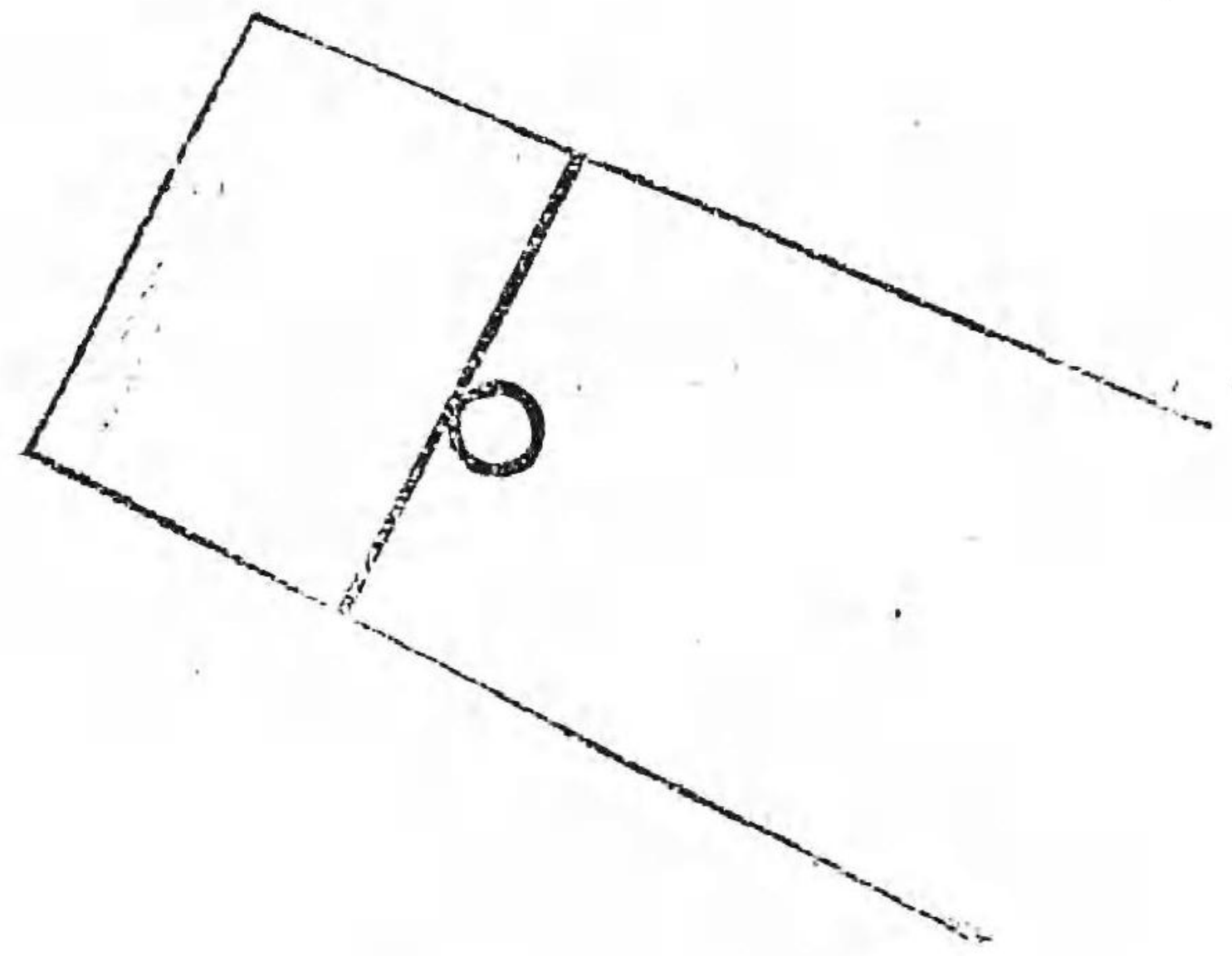


袖章

看守部長

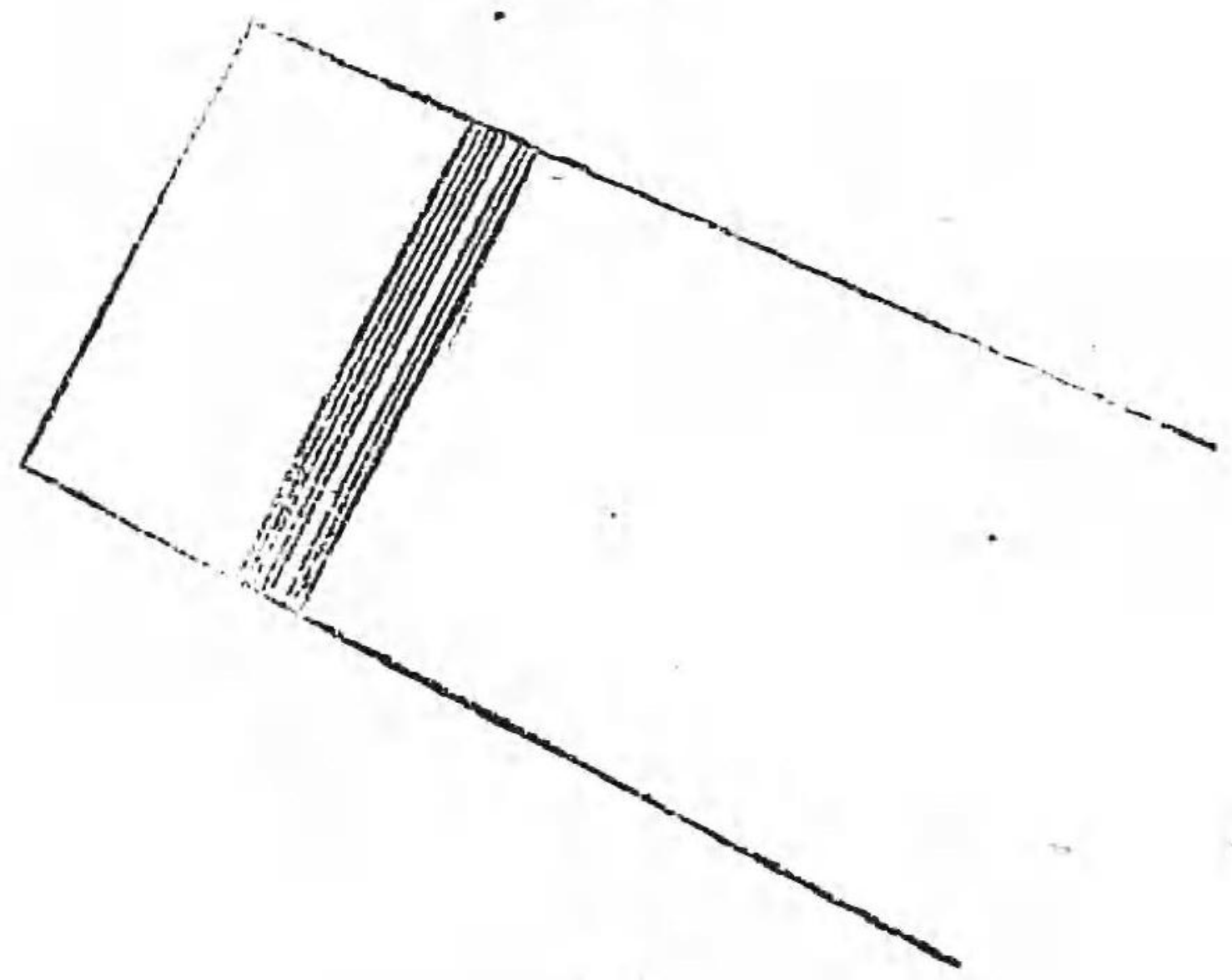


看守

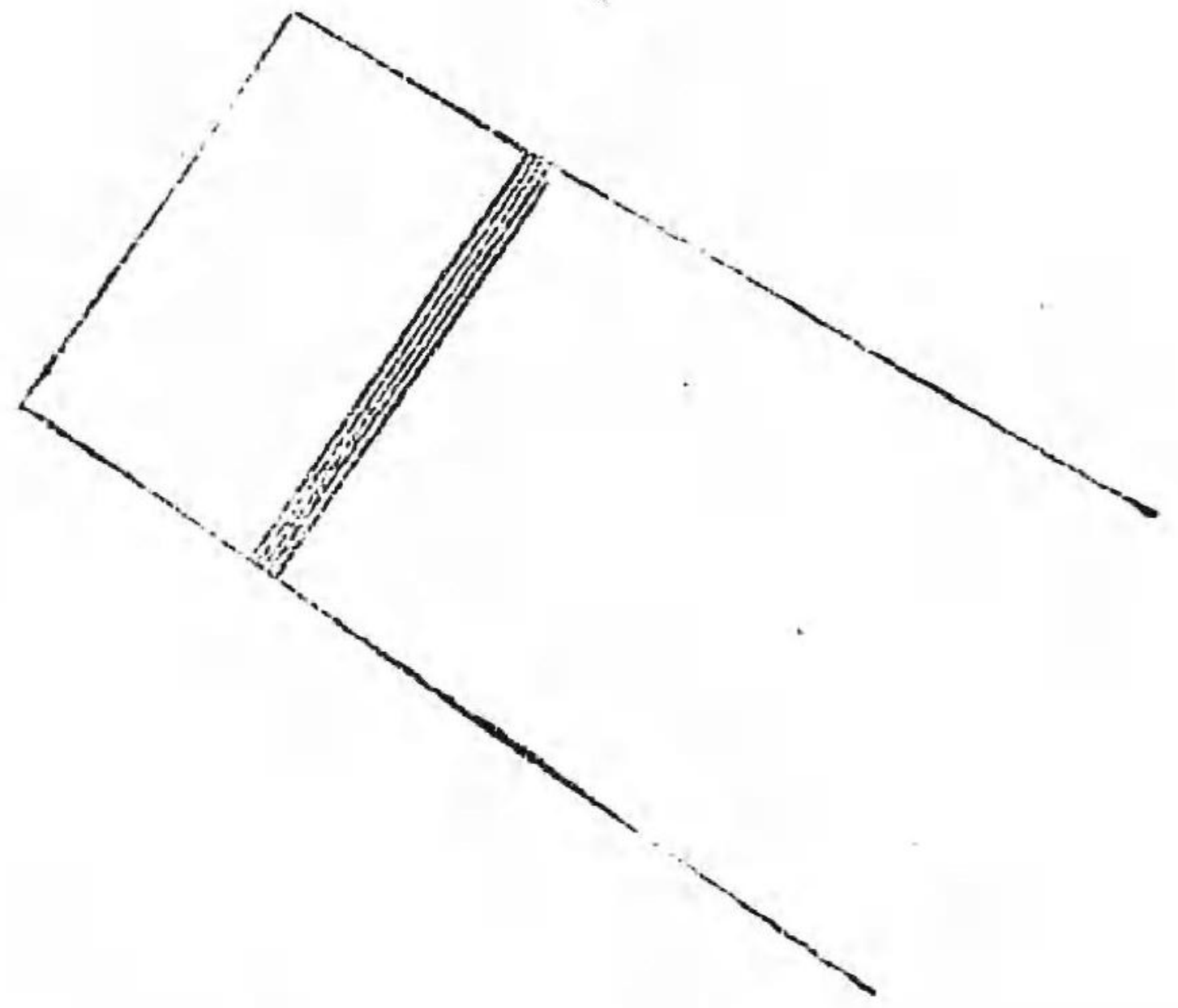


夏衣袖章

看守部長

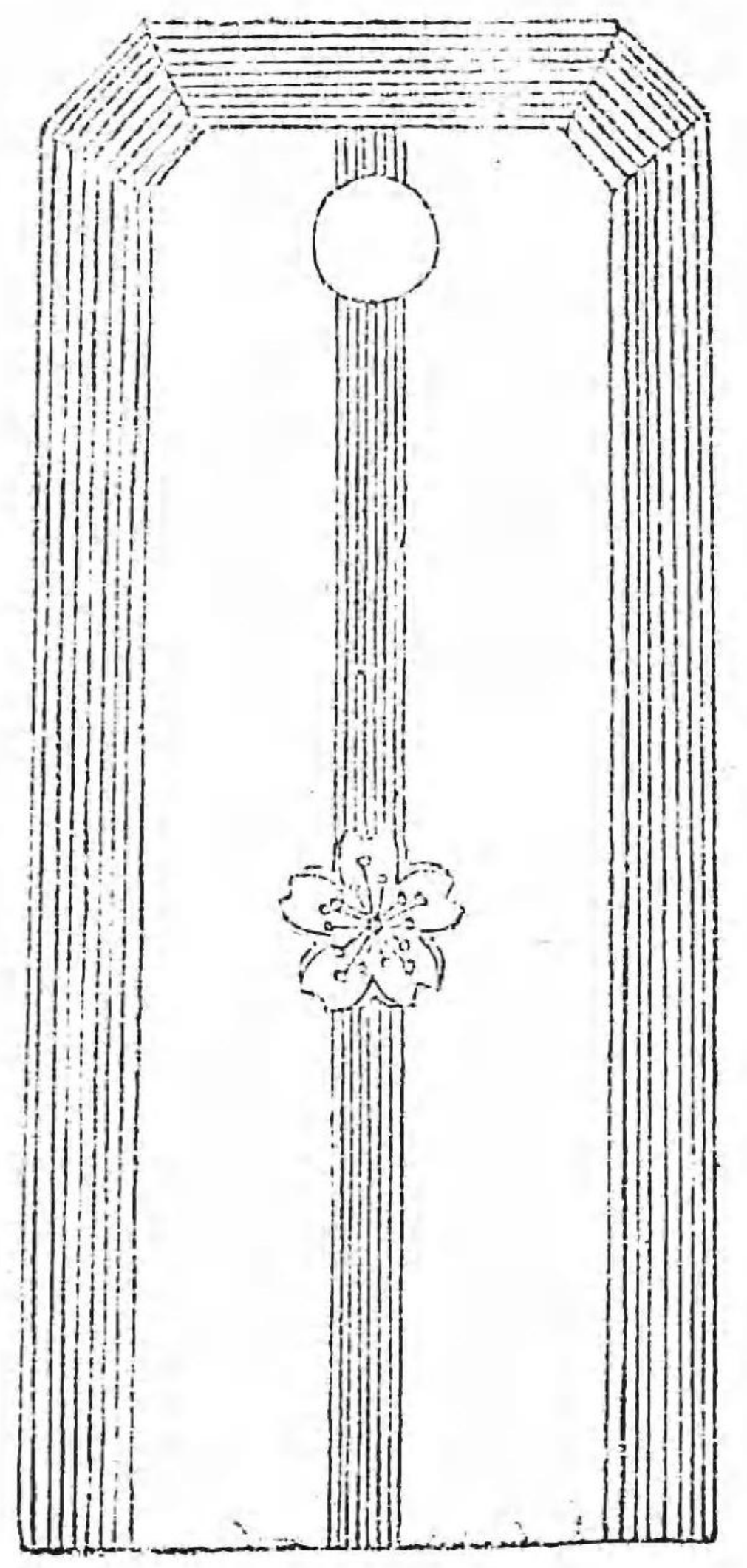


看守

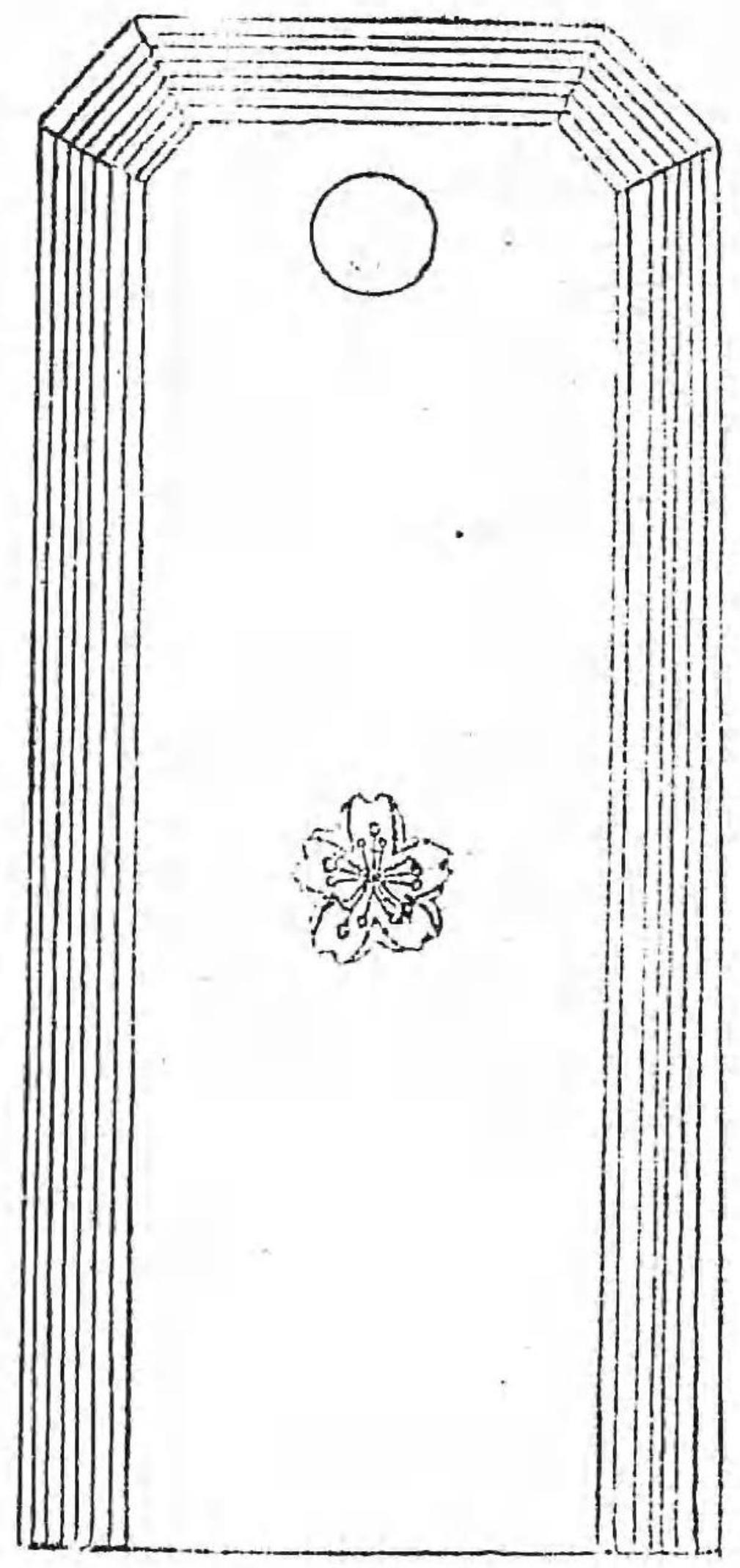


肩章

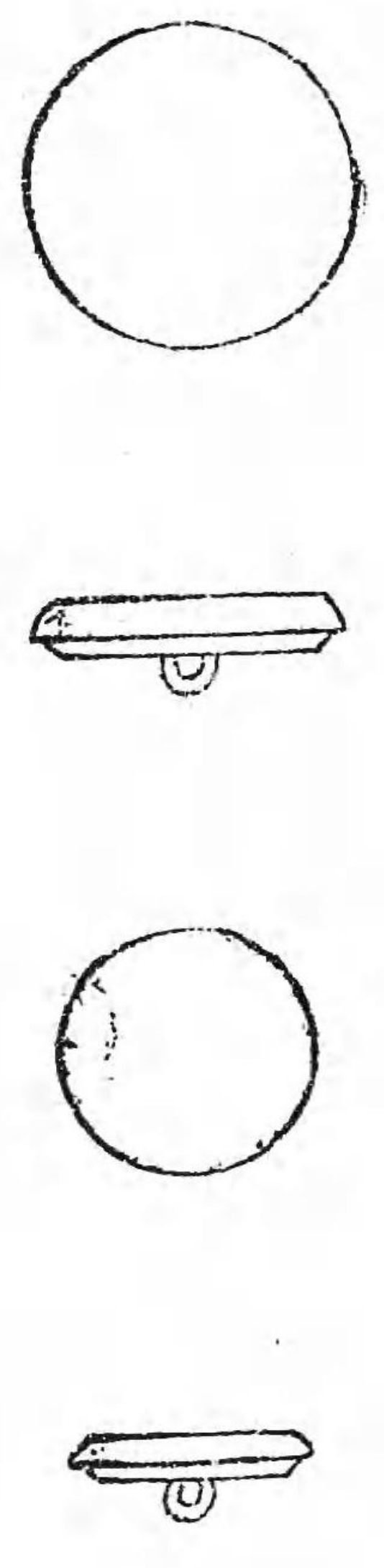
看守部長



看守

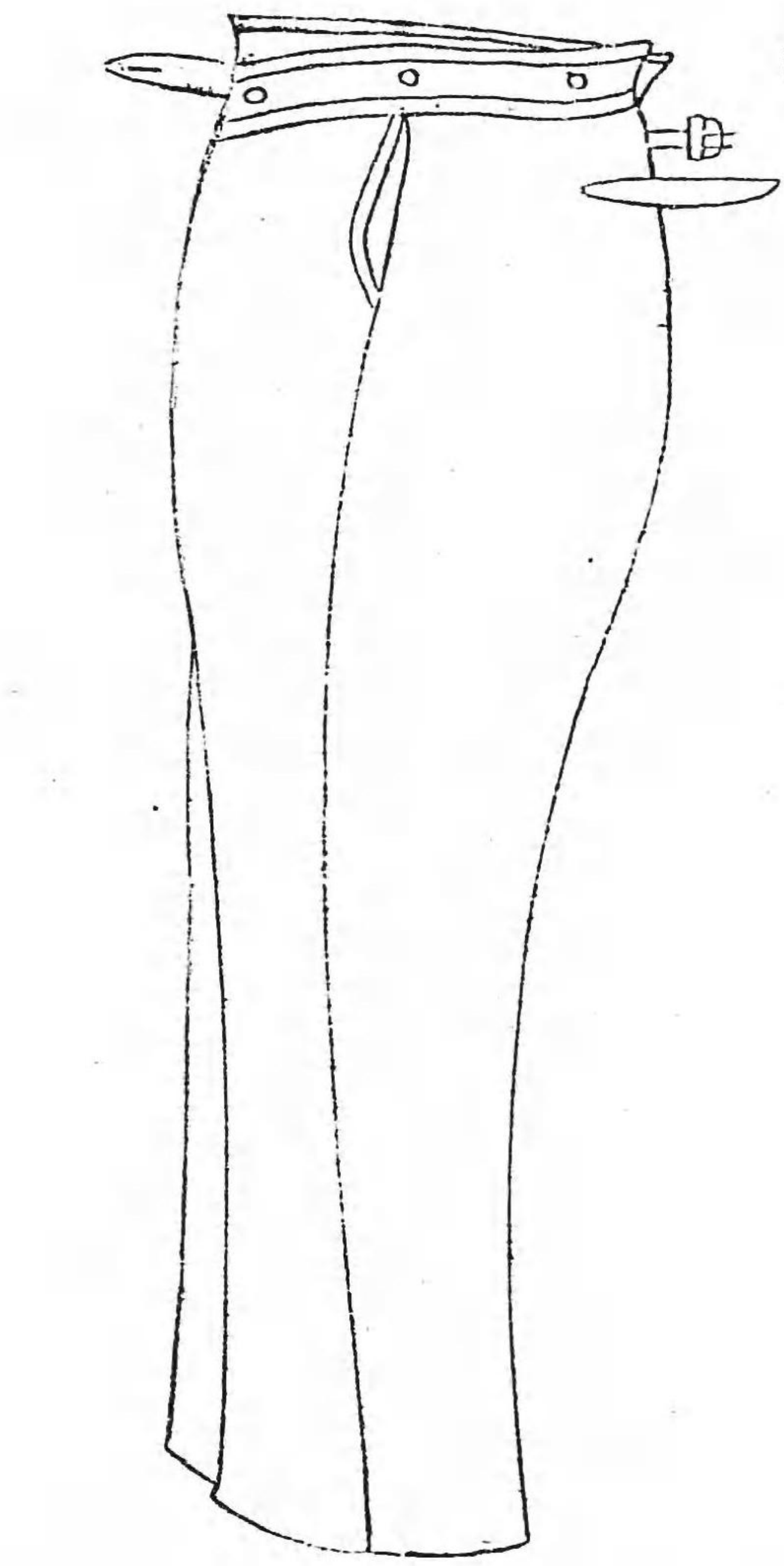


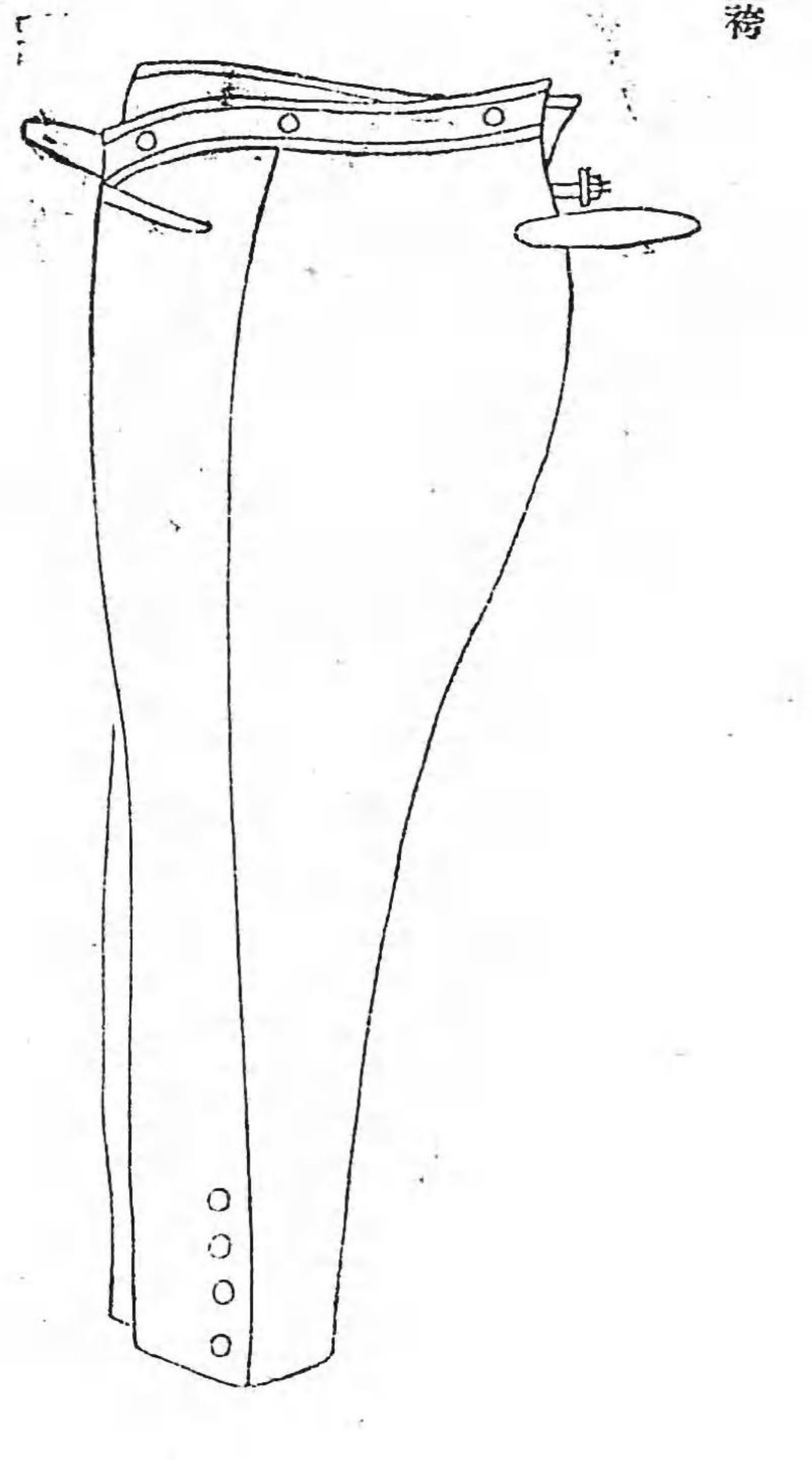
釦

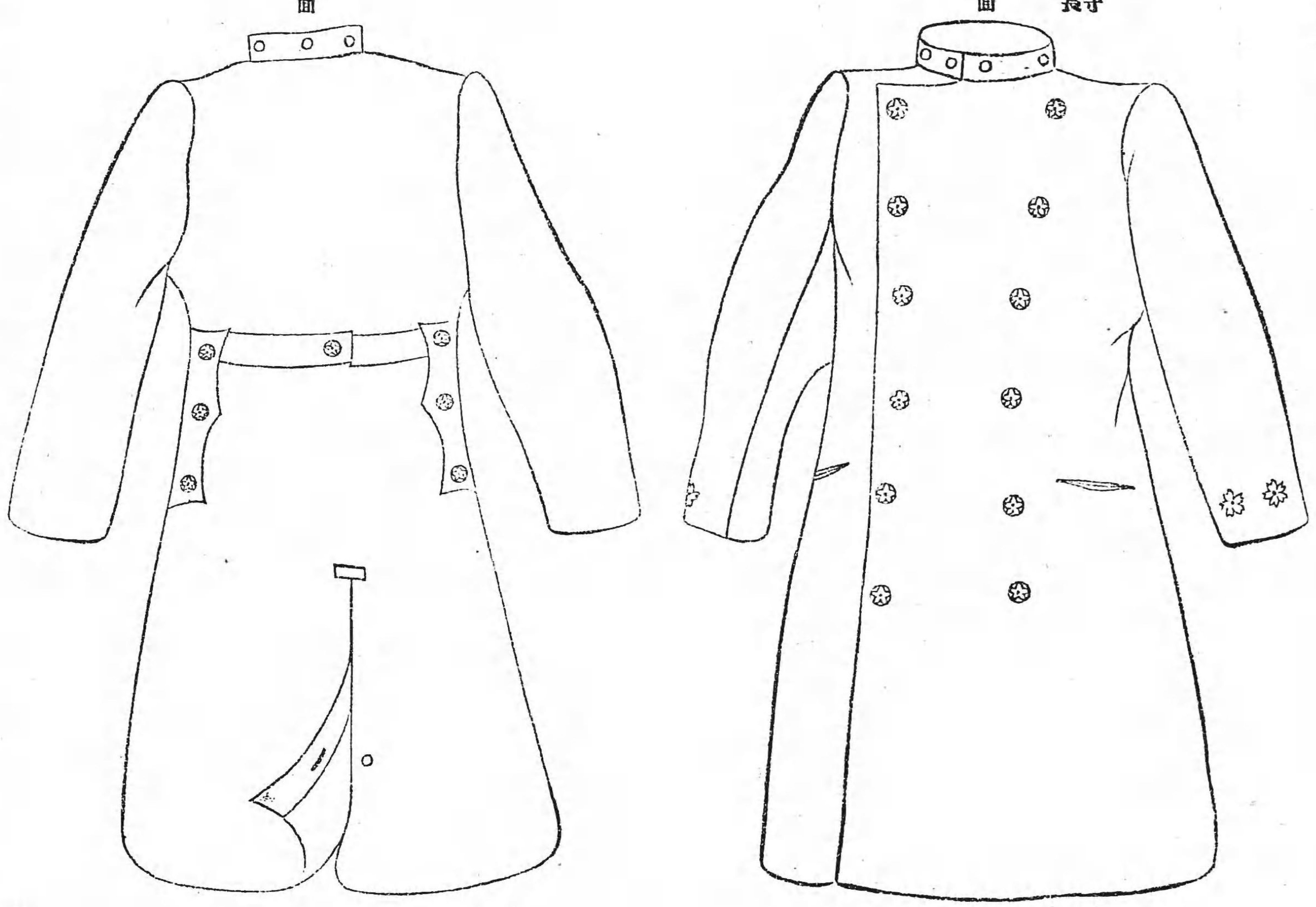


櫻花章

第7800号 本文


袴

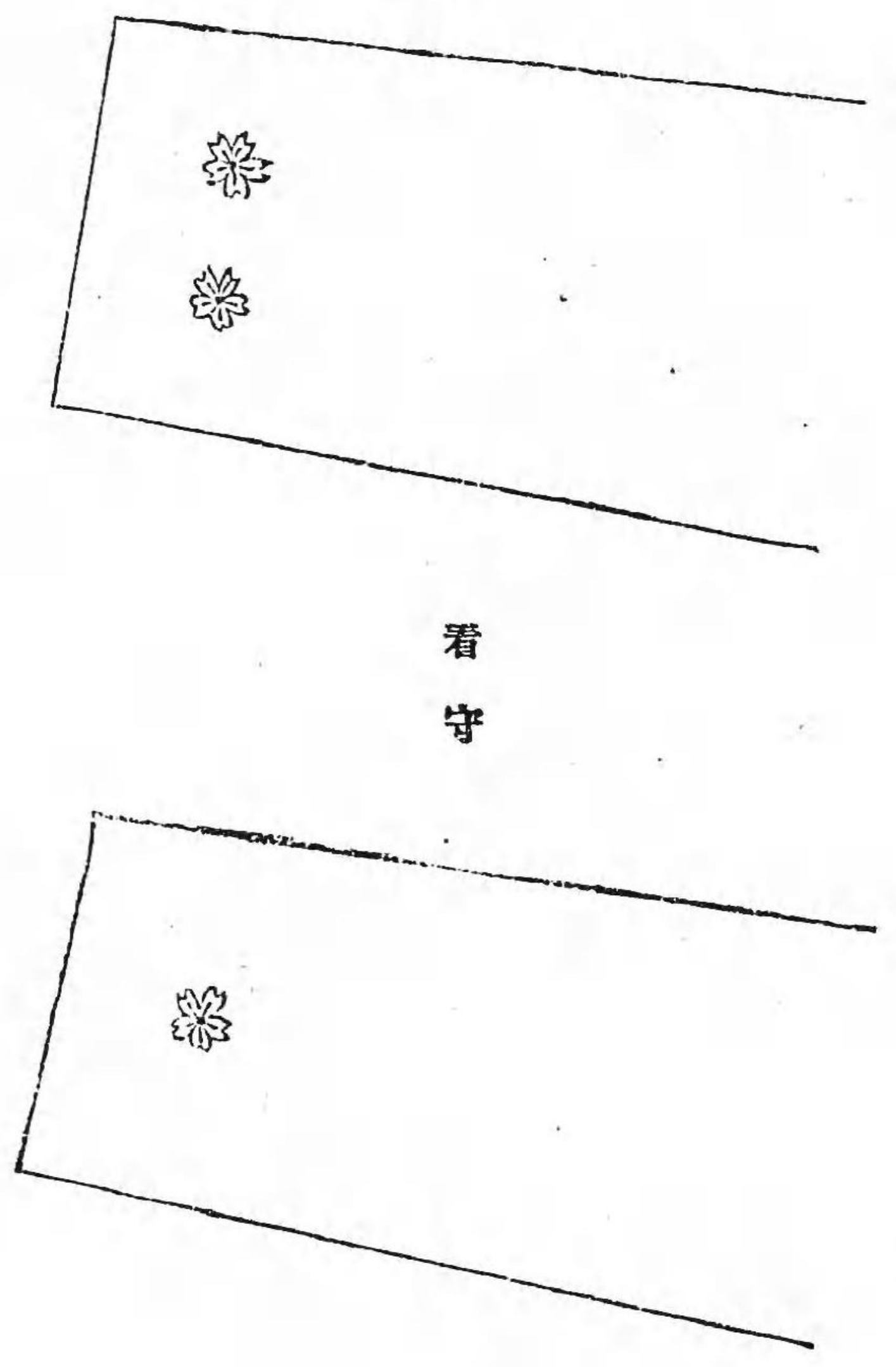

短袴


甲種外套

看守部長

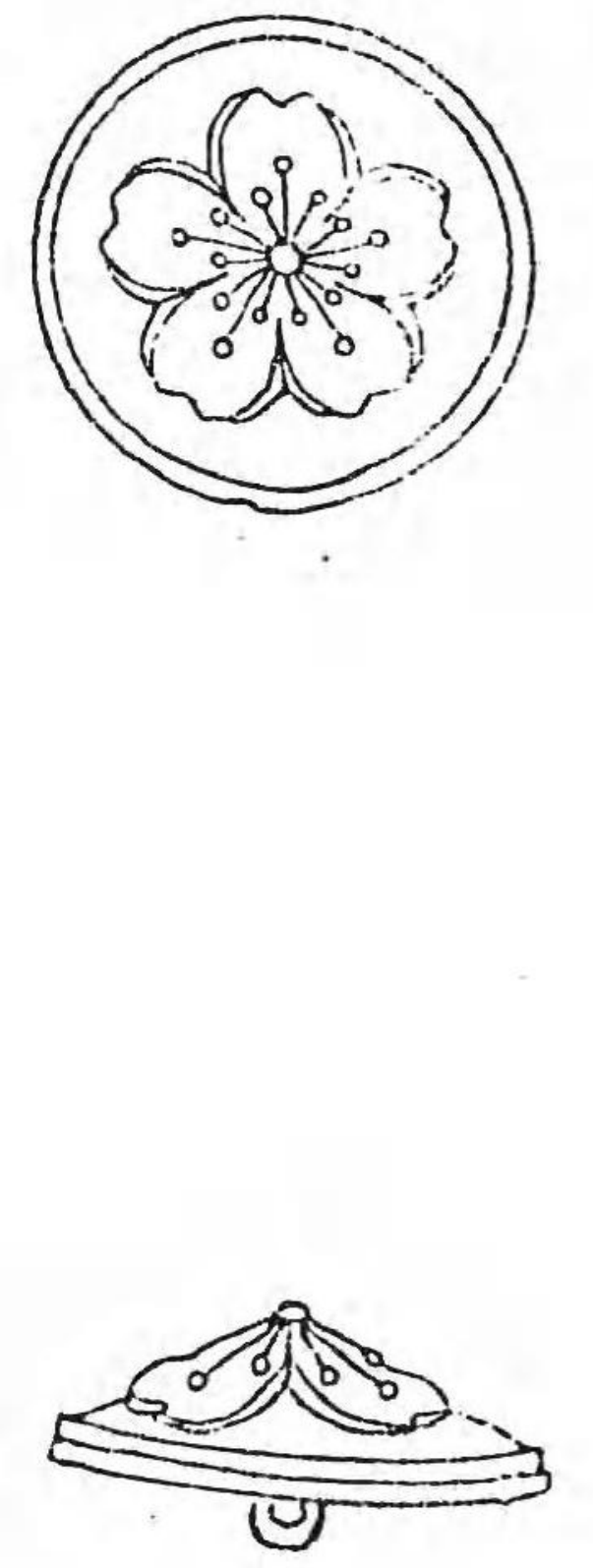
前面

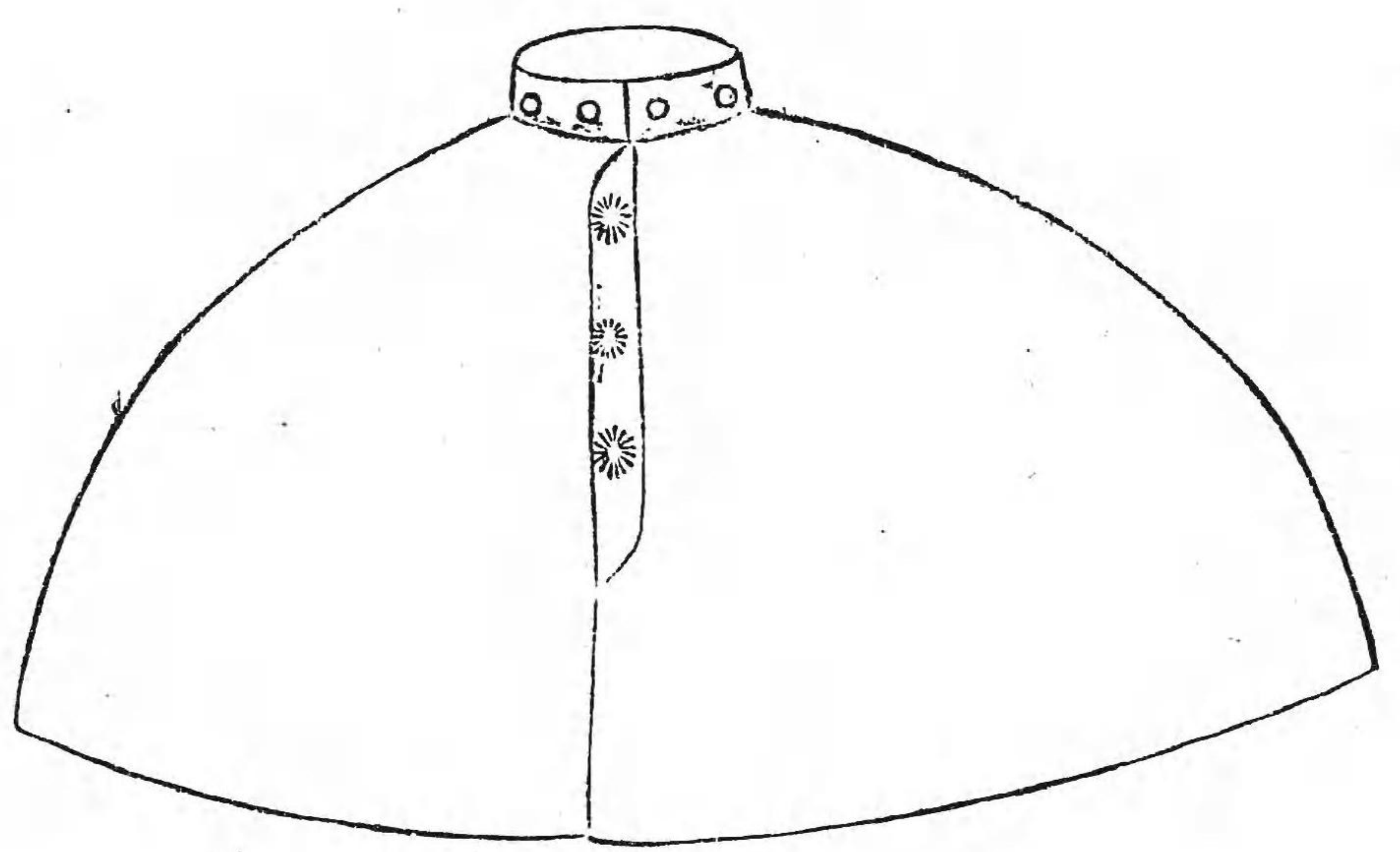
後面

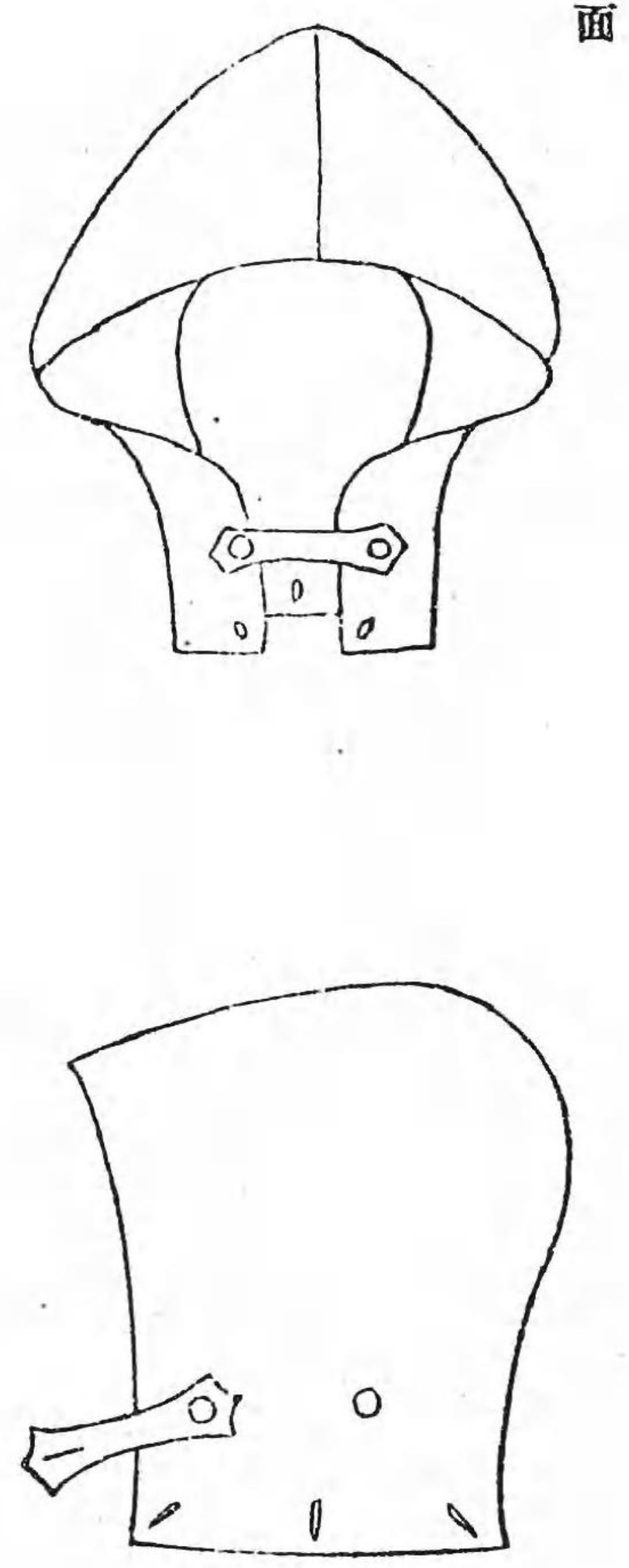

袖章

看守部長

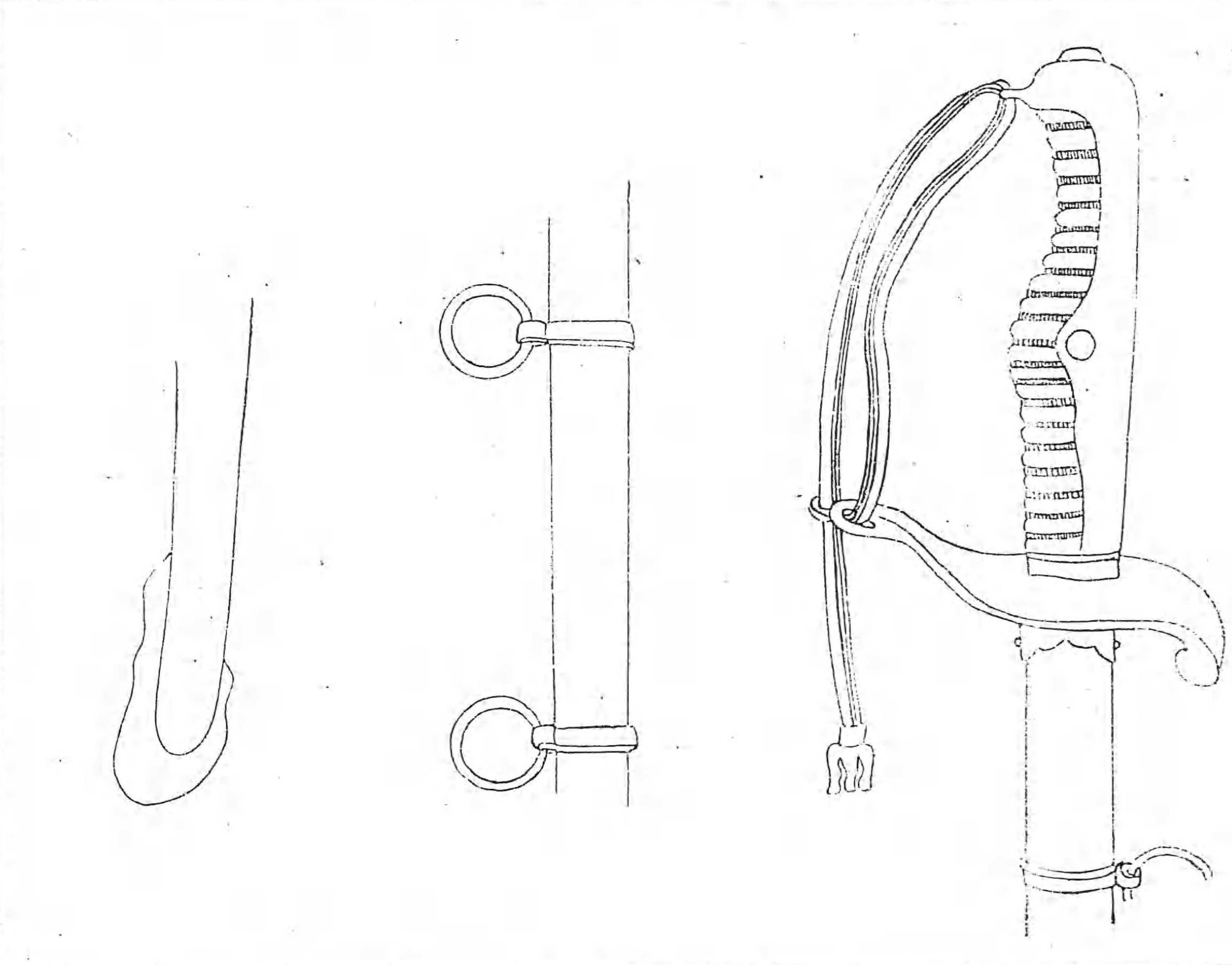
看守


外套釦

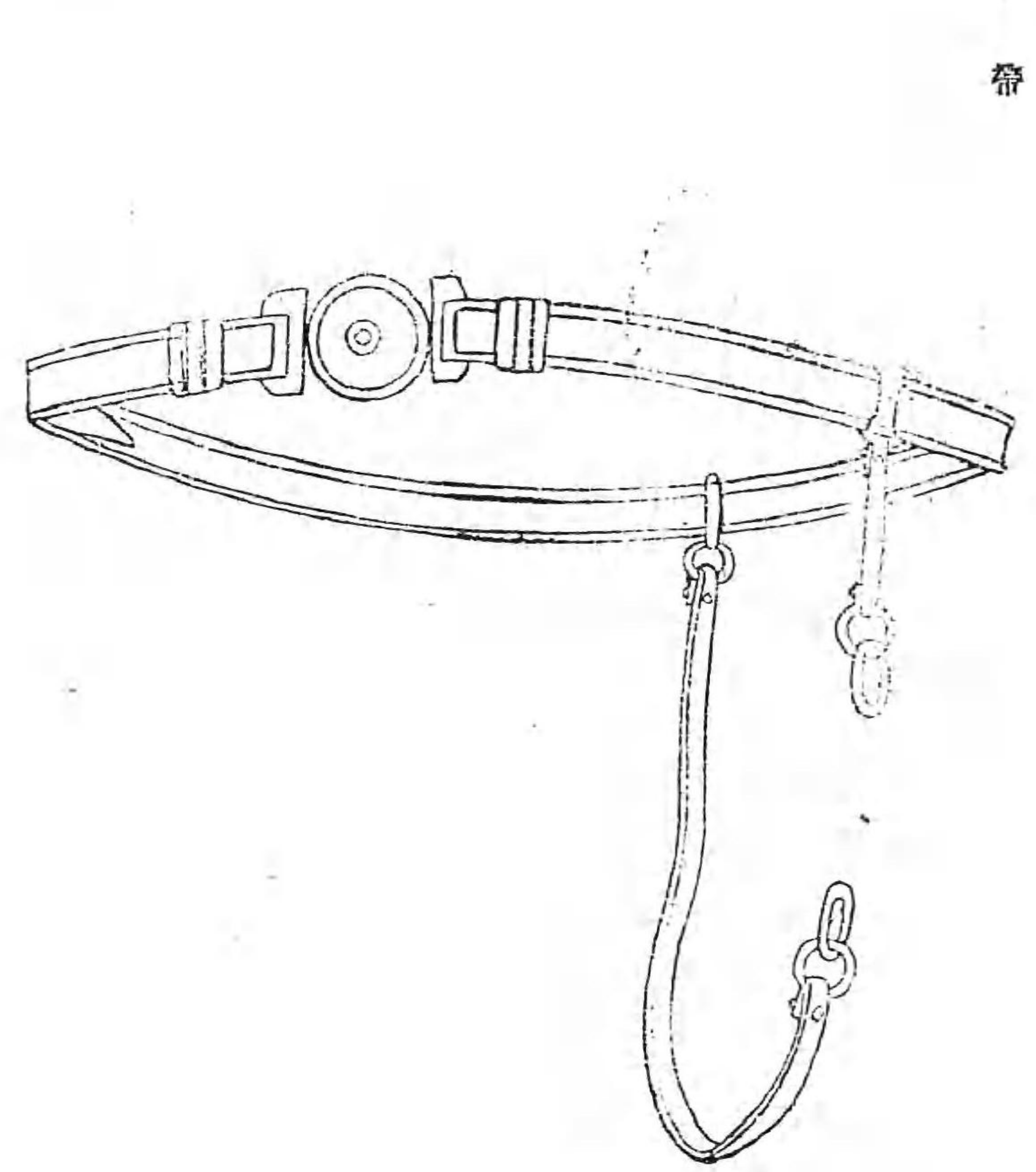

乙種外套


覆面

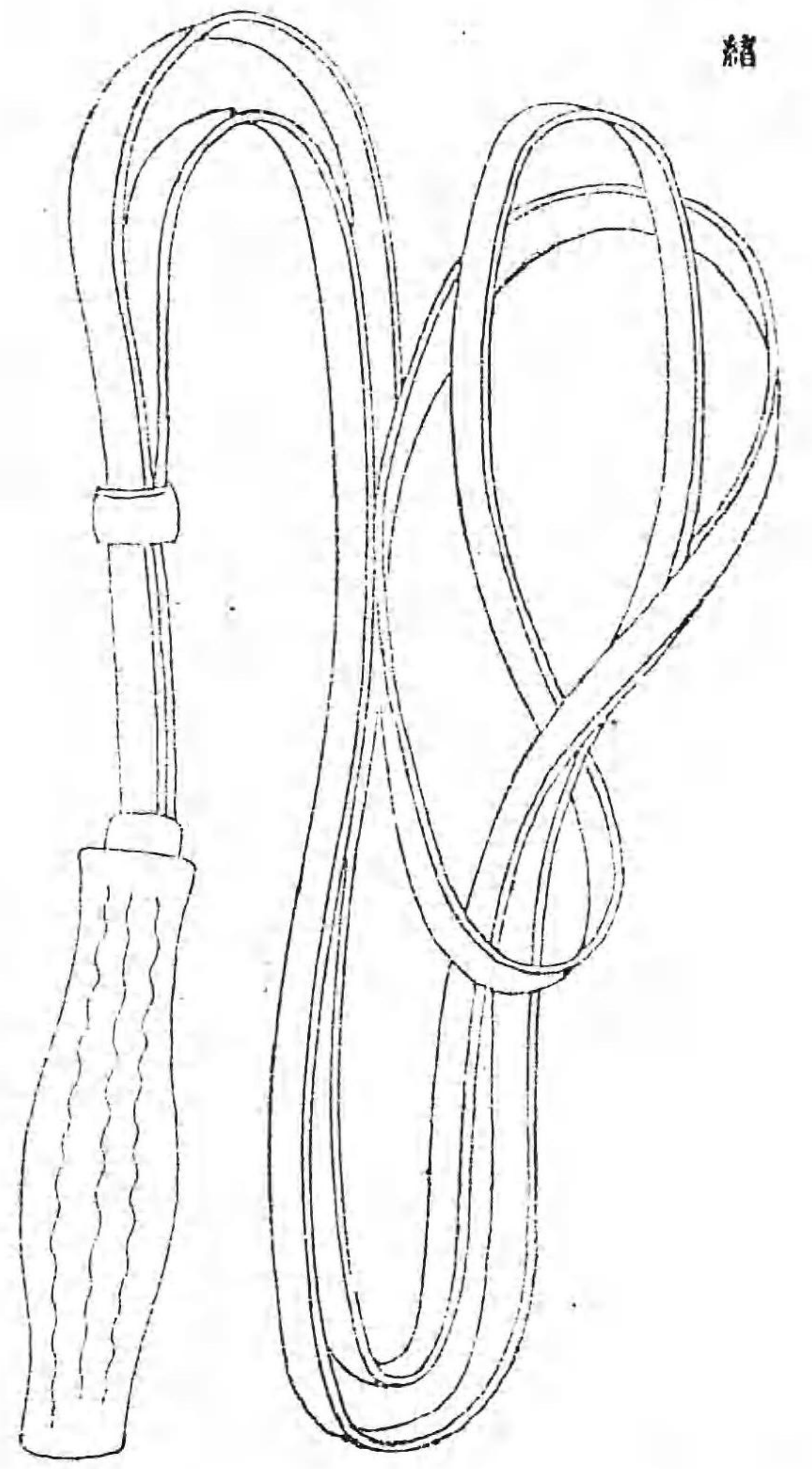
第7800号本文



刀



刀帶



刀緒

朕看守給與品及貸與品規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年六月二十五日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎
司法大臣 子爵岡部長職

勅令第百七十二號

看守給與品及貸與品規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外土地ノ狀況ニ依リ司法大臣ハ防寒具、脚絆又ハ「ゲートル」ヲ給與スルコトヲ得

第二條中「常緒」ヲ「刀緒」ニ改メ「一釦及櫻花章」及左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外必要アル場合ニハ拍車又ハ短袴ヲ貸與ス

附則

本令ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○省令

農商務省令第二十八號

度量衡法施行細則左ノ通改正ス

明治四十二年六月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武

度量衡法施行細則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ製作者ト稱スルハ度量衡器ノ製作ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ修覆者ト稱スルハ度量衡器ノ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ販賣者ト稱スルハ度量衡器ノ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

第二條 農商務大臣ニ出願又ハ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ營業所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ其工場所在地カ營業所所在地ノ地方長官ノ管轄ニ屬セサル場合ニ於テハ倚工場所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 地方長官出願ニ付處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テ工場ノ所在地カ其ノ管轄ニ屬セサルトキハ其ノ工場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ協議スヘシ

第二章 免許

第四條 度量衡器ノ製作又ハ修覆ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ工場ノ圖面ヲ添附シテ差出スヘシ

一 營業所及工場ノ位置
二 製作又ハ修覆セムトスル度量衡器ノ種類
三 製作又ハ修覆ノ用ニ供スル重ナル機械ノ名稱及員數

度量衡器ノ販賣ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ營業所ノ位置ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

前二項ノ願書ニハ度量衡法施行令第三條第一項及第二項ニ關スル證明書及法人ニ在リテハ定款ヲ添附スヘシ

第五條 行政官廳ニ於テ度量衡器ノ製作又ハ修覆ノ免許ヲ與ヘムトスルトキハ身元保證金ノ供託通告書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人供託通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ日附ヨリ三十日以內ニ身元保證金ヲ供託スヘシ

出願人前項ノ期間內ニ身元保證金ヲ供託セサルトキハ行政官廳ハ其ノ出願ヲ無效トス

第六條 出願人身元保證金ヲ供託シタルトキハ其ノ受領證ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ受領證ヲ受取リタルトキハ受取證ヲ出願人ニ交付シ其ノ受領證ヲ保管スヘシ

地方長官度量衡器ノ製作ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ對シ前項ノ受取證ヲ交付シタルトキ又ハ前條第二項ノ期間內ニ身元保證金ヲ供託セサル者アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 度量衡法施行令第四條第二項ニ依リ身元保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 地方債券
二 政府ニ於テ特ニ官吏ヲ置キ監視ヲ爲サシムル株式會社ノ株券又ハ債券

前項ノ有價證券ノ代用價格ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條　身元保證金ノ供託アリタルトキハ行政官廳ハ免許狀ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條　身元保證金ニ不足ヲ生シタルトキハ地方長官ハ塡補通告書ヲ供託者ニ送付スヘシ

供託者塡補通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ日附ヨリ二十日以內ニ其ノ不足額ヲ供託スヘシ

第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　製作者又ハ修覆者ニシテ營業所若ハ工場ノ位置ヲ變更シ又ハ工場ヲ新設シ販賣者ニシテ營業所ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

工場ヲ廢止シタルトキハ五日以內ニ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

第十一條　製作者、修覆者又ハ販賣者ノ相續人ニシテ度量衡法施行令第三條第一項ニ該當セサル者ハ被相續人ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

前項ニ依リ營業ヲ承繼シタル者ハ願書ニ免許狀、相續人タルコトヲ證明スヘキ戸籍謄本及度量衡法施行令第三條第一項及第二項ニ關スル證明書ヲ添ヘ相續ノ日ヨリ六十日以內ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ出願スヘシ

第十二條　製作者、修覆者又ハ販賣者ノ相續人被相續人ノ營業ヲ承繼セス若ハ承繼スルコトヲ得サルトキハ六十日以內ニ其旨ヲ行政官廳ニ屆出テ免許狀ヲ返納スヘシ但シ隱居ニ因ル相續ノ場合ニ於テ被相續人カ其ノ營業ヲ留保シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　免許狀ヲ汚損又ハ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ再下付ヲ行政官廳ニ出願スヘシ

氏名又ハ名稱ニ變更アリタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添ヘ遲滯ナク免許狀ノ更正ヲ行政官廳ニ出願スヘシ

第十四條　製作者、修覆者又ハ販賣者ノ法定代理人ニ變更アリタルトキハ新法定代理人ヨリ之ヲ證スル書面及度量衡法施行令第三條第二項ニ關スル證明書ヲ添ヘ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出ツヘシ

法定代理人其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添ヘ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出ツヘシ

第十五條　製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ營業ヲ廢止シ又ハ營業免許ノ消滅シタルトキハ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出テ免許狀ヲ返納スヘシ

第十六條　製作者又ハ販賣者其營業ヲ廢止シ又ハ營業免許カ消滅シ若ハ第十二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ營業上所持シタル度量衡器ノ殘存スルモノアルトキハ其ノ處分ノ方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　製作者、修覆者及販賣者ハ其ノ製作、輸入、移入又ハ修覆シタル度量衡器ナルコトヲ表示スル爲營業所所在地ノ地方名ヲ附記シタル記號ヲ定メ之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ同一若ハ類似ノ記號ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條　製作者又ハ修覆者ハ其ノ工場外ニ於テ度量衡器ノ製作又ハ修覆ヲ爲スコトヲ得ス但シ土地又ハ建物等ニ取付ケテ使用スルモノ其ノ他特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ工場外ニ於テ製作又ハ修覆ヲ爲サムトスルトキハ其ノ製作又ハ修覆ヲ爲ス場所ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　製作者又ハ販賣者ハ其ノ營業所外ニ於テ度量衡器ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ス但シ博覽會、共進會又ハ其ノ賣店ニ於テ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ營業所外ニ於テ販賣セムトスルトキハ其ノ販賣ヲ爲ス場所ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條　製作者、修覆者又ハ販賣者度量衡法施行令第九條但書ニ依リ許可ヲ受ケタル度量衡器ヲ輸出、移出又ハ販賣セムトスルトキハ其ノ度量衡器ノ種類、物質、箇數、讓受人ノ住所氏名若ハ仕向地及荷受人ノ住所氏名、輸出若ハ移出ヲ爲ス場所及其ノ年月日ヲ記載シ之ニ許可書ノ謄本ヲ添ヘ營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官及輸出若ハ移出ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　販賣者度量衡法施行令第六條第二項ニ依リ修覆ノ業ヲ營マムトスルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ニ依リ修覆ノ業ヲ營ム者ハ秤架竝一厘乃至五貫及一「センチグラム」乃至五百「グラム」ノ各種ノ分銅ヲ備付クヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ一「センチグラム」乃至五百「グラム」ノ分銅ハ之ヲ備付ケサルコトヲ得

第二十二條　地方長官ハ隨時前條第二項ニ依リ販賣者ノ備付ケタル分銅ヲ檢査シ其ノ器差度量衡法施行令第三表ノ公差ノ二分ノ一ヲ超エタルモノニ付テハ其使用ヲ停止シ又ハ修覆ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　製作者、修覆者又ハ販賣者桿秤ノ取緒、皿紐、鉤紐又ハ錘絲ニシテ金屬ニ係ラサルモノノミノ修覆ノ依賴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ桿秤カ第四十九條ノ構造ニ適合セス又ハ其ノ器差度量衡法施行令第十六條ニ規定スル公差ヲ超ユルモノナルトキハ其ノ修覆ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ依リ修覆ヲ爲ササリシ桿秤ニ付テハ其ノ修覆ヲ依賴シタル者ノ住所氏名、其ノ桿秤ノ秤量、箇數、修覆ヲ爲ササリシ事由及依賴者ニ還付シタル年月日ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三章　構造

第二十四條　度量衡法施行令第十條ノ度量衡器ノ構造ハ本章ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　度器又ハ枡ノ目盛ハ度又ハ量ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍又ハ其ノ倍數ノ二分ノ一、十分ノ一、百分ノ一若ハ千分ノ一ト爲スヘシ但シ縮尺ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

秤ノ目盛ハ衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍又ハ其ノ倍數ノ十分ノ一、十倍若ハ百倍ト爲スヘシ但シ斤ノ名稱ニ依ルモノニ付テハ其ノ四分ノ一、八分ノ一又ハ十六分ノ一ト爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ之ヲ「ヤード、ポンド」法度量衡器ニ適用セス

第二十六條　度量衡器ニハ損傷ナク且損傷及伸縮シ難キ材料ヲ用ウヘシ

第二十七條　度量衡器ニ爲ス目盛及表記ハ容易ニ消滅セサル方法ニ依リ明瞭ニ之ヲ附スヘシ

第二十八條　第三十七條ニ依リ檢定證印ヲ附スヘキ度量衡器ノ部分ハ附印ニ妨ナキ構造ト爲シ若シ其ノ部分カ附印シ難キ物質ナルトキハ其ノ部分ニ容易ニ離脫セサル方法ニ依リ眞鍮片ヲ緊著スヘシ

第二十九條　度量衡器ニ表記スヘキ度量衡ノ名稱ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ略字ヲ用ウルコトヲ得

「メートル」法度量衡

	名稱	略字
度	「ミリメートル」	粍又ハMM
	「センチメートル」	糎又ハCM
	「デシメートル」	粉又ハDM
	「メートル」	米又ハM
	「キロメートル」	粁又ハKM
量	十分ノ一「センチリットル」	CC
	「センチリットル」	竰又ハCL
	「デシリットル」	竕又ハDL
	「リットル」	立又ハL
衡	「ミリグラム」	瓱又ハMG
	「センチグラム」	甅又ハCG
	「デシグラム」	瓰又ハDG
	「グラム」	瓦又ハG
	「キログラム」	瓩又ハKG

「ヤード、ポンド」法度量衡

	名稱	略字
度	「インチ」	吋又ハin
	「フート」	呎又ハft
	「ヤード」	碼又ハyd
	「チェーン」	鎖
	「マイル」	哩
衡	「グレーン」	gr
	「オンス」	oz
	「ポンド」	封度又ハlb
	「トン」	噸

第三十條　製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ製作、輸入、移入又ハ修覆シタル度量衡器ニハ第十七條ニ依リ屆出テタル記號ヲ表記スヘシ但シ板狀分銅及修覆シタル錘若ハ增錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ記號ヲ表記スル場合ニ於テ其ノ輸入又ハ移入シタルモノニハゆノ文字ヲ記號ニ附記スヘシ

第三十一條　度量衡器ノ構造ハ前六條ノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

度　器

一　度器ノ材料ハ曲リ尺ニ在リテハ彈性アル木又ハ金屬直尺、縮尺及疊尺ニ在リテハ玻璃、象牙、骨、「セルロイド」又ハ彈性アル竹、木若ハ金屬卷尺ニ在リテハ鋼鐵、麻又ハ竹鏈尺ニ在リテハ鋼鐵ヲ用ウヘシ但シ「セルロイド」ハ竹又ハ木ニ緊著スル場合ニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得

二　木製又ハ竹製ノ度器ノ厚ハ其ノ最モ厚キ部分ニ於テ疊尺、卷尺及縮尺

第7800号　本文

ニ在リテハ五厘以上其ノ他ノモノニ在リテハ全長一尺以上、三「デシメートル」以上、鯨尺一尺以上又ハ一「フート」以上ノモノハ七厘以上全長二尺以上、六「デシメートル」以上、鯨尺二尺以上又ハ二「フート」以上ノモノハ一分二厘以上ト爲スヘシ

三　徑ヲ度ルニ用ウル直尺ノ本枝、副枝及曲リ尺ノ角度ハ之ヲ直角形ト爲スヘシ

四　麻製卷尺ハ其ノ全長十八尺、五「メートル」、鯨尺十八尺又ハ十八「フート」ヲ超エタルモノニ在リテハ十八尺又ハ五「メートル」、鯨尺十八尺又ハ十八「フート」ニ付五百匁ノ重量ヲ以テ張力ヲ加フルモ三分五厘以上ノ伸張ヲ生セサル構造ト爲スヘシ

五　分離シ得サル構造ノ疊尺ノ連接部ハ容易ニ緩ミ難キ構造ト爲スヘシ

六　鏈尺及線狀ノ卷尺ノ目盛又ハ目盛ノ標識ハ離脫セサル方法ニ依リ金屬片ヲ附著シテ之ヲ爲スヘシ

七　縮尺ニハ其ノ目盛ノ表示スル値ヲ其ノ目盛ニ縮尺以外ノ度器ニハ其ノ全長ヲ其ノ目盛ノ各段ノ一端ニ表記スヘシ但シ各段ノ目盛ノ表示スル値カ同一ナルトキ又ハ其ノ全長カ同一ナルトキハ之ヲ其ノ中央部一箇所ニ表記スヘシ

八　分離シ得ヘキ構造ノ度器ニハ番號ヲ附スヘシ其ノ番號ハ各部分同一ナルコトヲ要ス

量器

桝及斗概

一　桝ノ材料ニハ金屬、陶器、磁器、玻璃、檜、椹、羅漢柏又ハ姫子松ヲ用ウヘシ但シ全量五勺未滿又ハ一「デシリットル」未滿ノモノニ在リテハ木材木製液用桝ニシテ漆塗リニ非サルモノニ在リテハ椹、羅漢柏、姫子松又ハ板目ノ板ヲ用ウルコトヲ得ス

二　斗概ノ材料ニハ櫻又ハ樫ノ如キ堅キ木材ヲ用ウヘシ

三　木製液用桝ノ材料ハ液類ノ浸透シ難キモノヲ用ウヘシ

四　玻璃製桝ノ材料ニハ溫度ノ變化ニ依リ容易ニ破損シ難キモノ及明瞭ニ水際ヲ視定シ得ルモノヲ用ウヘシ

五　木製桝ノ材料ノ厚ハ全量二升以上又ハ五「リットル」以上ノモノニ在リテハ五分以上（雜用桝ヲ除ク）全量一升以下又ハ二「リットル」以下ノモノニ在リテハ二分五厘以上全量二合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノモノニ在リテハ二分以上ト爲スヘシ

六　木製方形桝ニハ剝合セサル板ヲ用ウヘシ

七　木製桝ノ木材ハ同種ノモノヲ用ウヘシ但シ穀用又ハ雜用ノモノノ底板ハ此ノ限ニ在ラス

八　五合以上又ハ一「リットル」以上ノ金屬製桝ノ厚ハ三厘以上ト爲スヘシ但シ材料ヲ二重ト爲ス場合ニ在リテハ各其ノ厚一厘五毛以上ノモノヲ用ウルコトヲ得

九　桝ノ形狀ハ圓壔形ト爲スヘシ但シ陶器、磁器又ハ玻璃製ノモノニ在リテハ圓錐形、全量一升以下ノ木製ノモノニ在リテハ方形ト爲スコトヲ得

十　玻璃製以外ノ圓壔形桝ノ全量ヲ示ス位置ニ於ケル徑及深ハ之ヲ同一ト爲スヘシ但シ徑ノ寸法ハ一分以下又ハ二「ミリメートル」以下ヲ增減シ及全量一升以下又ハ二「リットル」以下ノ金屬製桝ノ徑ハ深ノ二分ノ一全量二合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノ金屬製桝、陶器桝及磁器桝ノ徑ハ深ノ二倍ト爲スコトヲ得

十一　目盛ナキ玻璃製ノ圓壔形桝ノ徑及深ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用ス

十二　目盛アル玻璃製桝、目盛ナキ玻璃製ノ圓錐形桝、陶器若ハ磁器ノ圓錐形桝ノ徑ハ全量ヲ表示スル目盛ノ位置ニ於テ其ノ深ヨリ大ニスルコトヲ得ス

十三　方形桝ノ方ノ寸法ハ左ノ定限ニ依ルヘシ但シ其ノ寸法ハ五厘以下ノ增減ヲ爲スコトヲ得

種類	方ノ寸法
五勺	一寸六分
一合	二寸一分
二合	二寸八分七厘
二合五勺	三寸五厘
五合	三寸九分五厘
一升	四寸九分

十四　斗概ノ寸法ハ左ノ定限ニ依ルヘシ

種類	小			中			大		
	長	徑又ハ厚	幅	長	徑又ハ厚	幅	長	徑又ハ厚	幅
圓壔狀	三寸乃至五寸	七分乃至八分	―	六寸乃至八寸五分	一寸乃至一寸一分	―	一尺二寸乃至一尺四寸	一寸九分乃至二寸一分	―
板狀	三寸乃至五寸	二分乃至三分	九分乃至一寸一分	六寸乃至八寸五分	四分乃至五分	一寸九分乃至二寸一分	一尺二寸乃至二尺	五分乃至七分	二寸九分乃至三寸五分

十五　桝ノ口緣、側面及底部ハ容易ニ變形セサル構造ト爲シ其ノ口緣ヲ以テ全量ト爲スモノニ在リテハ其ノ口緣ハ之ヲ平滑ト爲スヘシ

十六　銅製又ハ銅ノ合金製ノ桝及鐵製桝ハ其ノ內面ニ錫、「ニッケル」、「アルミニューム」又ハ琺瑯ヲ鍍著スヘシ

十七　木製穀類用桝ハ其ノ全量ヲ一斗以下又ハ二十「リットル」以下ト爲スヘシ

十八　全量五升以上又ハ十「リットル」以上ノ木製圓壔形桝ノ側板又ハ底板ヲ繼合ハストキハ合釘ヲ用ウヘシ

十九　木製圓壔形穀類用桝ノ口緣ヨリ外側ノ上部ニハ容易ニ離脫セサル方法ニ依リ繼目ナキ鐵板ヲ被ヒ其ノ底板ヲ嵌メ込ミタル位置ニ於ケル外側ニハ鐵帶ヲ緊束シ側板ヲ通シテ底板ニ之ヲ釘著シ全量五升以上又ハ十「リットル」以上ノモノニ在リテハ尙其ノ底ノ外面ニハ繼目ナキ二箇ノ鐵帶ヲ交叉セシメ其ノ各鐵帶ノ兩端ハ外側ヲ通シテ其上部ニ於ケル鐵板ノ下ニ挿入シテ之ヲ緊著シ又ハ之ト同等以上ノ耐力ヲ保チ得ヘキ方法ニ依リ底部ヲ堅牢ナル構造ト爲スヘシ

二十　方形桝ノ口緣ハ鐵板ヲ以テ之ヲ被ヒ其ノ鐵板ノ一端ハ之ヲ四隅ノ外側ニ折曲ケテ緊著シ其ノ口緣ノ四隅ニ於ケル鐵板ノ接觸部ハ堅牢ニ之ヲ嵌接シ其ノ全量一升ノモノニ在リテハ尙鐵帶ヲ四隅ニ於ケル外側ヲ通シテ底部ニ折曲ケ之ヲ緊著スヘシ

二十一　前二號ノ鐵緣又ハ鐵帶ノ厚ハ全量一斗以下又ハ二十「リットル」以下ノモノニ在リテハ鐵緣五厘以上鐵帶三厘以上全量二升以下又ハ五「リットル」以下ノモノニ在リテハ鐵緣四厘以上鐵帶二厘以上全量二合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノモノニ在リテハ鐵緣三厘以上鐵帶二厘以上ト爲スヘシ

二十二　鐵緣又ハ鐵帶ヲ附著スル爲螺旋釘ヲ用ウルトキハ捩戾シ難キ構造ト爲スヘシ

二十三　金屬製桝、陶器桝又ハ磁器桝ニハ其ノ內面ニ目盛ヲ爲スコトヲ得但シ金屬製桝ノ全量以外ノ目盛ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二十四　金屬製又ハ木製ノ液用桝ニハ其ノ側板ニ幅一寸以上ノ玻璃板ヲ挿入シテ之ニ目盛ヲ爲シ又ハ堅牢ナル構造ニ依リ玻璃管ヲ連結シ之ニ目盛ヲ爲スコトヲ得

二十五　桝ニ玻璃管ヲ連結シテ目盛ヲ爲シタル場合ニ在リテハ玻璃管以外ノ部分ノ徑及深ハ其ノ桝ノ全量ニ付第十號ノ寸法ヲ下ラサルコトヲ要ス

二十六　桝ノ底部ニ排出口ヲ設ケタルモノニ在リテハ零位ヲ表示スル目盛ヲ附スヘシ

二十七　全量五合以上又ハ一「リットル」以上ノ桝ノ全量ノ目盛ハ其ノ全周又ハ其ノ周ノ三分ノ一毎ニ之ヲ附スヘシ但シ水平ヲ定ムル裝置アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二十八　全量五合未滿又ハ一「リットル」未滿ノ桝ノ全量ノ目盛ハ其ノ全周ノ五分ノ一以上ニ之ヲ附スヘシ

二十九　桝ノ最小目盛間ノ距離ハ一分以上ト爲スヘシ

三十　桝ニハ注口、把手又ハ趾ヲ附スルコトヲ得其ノ注口ヲ附スル場合ニ在リテハ注口ノ容量ハ全量五斗以下又ハ二十「リットル」以下ノモノニ在リテハ全量ノ百分ノ一以下全量一升以下又ハ二「リットル」以下ノモノニ在リテハ全量ノ五十分ノ一以下全量一合以下又ハ二「デシリットル」以下ノモノニ在リテハ全量ノ三十分ノ一以下ト爲スヘシ

三十一　桝ニ注口ヲ附スル場合ニ在リテハ注口ノ容量ノ割合ニ應シテ第十號ニ依ル深ヲ減シ其ノ注口ノ口緣ハ桝ノ口緣ノ高ト同一ト爲スヘシ但シ全量ノ目盛アル桝ニ注口ヲ附スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十二　桝ノ口緣ニ接觸スル斗概ノ面ハ之ヲ平滑ト爲スヘシ

三十三　桝ニハ外側ニ其ノ全量ヲ表記スヘシ其ノ木製桝ノ穀類用、液類用又ハ雜用ノモノニハ左ノ樣式ニ依リ之ヲ表記スヘシ

一　穀類用　穀用　一斗（何升又ハ何「リットル」）

一　液類用　液用　一斗（何升又ハ何「リットル」）

一　雜用　一斗（何升又ハ何「リットル」）

三十四　斗概ノ切口ニハ第十四號ノ區分ニ從ヒ大中又ハ小ノ文字ヲ表記スヘシ

化學用量器

一　化學用量器ノ容量ハ其ノ量器カ攝氏十五度ノ溫度ヲ有スル場合ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

二　化學用量器ニ用ウル玻璃ハ溫度ノ變化ニ依リ容易ニ破損シ難キモノ及明瞭ニ水際ヲ視定シ得ルモノヲ用ウヘシ

三　化學用量器ノ目盛ヲ爲ス部分ハ之ヲ圓壔形ト爲スヘシ

四　「メスフラスコ」及「メスシリンドル」ハ之ヲ水平面上ニ置キタルトキ其ノ目盛ヲ爲セル部分カ鉛直トナルコトヲ要ス

五　化學用量器ノ內側面ハ排水ノ場合ニ於テ殘溜ヲ生セサル構造ト爲スヘシ

六　「メスフラスコ」ノ目盛アル部分ノ內徑ハ五「ミリメートル」以上ニシテ左ノ定限以內ナルコトヲ要ス

種類	「ミリメートル」二	一〃	〇、五〃	〇、二五〃	〇、二〃	〇、一〃	〇、〇五〃	〇、〇二五〃	〇、〇一〃
內徑	「ミリメートル」二五	二〇〃	二〇〃	一五〃	一二〃	一二〃	一〇〃	八〃	八〃

七　全量ノミノ目盛アル「ピペット」ノ吸入管ノ長ハ一、三「デシメートル」以上其ノ排出管ニシテ目盛アルモノノ長ハ六「センチメートル」以上三「デシメートル」以下其ノ目盛ナキモノノ長ハ三「センチメートル」以上三「デシメートル」以下ト爲スヘシ

八　全量ノミノ目盛アル「ピペット」ノ吸入管及排出管ノ目盛アル部分ノ內徑ハ六「ミリメートル」以下ト爲スヘシ

九　全量ノミノ目盛アル「ピペット」ハ其ノ全量一「センチリットル」未滿ノモノニ在リテハ十二秒以上一分以內全量一「デシリットル」未滿ノモノニ

第7800号　本文

在リテハ二十秒以上一分以内全量一「デシリットル」以上ノモノニ在リテハ三十秒以上一分以内ニ其ノ全量ノ水ヲ排出スル構造ト爲スヘシ

十　「ビュレット」、「ピペット」及「メスシリンドル」ノ目盛ハ左ノ定限ニ依ルヘシ但シ「ピペット」ニハ全量ノミノ目盛全量五分ノ一「センチリットル」以下ノモノニ在リテハ千分ノ一「センチリットル」ノ目盛「メスシリンドル」ニシテ全量ノ二分ノ一「センチリットル」ノモノニ在リテハ百分ノ一「センチリットル」ノ目盛全量一「センチリットル」ノモノニ在リテハ五十分ノ一「センチリットル」ノ目盛ヲ爲スコトヲ得

種類	目盛
二分ノ一「センチリットル」以下	「センチリットル」ノ五百分ノ一又ハ二百分ノ一
一「センチリットル」以下	「センチリットル」ノ二百分ノ一又ハ百分ノ一
五「センチリットル」以下	「センチリットル」ノ百分ノ一又ハ五十分ノ一
一「デシリットル」以下	「センチリットル」ノ五十分ノ一、二十分ノ一又ハ十分ノ一
二「デシリットル」以下	「センチリットル」ノ十分ノ一、五分ノ一又ハ二分ノ一
五「デシリットル」以下	「センチリットル」ノ二分ノ一又ハ一「センチリットル」
一「リットル」以下	一「センチリットル」
二「リットル」以下	一「センチリットル」又ハ二「センチリットル」

十一　化學用量器ノ目盛ニハ色ヲ施シ其ノ最小目盛間ノ距離ハ一「ミリメートル」以上ト爲スヘシ

十二　化學用量器ノ目盛ノ幅ハ最小目盛間ノ距離ノ十分ノ一以下ト爲シ〇、一「ミリメートル」以上ト爲スヘシ但シ全量ノミノ目盛アルモノニ在リテハ〇、四「ミリメートル」以下〇、一「ミリメートル」以上ト爲スヘシ

十三　化學用量器ノ全量ノ目盛ハ「メスフラスコ」及全量ノミノ目盛アル「ピペット」ニ在リテハ之ヲ全周ニ附シ其ノ他ノモノニ在リテハ全量及十箇毎ノ目盛ハ之ヲ全周ノ五分ノ一以上ニ附スヘシ

十四　「メスフラスコ」ノ目盛ハ全量一「デシリットル」以上ノモノニ在リテハ其ノ頸部ノ上端ヨリ六「センチメートル」以上下端ヨリ一「センチメートル」以上ノ場所ニ全量一「デシリットル」未滿ノモノニ在リテハ其ノ頸部ノ上端ヨリ三「センチメートル」以上下端ヨリ一「センチリットル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ

十五　全量ノミノ目盛アル「ピペット」ノ吸入管ニ於ケル目盛ハ其ノ管ノ上端ヨリ十「センチメートル」以上其ノ下端ヨリ一「センチメートル」以上ノ場所ニ排出管ニ於ケル目盛ハ其ノ管ノ兩端ヨリ三「センチメートル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ

十六　全量及全量以外ノ目盛アル「ピペット」及「ビュレット」ノ最高ノ目盛ハ管ノ上端ヨリ五「センチメートル」以上最低ノ目盛ハ「ピペット」ニ在リテハ其ノ尖端ヨリ「ビュレット」ニ在リテハ其ノ排栓ノ連接部ヨリ各三「センチメートル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ

十七　化學用量器ニハ外側ニ其ノ全量ヲ表記スヘシ

十八　「メスフラスコ」ニシテ受用ノモノニハ受又ハE其ノ出用ノモノニハ出又ハAノ文字ヲ附記スヘシ

衡器

一　秤ノ桿及之ニ附屬スル横杆ニハ強硬ナル金屬ヲ用ウヘシ但シ度量衡法第三條又ハ第四條ノ名稱ニ依ル桿秤ニ在リテハ黒檀、紫檀、樫、骨又ハ象牙度量衡法施行令第一條ノ名稱ニ依ル桿秤ニ在リテハ骨又ハ象牙ヲ用ウルコトヲ得

二　秤ノ桿及之ニ附屬スル横杆上ニ於ケル支點ヲ爲ス刃、刃受、承軸及關節又ハ刃蓋ニハ之ニ負フ重量ノ大小及秤ノ秤量ノ大小ニ應シテ適當ナル硬度ヲ有スル鋼鐵又ハ石ヲ用ウヘシ

三　緒紐ノ材料ニハ金屬、革又ハ強靭ナル絹絲、麻絲若ハ綿絲ヲ用ウヘシ

四　分銅、錘又ハ增錘ノ物質ハ白金、金、銀、「アルミニューム」、「ニッケル」、白銅、眞鍮、青銅、銅、鐵又ハ玻璃ヲ用ウヘシ但シ重量五十匁未滿、二百「グラム」未滿又ハ八「オンス」未滿ノモノニハ鐵ヲ用ウルコトヲ得ス

五　分銅ノ形狀ハ之ヲ臺形又ハ圓壔形ト爲スヘシ但シ重量二分以下、五「デシグラム」以下「グレーン」分銅ニシテ重量二十「グレーン」以下「オンス」分銅ニシテ重量〇、〇五「オンス」以下ノモノ及玻璃製ノモノニ在リテハ之ヲ板狀ト爲スコトヲ得

六　桿、横桿又ハ臺ニ嵌入スル刃及承軸ハ容易ニ離脱又ハ移動セサル構造ト爲スヘシ

七　刃ハ凹凸ナク刃受ノ面ハ平滑ナルコトヲ要ス

八　刃受ヲ圓形トナス場合ニ在リテハ繼目ナキ構造ト爲スヘシ

九　目盛アル秤ニハ直點又ハ標點一箇以上ヲ其ノ桿上又ハ見易キ位置ニ表示スヘシ但シ秤量二百貫以上、千二百斤以上、五百「キログラム」以上又ハ千五百「ポンド」以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十　秤ニハ桿ノ位置又ハ感量ヲ規定スル爲度表若ハ腕ミヲ設クヘシ但シ桿休メアルモノ又ハ桿秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十一　秤ニハ調子玉ヲ附スヘシ但シ木製又ハ金屬製桿秤、自働秤、上皿天秤及刃受ヲ懸垂シテ使用スル構造ノ天秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十二　調子玉ハ目盛又ハ度表ノ最小目盛ノ二度目以上度表又ハ目盛ナキ秤ニ在リテハ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ秤量ノ公差ノ二倍以上ヲ加減シ得ル構造ト爲スヘシ

十三　調子玉ハ遊動セサル構造ト爲スヘシ

十四　調子玉ナキ秤ハ其ノ空懸ケ又ハ錘ヲ直點ニ懸ケタル場合ニ於テ其ノ腕ミカ一致シ若ハ其ノ桿カ水平トナリ又ハ其ノ指針カ直點若ハ標點ヲ指ス構造ト爲スヘシ但シ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ秤量ノ公差ノ四分ノ一以内掛量アルモノニ在リテハ其ノ公差ノ四分ノ一以内ノ重量ヲ加減シテ其ノ腕ミカ一致シ若ハ桿カ水平トナリ又ハ其ノ指針カ直點若ハ標點ヲ指スモ妨ナシ

十五　調子玉アル秤ノ支點ハ之ヲ一箇ト爲スヘシ

十六　天秤、臺秤及上皿桿秤ニハ水平ヲ定ムル裝置ヲ爲スヘシ但シ刃受ヲ懸垂シテ使用スル構造ノ天秤又ハ土地若ハ建物等ニ取附ケ使用シ又ハ其ノ臺ヲ傾斜スルモ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差以上ノ器差ヲ生セサル構造ノ臺秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十七　十分秤ハ其ノ兩臂ノ比ヲ十分ノ一又ハ百分ノ一ト爲スヘシ

十八　桿秤ノ支點ハ之ヲ二箇以下ト爲シ其ノ二箇ノ場合ニ在リテハ桿ノ表裏ニ之ヲ設ケ其ノ刃受ハ支點毎ニ之ヲ附スヘシ

十九　桿秤ノ刃及刃受ハ其ノ桿ヲ上下各四十五度ニ搖ルモ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差以上ノ器差ヲ生セサル構造ト爲スヘシ

二十　秤ノ最小目盛間ノ距離ハ臺秤ニ在リテハ之ヲ五厘以上上皿桿秤及秤量二百匁、一斤、五百「グラム」又ハ一、五「ポンド」ヲ超エタル金屬製桿秤ニ在リテハ之ヲ三厘以上骨製若ハ象牙製桿秤及秤量二百匁以下、一斤以下、五百「グラム」以下又ハ一、五「ポンド」以下ノ金屬製桿秤ニ在リテハ之ヲ二厘以上ト爲スヘシ

二十一　木製桿秤ノ桿ノ長ハ其ノ秤量ニ從ヒ左ノ定限以上ト爲シ之ニ附屬スル錘ノ重量ハ紫檀製又ハ黒檀製ノ秤ニ在リテハ其ノ秤量ノ三十分ノ一以上其ノ他ノ秤ニシテ秤量四十貫未滿又ハ二百五十斤未滿ノモノニ在リテハ其ノ秤量ノ二十分ノ一以上秤量四十貫以上又ハ二百五十斤以上及皿附ノモノニシテ秤量二貫以下一貫六百匁以上又ハ十二斤以下十斤以上ノモノニ在リテハ其ノ秤量二十五分ノ一以上ト爲スヘシ但シ定量錘ノ重量ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

樫製桿秤

秤量	桿長
三十六貫以上又ハ二百二十斤以上	五尺
二十五貫以上又ハ百五十斤以上	四尺五寸
二十貫以上又ハ百二十斤以上	四尺
十六貫以上又ハ百斤以上	三尺五寸
八貫以上又ハ五十斤以上	三尺
五貫以上又ハ三十斤以上	二尺五寸
四貫以上又ハ二十五斤以上	二尺
一貫六百匁以上又ハ十斤以上	一尺八寸
一貫以上又ハ六斤以上	一尺六寸
六百匁以上又ハ三斤二分ノ一以上	一尺四寸
二百匁以上又ハ一斤以上	一尺二寸

紫檀製又ハ黒檀製桿秤

秤量	桿長
一貫六百匁以上又ハ十斤以上	一尺三寸
一貫六百匁未滿又ハ十斤未滿	一尺二寸
一貫二百匁未滿又ハ七斤二分ノ一未滿	一尺

二十二　分銅、錘、增錘及增錘臺ニハ其ノ重量ヲ齊整スル爲容易ニ脱出セサル方法ニ依リ金屬ヲ塡充スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ塡充物ノ重量ハ增錘臺ヲ除クノ外重量ノ二十分ノ一ヲ超エサルコトヲ要ス

二十三　前號ニ依ル塡充物ノ穿口ハ容易ニ離脱シ又ハ振戻シ得サル方法ニ依リ之ヲ緊塞スヘシ

二十四　分銅、錘、增錘又ハ增錘臺ニ證印ヲ附シ若ハ塡充物ノ穿口ヲ緊塞スル爲メ爲シタル象眼ノ面ハ其ノ周圍ノ面ヨリ隆起セシメサルコトヲ要ス

二十五　定量錘附木製桿秤ノ秤量ハ其ノ定量錘ノ重量ニ從ヒ左ノ定限ニ依ルヘシ

樫製桿秤（皿附ノモノヲ除ク）

定量錘ノ重量	秤量
一貫六百匁	三十二貫又ハ二百斤
一貫三百匁	二十六貫又ハ百六十斤
一貫	二十貫又ハ百二十斤
八百匁	十六貫又ハ百斤
六百匁	十二貫又ハ七十五斤
四百匁	八貫又ハ五十斤
三百五十匁	六貫又ハ三十五斤
二百五十匁	四貫又ハ二十五斤
百二十匁	二貫又ハ十二斤
百匁	一貫六百匁又ハ十斤
六十匁	一貫又ハ六斤

樫製皿附桿秤

定量錘ノ重量	秤量
八十匁	一貫六百匁又ハ十斤
六十匁	一貫二百匁又ハ七斤二分ノ一
五十匁	六百匁又ハ三斤二分ノ一
二十五匁	四百匁又ハ二斤二分ノ一

紫檀製又ハ黒檀製桿秤

定量錘ノ重量	秤量
六十匁	一貫六百匁又ハ十斤

二十六　秤ハ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差ニ相當スル重量ヲ感シ臺秤及上皿桿秤ニ在リテハ桿ノ末端ニ於テ上下各一分以上桿秤ニ在リテハ其ノ勾配三十分ノ一以上度表アルモノ又ハ自働秤ニ在リテハ其ノ指針カ標點ノ左右又ハ上下ニ於テ最小目盛ノ各二分ノ一以上度表ナクシテ腕ミノ設ケアル天秤、上皿天秤又ハ十分秤ニ在リテハ其ノ腕ミカ五厘以上ノ移動ヲ其ノ靜止體ニ於テ認メ得ル構造ト爲スヘシ

二十七　秤ニハ製作、輸入又ハ移入ノ番號其ノ修覆シタルモノニ付テハ製作、輸入又ハ移入シタル番號ノ明瞭ナラサル場合ニ限リ修覆ノ番號ヲ其ノ桿ニ附スヘシ但シ天秤、上皿天秤、十分秤及自働秤ニハ支柱又ハ臺ニ之ヲ附スルコトヲ得

第7800号　本文

二十八　天秤及上皿天秤ニハ其ノ秤量及感量ヲ臺ノ上面若ハ側面又ハ支柱ニ表記スヘシ

二十九　臺秤ニハ其ノ秤量ヲ臺ノ上面ノ緣ニ表記スヘシ此場合ニ於テ其ノ定量增錘附ノモノニシテ其ノ增錘ノ重量ト掛量トノ比カ二百分ノ一ノモノニ在リテハ大其ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字ヲ附記スヘシ

三十　上皿桿秤ニハ秤量ヲ其ノ桿ニ盛止量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ桿秤ニハ盛出量、秤量及掛量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ自働秤ニハ秤量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛又ハ其ノ臺ニ之ヲ附記スヘシ但シ桿秤ノ秤量ハ之ヲ盛出量ト併記スルコトヲ得

三十一　十分秤ニハ兩臂ノ比、秤量及感量ヲ支柱又ハ臺ニ表記スヘシ

三十二　木製桿秤ニシテ定量錘附ニ非サルモノニハらノ文字ヲ其ノ桿ニ表記スヘシ

三十三　分銅ニハ其ノ重量ヲ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ文字ヲ重量五毛以下ノモノニ在リテハ一、二、五其ノ五「ミリグラム」以下ノモノニ在リテハ1、2、5ト省略スルコトヲ得但シ左ノ重量及形狀ニ依ルモノニ在リテハ重量ノ表記ヲ要セス

五「ミリグラム」	六角形
二「ミリグラム」	三角形
一「ミリグラム」	四角形

三十四　增錘ニハ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ定量增錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十五　桿ヨリ分離シ得ヘキ錘、增錘、增錘臺及皿ニハ桿ト同一ノ番號ヲ表記スヘシ但シ定量錘及定量增錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十六　前號ノ錘ニハ其ノ附屬スル秤ノ秤量及木製桿秤ニ附屬スルモノニ在リテハらノ文字ヲ其ノ側面ニ表記スヘシ但シ定量錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十七　定量增錘ニハ其ノ掛量及錘ノ重量ト掛量トノ比カ二百分ノ一ノモノニ在リテハ大其ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字定量錘ニハ其ノ錘ノ附屬スル秤ノ秤量ヲ其ノ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ倘樫製皿附ノ桿秤ニシテ秤量一貫六百匁又ハ十斤ノモノニ附屬スルモノニ在リテハさノ文字紫檀製又ハ黑檀製ノ桿秤ニ附屬スルモノニ在リテハ倘かノ文字ヲ附記スヘシ

第四章　檢定

第三十二條　度量衡器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ定ムル書式ニ依リ檢定請求書ヲ作リ之ニ度量衡器ヲ添ヘ甲種檢定ニ在リテハ中央度量衡器檢定所ニ乙種檢定ニシテ其ノ請求者カ製作者、修覆者又ハ販賣者ナル場合ニ在リテハ其ノ營業所ノ所在地其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ノ定ムル檢定所ニ之ヲ差出スヘシ

第三十三條　度量衡器カ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタルモノナル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ甲種檢定ニ在リテハ農商務大臣乙種檢定ニ在リテハ度量衡器ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ニ檢定請求書ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ之ヲ中央度量衡器檢定所ニ提出スヘシ

第一項ノ出願ヲ許可セラレタル者ハ當該官吏ノ旅費其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第三十四條　行政官廳ハ檢定ノ請求アリタル度量衡器ニ付必要アリト認ムルトキハ前條ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ其ノ請求者ニ命スルコトヲ得

第三十五條　度量衡法施行令第九條但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ度量衡器ノ種類、物質、箇數、許可ヲ受ケムトスル事由及其ノ輸出若ハ移出セムトスルモノニ在リテハ注文者又ハ荷受人ノ住所氏名、輸出若ハ移出ノ時期ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ出願ニ付其ノ度量衡器ノ標本、製作材料其ノ他必要ナル物件又ハ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

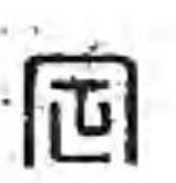
出願人第一項ニ依ル出願ニ對スル許可ノ條件ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十六條　製作者、修覆者及販賣者外ノ者ト雖度量衡器ヲ所有又ハ所持スル者ハ其ノ檢定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　檢定證印ハ度量衡器ノ左ノ部分ニ之ヲ附ス

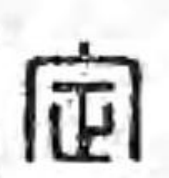
一	度器	目盛ノ各段ノ一端（帶狀麻製ノモノハ麻ノ部分）及分離シ得ル構造ノモノニ在リテハ其ノ各部分ノ中央部
二	枡及化學用量器	全量ヲ表記シタル傍及金屬製枡若ハ木製枡ニシテ注口ヲ附シタルモノニ在リテハ其ノ注口
三	斗概	大、中又ハ小ノ文字ヲ表記シタル傍
四	天秤、上皿天秤及十分秤	桿ノ中央部又ハ其ノ附近
五	臺秤	桿ノ末端、秤量ヲ表記シタル傍、休ミノ把手ノ中央部、比例螺旋ノ緊著部及增錘臺ノ上面
六	上皿桿秤	桿ノ末端及增錘臺ノ上面
七	桿秤	金屬製ノモノニ在リテハ直點ノ傍又ハ桿ノ末端、象牙、骨、黑檀又ハ紫檀製ノモノニ在リテハ頭金具、樫製ノモノニ在リテハ桿ノ兩端（樫製ノモノニシテ鐵製ノ頭金具ヲ附シタルモノニ在リテハ其傍及他ノ一端）
八	自働秤	目盛盤又ハ其ノ緣及桿カ外部ニ現ハレタルモノニ在リテハ其ノ桿
九	分銅	上面、側面又ハ底面
十	錘又ハ增錘	上面又ハ側面

第三十八條　甲種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



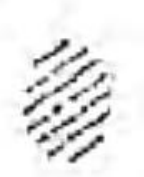
打込印及押印	大一分二厘平方 中六厘平方 小四厘平方
摺附印	大四分平方 中二分平方 小一分平方

第三十九條　乙種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



打込印及押印	大一分二厘平方 小六厘平方
烙印及摺附印	大四分平方 小二分平方

第四十條　檢定消印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



打込印又烙印	大長徑二分	短徑一分三厘
	小長徑六厘	短徑四厘

第四十一條　修覆シ又ハ第三十六條ニ依リ請求アリタル衡器ノ檢定ノ場合ニ於テ檢定證印アル板狀分銅、錘、增錘又ハ增錘臺ニハ更ニ檢定證印ヲ附セス

第五章　使用ノ制限

第四十二條　鯨尺ハ布帛ヲ度ル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十三條　木製枡ハ穀類用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ穀類ノ計量ニ液類用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ液類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第四十四條　五斗以上又ハ百「リットル」以上ノ穀類ヲ計量スル場合ニハ全量一斗未滿又ハ二十「リットル」未滿ノ枡ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十五條　枡ヲ以テ穀類ヲ計量スル場合ニ於テハ圓壔狀斗概ヲ使用スルコトヲ要ス但シ其ノ二合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノ枡ニハ小ノ表記アルモノ一升以下又ハ五「リットル」以下ノ枡ニハ中ノ表記アルモノ一斗以下又ハ二十「リットル」以下ノ枡ニハ大ノ表記アルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第四十六條　桿ト分離シ得ヘキ錘、增錘、增錘臺又ハ皿ニ附シタル表記ト桿ニ附シタル表記ト異ル秤ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條　水平ヲ定ムル裝置アル秤ハ其ノ臺ヲ水平ト爲スニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六章　取締

第四十八條　地方長官官吏ヲシテ第一種取締ヲ執行セシムル場合ニ於テハ其ノ取締ヲ執行スル區域內ニ於ケル度量衡器ノ使用者ニ對シ日時及場所ヲ指定シテ檢査ヲ受クヘキ度量衡器ヲ提出セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ豫メ取締ヲ執行セシムル區域、度量衡器ヲ提出セシムヘキ日時及場所ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ハ公務所ニ於ケル度量衡器竝水量「メートル」、瓦斯「メートル」及特ニ地方長官ノ指定シタル度量衡器ニハ之ヲ適用セス

第四十九條　度量衡法第八條第五號ノ構造ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノナルコトヲ要ス

一　度量衡器ニシテ其要部カ毀損、磨滅又ハ腐蝕シタルモノ

二　度量衡器ニシテ檢定證印、記號其ノ他表記ノ文字又ハ目盛ノ識別シ難キニ至リタルモノ

三　度器ニシテ枉橈又ハ縒レアルモノ

四　端目盛ノ度器ニシテ其ノ端ニ於ケル角カ最小目盛ノ一度目以上磨滅シタルモノ其ノ端目盛ニ非サルモノニ在リテハ最端ノ目盛ヲ超ユルニ至ル迄磨滅シタルモノ

五　材料ヲ剝合セ又ハ繼合セテ作リタル度器及連接部ヲ分離シ得サル構造ノ疊尺ニシテ其ノ目盛アル部分ニ於ケル材料ノ繼目ニ間隙ヲ生シ且材料又ハ連接部カ分離シ易キニ至リタルモノ

六　麻製度器ニシテ目盛アル部分カ切斷シ易キニ至リタルモノ

七　度器ニシテ其ノ目盛アル部分カ缺損シ又ハ甚シク割レタルモノ

八　曲リ尺又ハ徑ヲ度ルニ用ウル直尺ニシテ其ノ角度ノ著シク差ヲ生スルニ至リタルモノ又ハ副枝ノ緩ミタルモノ

九　枡ニシテ甚シク變形シ又ハ其ノ口緣ニ緊著シタル材料又ハ鐵帶ニ緩ミヲ生シ又ハ其ノ口緣ノ缺損（全量ノ目盛アルモノニシテ其ノ口緣ノ缺損カ全量ノ目盛ニ達セサルモノヲ除ク）シタルモノ若ハ金屬製枡ノ繼目ノ離レタルモノ

十　枡ニシテ其ノ口緣又ハ內面カ著シク磨滅シ若ハ反リヲ生シ又ハ其ノ內面ニ於ケル塗料ノ剝落シタルモノ

十一　液類ノ計量ニ使用スル枡ニシテ漏水スルニ至リタルモノ又ハ材料ヲ二重トシタル金屬製枡ニシテ其ノ內面漏水スルニ至リタルモノ

十二　斗概ニシテ反リ又ハ著シク凹凸ヲ生シタルモノ

十三　化學用量器ニシテ重要ナル缺損アルモノ

十四　秤ニシテ桿カ枉橈シタルモノ

十五　秤ニシテ其ノ刃、刃受、承軸、刃蓋又ハ桿ニ於ケル金具カ離脫シ又ハ刃及桿ニ於ケル金具カ移動シ易キニ至リタルモノ

十六　秤ニシテ調子玉ノ遊動シ易キニ至リタルモノ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノ

十七　調子玉ナキ秤ニシテ其ノ空掛ケ又ハ錘ヲ直點ニ懸ケタル場合ニ於テ之ニ度量衡法施行令第十六條ニ規定スル秤量ノ公差ノ四分ノ一以內ノ

第7800号　本文

二十八　天秤及上皿天秤ニハ其ノ秤量及感量ヲ臺ノ上面若ハ側面又ハ支柱ニ表記スヘシ

二十九　臺秤ニハ其ノ秤量ヲ臺ノ上面ノ緣ニ表記スヘシ此場合ニ於テ其ノ定量增錘附ノモノニシテ其ノ增錘ノ重量ト掛量トノ比カ二百分ノ一ノモノニ在リテハ大其ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字ヲ附記スヘシ

三十　上皿棹秤ニハ秤量ヲ其ノ棹ニ盛止量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ棹秤ニハ盛出量、秤量及掛量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ自働秤ニハ秤量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛又ハ其ノ臺ニ之ヲ附記スヘシ但シ棹秤ノ秤量ハ之ヲ盛出量ト併記スルコトヲ得

三十一　十分秤ニハ兩臂ノ比、秤量及感量ヲ支柱又ハ臺ニ表記スヘシ

三十二　木製棹秤ニシテ定量錘附ニ非サルモノニハらノ文字ヲ其ノ棹ニ表記スヘシ

三十三　分銅ニハ其ノ重量ヲ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ文字ヲ重量五毛以下ノモノニ在リテハ一、二、五其ノ五「ミリグラム」以下ノモノニ在リテハ1、2、5ト省略スルコトヲ得但シ左ノ重量及形狀ニ依ルモノニ在リテハ重量ノ表記ヲ要セス

五「ミリグラム」　六角形
二「ミリグラム」　三角形
一「ミリグラム」　四角形

三十四　增錘ニハ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ定量增錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十五　棹ヨリ分離シ得ヘキ錘、增錘、增錘臺及皿ニハ棹ト同一ノ番號ヲ表記スヘシ但シ定量錘及定量增錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十六　前號ノ錘ニハ其ノ附屬スル秤ノ秤量及木製棹秤ニ附屬スルモノニ在リテハらノ文字ヲ其ノ側面ニ表記スヘシ但シ定量錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十七　定量增錘ニハ其ノ掛量及錘ノ重量ト掛量トノ比カ二百分ノ一ノモノニ在リテハ大其ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字定量錘ニハ其ノ錘ノ附屬スル秤ノ秤量ヲ其ノ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ倘樫製皿附ノ棹秤ニシテ秤量一貫六百匁又ハ十斤ノモノニ附屬スルモノニ在リテハさノ文字紫檀製又ハ黑檀製ノ棹秤ニ附屬スルモノニ在リテハ倘かノ文字ヲ附記スヘシ

第四章　檢定

第三十二條　度量衡器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ定ムル書式ニ依リ檢定請求書ヲ作リ之ニ度量衡器ヲ添ヘ甲種檢定ニ在リテハ中央度量衡器檢定所ニ乙種檢定ニシテ其ノ請求者カ製作者、修覆者又ハ販賣者ナル場合ニ在リテハ其ノ營業所ノ所在地其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ノ定ムル檢定所ニ之ヲ差出スヘシ

第三十三條　度量衡器カ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタルモノナル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ甲種檢定ニ在リテハ農商務大臣乙種檢定ニ在リテハ度量衡器ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ニ檢定請求書ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ之ヲ中央度量衡器檢定所ニ提出スヘシ

第一項ノ出願ヲ許可セラレタル者ハ當該官吏ノ旅費其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第三十四條　行政官廳ハ檢定ノ請求アリタル度量衡器ニ付必要アリト認ムルトキハ前條ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ其ノ請求者ニ命スルコトヲ得

第三十五條　度量衡法施行令第九條但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ度量衡器ノ種類、物質、箇數、許可ヲ受ケムトスル事由及其ノ輸出若ハ移出セムトスルモノニ在リテハ注文者又ハ荷受人ノ住所氏名、輸出若ハ移出ノ時期ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ出願ニ付其ノ度量衡器ノ標本、製作材料其ノ他必要ナル物件又ハ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

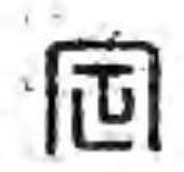
出願人第一項ニ依ル出願ニ對スル許可ノ條件ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十六條　製作者、修覆者及販賣者外ノ者ト雖度量衡器ヲ所有又ハ所持スル者ハ其ノ檢定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　檢定證印ハ度量衡器ノ左ノ部分ニ之ヲ附ス

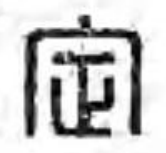
一	度器	目盛ノ各段ノ一端（帶狀麻製ノモノハ麻ノ部分）及分離シ得ル構造ノモノニ在リテハ其ノ各部分ノ中央部
二	枡及化學用量器	全量ヲ表記シタル傍及金屬製枡若ハ木製枡ニシテ注口ヲ附シタルモノニ在リテハ其ノ注口
三	斗概	大、中又ハ小ノ文字ヲ表記シタル傍
四	天秤、上皿天秤及十分秤	棹ノ中央部又ハ其ノ附近
五	臺秤	棹ノ末端、秤量ヲ表記シタル傍、休ミノ把手ノ中央部、比例螺旋ノ緊著部及增錘臺ノ上面
六	上皿棹秤	棹ノ末端及增錘臺ノ上面
七	棹秤	金屬製ノモノニ在リテハ直點ノ傍又ハ棹ノ末端、象牙、骨、黑檀又ハ紫檀製ノモノニ在リテハ頭金具、樫製ノモノニ在リテハ棹ノ兩端（樫製ノモノニシテ鐵製ノ頭金具ヲ附シタルモノニ在リテハ其傍及他ノ一端）
八	自働秤	目盛盤又ハ其ノ緣及棹カ外部ニ現ハレタルモノニ在リテハ其ノ棹
九	分銅	上面、側面又ハ底面
十	錘又ハ增錘	上面又ハ側面

第三十八條　甲種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



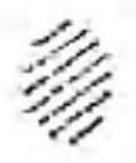
打込印及押印（大一分二厘平方　中六厘平方　小四厘平方）
摺附印（大四分平方　中二分平方　小一分平方）

第三十九條　乙種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



打込印及押印（大一分二厘平方　小六厘平方）
烙印及摺附印（大四分平方　小二分平方）

第四十條　檢定消印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ



打込印又烙印（大長徑二分　短徑一分三厘　小長徑六厘　短徑四厘）

第四十一條　修覆シ又ハ第三十六條ニ依リ請求アリタル衡器ノ檢定ノ場合ニ於テ檢定證印アル板狀分銅、錘、增錘又ハ增錘臺ニハ更ニ檢定證印ヲ附セス

第五章　使用ノ制限

第四十二條　鯨尺ハ布帛ヲ度ル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十三條　木製枡ハ穀類用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ穀類ノ計量ニ液類用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ液類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第四十四條　五斗以上又ハ百「リットル」以上ノ穀類ヲ計量スル場合ニハ全量一斗未滿又ハ二十「リットル」未滿ノ枡ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十五條　枡ヲ以テ穀類ヲ計量スル場合ニ於テハ圓壔狀斗概ヲ使用スルコトヲ要ス但シ其ノ二合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノ枡ニハ小ノ表記アルモノ二升以下又ハ五「リットル」以下ノ枡ニハ中ノ表記アルモノ一斗以下又ハ二十「リットル」以下ノ枡ニハ大ノ表記アルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第四十六條　棹ト分離シ得ヘキ錘、增錘、增錘臺又ハ皿ニ附シタル表記ト棹ニ附シタル表記ト異ル秤ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條　水平ヲ定ムル裝置アル秤ハ其ノ臺ヲ水平ト爲スニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六章　取締

第四十八條　地方長官官吏ヲシテ第一種取締ヲ執行セシムル場合ニ於テハ其ノ取締ヲ執行スル區域内ニ於ケル度量衡器ノ使用者ニ對シ日時及場所ヲ指定シテ檢査ヲ受クヘキ度量衡器ヲ提出セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ豫メ取締ヲ執行セシムル區域、度量衡器ヲ提出セシムヘキ日時及場所ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ハ公務所ニ於ケル度量衡器竝水量「メートル」、瓦斯「メートル」及特ニ地方長官ノ指定シタル度量衡器ニハ之ヲ適用セス

第四十九條　度量衡法第八條第五號ノ構造ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノナルコトヲ要ス

一　度量衡器ニシテ其要部カ毀損、磨滅又ハ腐蝕シタルモノ

二　度量衡器ニシテ檢定證印、記號其ノ他表記ノ文字又ハ目盛ノ識別シ難キニ至リタルモノ

三　度器ニシテ枉橈又ハ縒レアルモノ

四　端目盛ノ度器ニシテ其ノ端ニ於ケル角カ最小目盛ノ一度目以上磨滅シタルモノ其ノ端目盛ニ非サルモノニ在リテハ最端ノ目盛ヲ超ユルニ至ル迄磨滅シタルモノ

五　材料ヲ剝合セ又ハ繼合セテ作リタル度器及連接部ヲ分離シ得サル構造ノ疊尺ニシテ其ノ目盛アル部分ニ於ケル材料ノ繼目ニ間隙ヲ生シ且材料又ハ連接部カ分離シ易キニ至リタルモノ

六　麻製度器ニシテ目盛アル部分カ切斷シ易キニ至リタルモノ

七　度器ニシテ其ノ目盛アル部分カ缺損シ又ハ甚シク割レタルモノ

八　曲リ尺又ハ徑ヲ度ルニ用ウル直尺ニシテ其ノ角度ノ著シク差ヲ生スルニ至リタルモノ又ハ副枝ノ緩ミタルモノ

九　枡ニシテ甚シク變形シ又ハ其ノ口緣ニ緊著シタル材料又ハ鐵帶ニ緩ミヲ生シ又ハ其ノ口緣ノ缺損（全量ノ目盛アルモノニシテ其ノ口緣ノ缺損カ全量ノ目盛ニ達セサルモノヲ除ク）シタルモノ若ハ金屬製枡ノ鑞目ノ離レタルモノ

十　枡ニシテ其ノ口緣又ハ内面カ著シク磨滅シ若ハ反リヲ生シ又ハ其ノ内面ニ於ケル塗料ノ剝落シタルモノ

十一　液類ノ計量ニ使用スル枡ニシテ漏水スルニ至リタルモノ又ハ材料ヲ二重トシタル金屬製枡ニシテ其ノ内面漏水スルニ至リタルモノ

十二　斗概ニシテ反リ又ハ著シク凹凸ヲ生シタルモノ

十三　化學用量器ニシテ重要ナル缺損アルモノ

十四　秤ニシテ棹カ枉橈シタルモノ

十五　秤ニシテ其ノ刃、刃受、承軸、刃蓋又ハ棹ニ於ケル金具カ離脫シ又ハ刃及棹ニ於ケル金具カ移動シ易キニ至リタルモノ

十六　秤ニシテ調子玉ノ遊動シ易キニ至リタルモノ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノ

十七　調子玉ナキ秤ニシテ其ノ空掛ケ又ハ錘ヲ直點ニ懸ケタル場合ニ於テ之ニ度量衡法施行令第十六條ニ規定スル秤量ノ公差ノ四分ノ一以内ノ

第7800号 本文

重量ヲ加減スルモ其ノ睨ミカ一致セス若ハ其ノ桿カ水平トナラス又ハ其ノ指針カ直點若ハ標點ヲ指ササルニ至リタルモノ

十八 水平ヲ定ムル裝置アル秤ニシテ其ノ裝置カ水平ヲ定ムルノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノ

十九 秤ニシテ度量衡法施行令第十六條ニ規定スル公差ニ相當スル重量ヲ感セサルニ至リタルモノ

第五十條 第一種取締ニ於テ合格シタル度量衡器ニ附スヘキ檢査濟印ノ雛形及ヒ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

②（輪廓內ノ數字ハ每年其ノ年ノ下位ノ數字ヲ用フ）

大徑 一分五厘
中徑 一分
小徑 五厘

檢査濟印ハ度量衡器ノ見易キ部分ニ之ヲ附ス

第五十一條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 度量衡器ノ取締ヲ執行スル官吏ノ携帶スヘキ證票ノ樣式ヲ定ムルコト左ノ如シ

用紙厚質白紙竪四寸橫二寸五分

第　號
度量衡器取締官吏章
官　氏名
農商務省（道廳府縣）印
農商務省（道廳府縣）

第七章 罰則

第五十三條 第十條第一項、第十六條又ハ第二十條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ二十五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十一條第二項、第十四條第一項、第十八條又ハ第十九條ニ違反シタル者

二 業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル場合ニ於テ第四十三條又ハ第四十四條ニ違反シタル者

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第十條第二項、第十二條、第十三條、第十四條第二項、第十五條、第二十一條又ハ第二十三條ニ違反シタル者

二 業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル場合ニ於テ第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ニ違反シタル者但シ第四十五條但書ノ場合ヲ除ク

三 第四十八條第一項ニ依リ指定シタル日時及場所ニ度量衡器ノ提出ヲ怠リタル者

附 則

第五十六條 本則ハ度量衡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 第三十一條度器ノ第四號、第七號但書、量器ノ枡及斗概ノ第二號、第八號、第十八號、第十九號、第二十七號乃至第二十九號及第三十三號、衡器ノ第十號乃至第十二號、第十五號、第十六號、第十八號、第二十號、第二十一號、第二十四號、第二十五號、第二十九號、第三十二號、第三十五號乃至第三十七號ノ規定及第二十七號中十分秤及自働秤以外ノ秤ニ關スル規定ハ「ヤード、ポンド」法度量衡器ヲ除クノ外明治四十二年十二月三十一日迄ニ度量衡器ノ檢定ヲ請求スル者ノ申請アリタル場合ニ限リ其ノ檢定ニ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ明治三十六年農商務省令第十號第十三條、第十七條、第十八條第一項、第二十三條第二項、第二十四條、第二十六條第二項、第二十八條ノ規定及第十五條第一項中圓壔形枡ニ關スル規定ヲ適用ス

第五十八條 木製枡ノ檢定ニ付テハ明治四十二年十二月三十一日迄檢定ヲ請求スルモノニ限リ左ノ各號ニ依ルコトヲ得

一 第三十一條中量器ノ枡及斗概ノ第一號ニ規定シタル材料ノ外液用枡ノ材料ニハ椹、姬子松又ハ銀杏、其ノ他ノ枡ノ材料ニハ銀杏ヲ用ウルコトヲ得

二 木製枡ハ全量一升ノモノノ外全量二升以上一斗以下ノモノニ在リテモ左ノ寸法ニ依リ之ヲ方形ト爲スコトヲ得但シ其ノ寸法ハ五厘以下ノ增減アルヲ妨ケス

種類	方ノ寸法
二升ノモノ	六寸一分七厘
五升ノモノ	八寸三分四厘
一斗ノモノ	一尺五分

前項第二號ノ枡ニハ鐵帶ヲ四隅ニ於ケル外側ヲ通シテ底部ニ折曲ケ之ヲ緊著スヘシ

前二項ノ規定ハ明治四十二年十二月三十一日以前ニ檢定ヲ請求シテ合格シタル木製枡ニシテ檢定證印アルモノノ檢定ニ付明治四十七年六月三十日迄之ヲ適用ス

第五十九條 度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依ル檢査ハ業務上取引若ハ證明ノ爲使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル度量衡器ニ付之ヲ行フヘシ

前項ニ依リ檢査ヲ行ヒタル度量衡器ニシテ度量衡法施行令第二表ノ種類ニ屬シ其ノ器差同令第十六條ノ公差ヲ超エス且第四十九條ノ規定ニ適合スルモノニ限リ之ヲ合格トシ之ニ附スヘキ證印ハ第三十九條ノ雛形及種類ニ依ルヘシ

第六十條 第四十八條第一項ノ規定ハ前條ノ檢査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依リ檢査ヲ受クヘキ「ヤード、ポンド」法度量衡器ニシテ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタルモノナル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器ノ所在地ニ於テ檢査ヲ受ケムトスル者ハ明治四十四年四月三十日迄ニ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ其ノ度量衡器ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ差出スヘシ

第三十三條第三項ノ規定ハ前項ノ出願ノ許可アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第三十四條ノ規定ハ度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依ル檢査ニ之ヲ準用ス

第一號書式

收入印紙

度器檢定請求書

貼付シタル收入印紙ノ額金何圓

種類	全長	物質	目盛	目盛ノ段數	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
					製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
直尺又ハ何尺	何尺、何「メートル」又ハ何「ヤード」	竹、鋼鐵又ハ何々	二厘以下、二分ノ一「ミリメートル」以下又ハ何「インチ」以下ノ目盛何尺、何「インチ」何「メートル」又ハ何「インチ」	何段	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
合計											／	何圓

右檢定及請求候也

年　月　日

營業所（住所）
製作者、修覆者又ハ販賣者氏名又ハ名稱　印

農商務大臣（道廳長官府縣知事）宛

注意

一 物質、種類、全長、目盛及目盛ノ段數ノ異ナルモノハ各別欄ニ之ヲ記載スヘシ以下各號之ニ準ス

一 目盛ノ欄ニハ二厘以下、二分ノ一「ミリメートル」以下又ハ六十四分ノ一「インチ」以下ノ目盛アルモノニ限リ其ノ目盛及其ノ目盛アル部分ノ長ヲ記載スヘシ

一 異種ノ度ノ名稱ノ目盛ヲ併セ盛リタルモノハ全長ノ欄ニハ其ノ名稱及全長、目盛ノ欄ニハ其ノ名稱及目盛ヲ記載スヘシ以下各號之ニ準ス

一 製作者、修覆者又ハ販賣者以外ノ者ニ在リテハ其ノ住所ヲ氏名又ハ名稱ニ肩書スヘシ以下各號之ニ準ス

第二號書式

收入印紙

量器檢定請求書

貼付シタル收入印紙ノ額金何圓

枡及化學用量器

種類	全量	目盛	用途	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
				製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
圓壔形若ハ何形玻璃枡又ハ何形何製枡	何「リツトル」又ハ何升	五分ノ一「センチリツトル」以下又ハ五分ノ一勺以下ノ目盛何「センチリツトル」又ハ何勺	液用穀用又ハ雜用	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
化學用量器「メスフラスコ」又ハ何々	二「デシリツトル」又ハ何「デシリツトル」	何十又ハ何百	／								何圓
合計										／	何圓

斗概

種類	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
	製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
圓壔狀大、中若ハ小又ハ板狀大、中若ハ小	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
合計							／	何圓

右檢定及請求候也

年　月　日

營業所（住所）
製作者、修覆者又ハ販賣者氏名又ハ名稱　印

農商務大臣（道廳長官府縣知事）宛

注意

一 目盛ノ欄ニハ枡ニ在リテハ五分ノ一勺又ハ五分ノ一「センチリツトル」以下ノ目盛アル玻璃製枡ニ限リ其ノ目盛及其ノ目盛アル部分ノ容量化學用量器ニ在リテハ「ピペツト」及「ビユレツト」ニ限リ全量以下ノ目盛ノ數ヲ記載スヘシ

一 用途ノ欄ニハ木製枡ニ限リ其ノ用途ヲ記載スヘシ

第三號書式

收入印紙

衡器檢定請求書

貼付シタル收入印紙ノ額金何圓

秤

種類	番號	秤量	感量	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
				製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
天秤又ハ上皿天秤	自第何號至第何號又ハ第何號、第何號	何貫、何斤、何「キログラム」又ハ何「ポンド」	何分ノ一	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
合計										／	何圓

種類	番號	秤量	目盛ノ段數	錘附屬ノ有無	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
					製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
臺秤、上皿桿秤又ハ何々秤	自第何號至第何號又ハ第何號、第何號	何貫、何斤、何「グラム」又ハ何「ポンド」	何段	定量錘又ハ定量增錘ヲ附ス（若ハ附セス）	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
合計											／	何圓

分銅

形狀	物質	重量	檢定請求事由別箇數						一箇ノ手數料	手數料
			製作	修覆	輸入	使用中ノモノ	何々	計		
圓壔形、何形又ハ板狀	眞鍮、鐵又ハ何々	何匁、何「グラム」又ハ何「グレーン」	箇	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
合計									／	何圓

第7800号 本文

錘

種類	物質	掛量	實量	檢定請求事由別箇數					一箇ノ手數料	手數料
				製作	修覆	輸入	使用中ノモノ何々	計		
定量錘	鐵、眞鍮又ハ何々		何匁	箇	箇	箇	箇	箇	何錢	何圓
定量增錘	鐵、眞鍮又ハ何々	何貫、何「キログラム」又ハ何「ポンド」	掛量トノ比何分ノ一						何錢	何圓
合計										何圓

右檢定及請求候也

年　月　日

營業所（住所）

製作者、修覆者又ハ販賣者氏名又ハ名稱　印

農商務大臣（道廳長官府縣知事）宛

注意

一　定量錘附又ハ定量增錘附ノ秤ニ在リテハ種類毎ニ其ノ旨稱秤ニ在リテハ其ノ物質ヲ附記スヘシ

一　二以上ノ支點アル桿秤ニシテ同一ノ名稱命位ニ依ル秤量及掛量ヲ表ハスモノニ在リテハ其ノ各段ノ目盛ハ之ヲ一段トシテ目盛ノ段數欄ニ記載スヘシ

一　錘附屬有無ノ欄ニハ定量錘又ハ定量增錘附ノ秤ニ限リ其ノ附屬ノ有無ヲ記載スヘシ

○告示

內務省告示第七十八號

明治三十年法律第二十九號砂防法第二條ニ依リ砂防設備ヲ要スル土地左ノ通指定ス

明治四十二年六月二十六日　內務大臣　法學博士男爵平田東助

三重縣

郡名	村名	大字名	字名	地番
阿山	丸柱	音羽	羽根	一〇七四ノ一
同	三田	大谷	世古官山	六三、六四、七四、七五
同	新居	西村	ナメリ	四〇七、三九七、四二五、四二九、四三〇、四三一、五〇七
同	同	同	爪淵	三三〇
同	同	同	神明谷	八四四
同	同	同	鬼屋	四七六ノ一
名賀	古山	湯屋谷	唐川	五二〇、五二五、五六二、五六四ノ三、五六八ノ二、五八二、五九八、五九八ノ一、六〇四ノ二、六一二ノ一、六二一
同	同	藏縄手	鳥ケ森官山	一三一四、一四〇五、一四一八、一四四九、一四六一、一四九九
同	同	同	柳川內	一二九九、一三〇一
同	同	同	後谷	一〇七一、一〇九一
同	同	東谷	御殿	二四八、二七一
同	同	同	長尾	四二二、四二三、四二四、四八三、五三一、五三三、五三四、五五〇、五七〇、五七七、五八五、五八七、五八八、六一七
同	同	南	大間官山	一二〇一、一二三六

內務省告示第七十九號

明治三十年法律第二十九號砂防法第六條ニ依リ明治四十二年度ヨリ本大臣ニ於テ左記區域內ノ土地ニ砂防工事ヲ施行ス

明治四十二年六月二十六日　內務大臣　法學博士男爵平田東助

三重縣

郡名	村名	大字名	字名	地番
阿山	丸柱	音羽	羽根	一〇七四ノ一
同	三田	大谷	世古官山	六三、六四、七四、七五
同	新居	西山	石谷	
同	同	同	谷山	
同	同	西村	ナメリ	四〇七、三九七、四二五、四二九、四三〇、四三一、五〇七
同	同	同	爪淵	三三〇
同	同	同	神明谷	八四四
同	同	同	鬼屋	四七六ノ一
名賀	古山	湯屋谷	唐川	五二〇、五二五、五六二、五六四ノ三、五六八ノ二、五八二、五九八、五九八ノ一、六〇四ノ二、六一二ノ一、六二一
同	同	藏縄手	鳥ケ森官山	一三一四、一四〇五、一四一八、一四四九、一四六一、一四九九、
同	同	同	柳川內	一二九九、一三〇一
同	同	同	後谷	一〇七一、一〇九一
同	同	東谷	御殿	二四八、二七一
同	同	同	長尾	四二二、四二三、四二四、四八三、五三一、五三三、五三四、五五〇、五七〇、五七七、五八五、五八七、五八八、六一七
同	同	南	大間官山	一二〇一、一二三六

大藏省告示第九十六號

紛失ニ因リ效力ヲ失セタル記名國債證券左ノ如シ

明治四十二年六月二十六日　大藏大臣　侯爵桂太郎

證券種別	額面金額種類	記號	番號	附屬利札	代證券交付年月日	仕拂期開始利札ニ對スル代現金仕拂年月日	記名者
軍事公債證書	百圓	い	第九〇〇八	明治三十八年十二月渡以降	明治四十二年五月三十一日	明治四十二年五月三十一日 但自同三十八年十二月至同四十一年十二月渡ノ分	藤井惣藏
同	五拾圓	同	第三五八號	同	同	同	同人
同	百圓	ろ	第六九八〇〇	同	同	同	同人
同	五拾圓	同	第四五四號	同	同	同	同人

文部省告示第二百一號

千葉縣山武郡松尾町ニ徒弟學校規程ニ依リ千葉縣山武郡立松尾實業學校ヲ設置シ明治四十二年六月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年六月二十六日　文部大臣　小松原英太郎

農商務省告示第三百三號

明治四十二年六月二十三日左記專用漁業權者ノ代表者ヲ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治四十二年六月二十六日　農商務大臣　男爵大浦兼武

免許番號	免許年月日	漁業權者ノ代表者ノ名稱住所
第一四二六號	明治四十一年十月六日	熊本縣天草郡坂瀨川村　坂瀨川村漁業組合

遞信省告示第五百九十三號

來七月一日ヨリ左記郵便局ノ特設電話ヲ明治三十九年六月遞信省令第二十五號電話規則ニ依ル電話ニ變更ス

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
御影郵便局	兵庫縣武庫郡御影町

遞信省告示第五百九十四號

明治三十九年六月遞信省告示第二百六十四號電話加入登記料、電話使用料、名義書換料及電話番號簿揭載料ニ關スル土地種別中丁地「足利」ノ次ニ左記箇所ヲ追加ス

御影

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

遞信省告示第五百九十五號

明治三十年十二月遞信省告示第三百五十七號電話加入區域中「足利」ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

局名	普通加入區域	特別加入區域
御影	兵庫縣武庫郡御影町（大字石屋字上字平野ヲ除ク）、都賀濱村大字新在家、同大石、六甲村大字八幡字走出、住吉村（字住吉東谷、同住吉西谷、同山田、同立入山、同鴨子ケ原ヲ除ク）、魚崎村大字魚崎	兵庫縣武庫郡西灘村大字森村、同味泥、同岩屋、同原田（字青谷ヲ除ク）、同河原、魚崎村大字横屋、本庄村大字青木（電車線路以北ヲ除ク）、同西青木、同深江（電車線路以北ヲ除ク）、本山村大字野寄、同田中、同岡本、六甲村大字八幡（字走出及鐵道線路以北ヲ除ク）、同德井、御影町大字石屋字上石屋、大字御影字平野

遞信省告示第五百九十六號

來七月六日ヨリ左記郵便局ノ電話加入申込ヲ受理ス希望者ハ明治三十九年六月遞信省令第二十五號電話規則ニ依リ加入申込書ヲ差出スヘシ但シ電話交換業務開始ノ日ハ追テ之ヲ告示ス

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
三條郵便局	新潟縣南蒲原郡三條町

遞信省告示第五百九十七號

明治三十九年六月遞信省告示第二百六十四號電話加入登記料、電話使用料、名義書換料及電話番號簿揭載料ニ關スル土地種別中丙地「彥根」ノ次ニ左記箇所ヲ追加ス

三條

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

遞信省告示第五百九十八號

明治三十年十二月遞信省告示第三百五十七號電話加入區域中「室蘭」ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十二年六月二十六日　遞信大臣　男爵後藤新平

局名	普通加入區域	特別加入區域
三條	新潟縣南蒲原郡三條町大字三條、同一ノ木戶、同田島、同北中ノ內（鐵道線路以北ノ地）、大島村大字上須頃字山利、本成寺村大字四日町、裏舘村大字西裏舘、同東裏舘	新潟縣南蒲原郡三條町大字北中（鐵道線路以北ノ地ヲ除ク）、裏舘村大字荒町、同新光、本成寺村大字西本成寺、同東本成寺、同新保、同曲淵、同諏訪新田、同月岡、大崎村大字下坂井、同三竹、同西大崎

正誤

昨二十五日官報勅令第百六十九號度量衡法施行令第三表中錘ノ部斜線ノ下ニ横劃線ヲ、第四表度器ノ公差ノ部全長ノ公差種類欄縮尺ノ下ニ。、ヲ孰モ脫ス（以上誤植）

○敍任及辭令

○明治四十二年六月二十五日

陞敍高等官五等　種馬所長正七位勳四等　川村勇藏

陞敍高等官三等　內務技師正六位　田賀奈良吉

陞敍高等官三等　內務技師正六位　眞田秀吉

陞敍高等官四等　內務技師從六位　新開壽之助

任陸軍三等軍醫正　陸軍一等軍醫從六位勳四等　三田重吉

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳六等功五級　三上剛太郎

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳六等　矢野角吉

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳六等　勝亦秀三

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳五等　野口春雄

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳六等　坂本安太郎

任陸軍二等軍醫　陸軍三等軍醫正八位勳六等　肝付靜吉

任福島縣技師　敍高等官三等　千葉縣技師從五位勳五等　石山騰太郎

任千葉縣技師　敍高等官四等　福島縣技師正六位勳五等　古賀孝久

陞敍高等官六等　奈良縣北葛城郡長從七位勳七等　片山安太郎

陞敍高等官七等　栃木縣警視正八位勳七等　水野保高

陞敍高等官七等　島根縣警視正八位勳七等　袖山金次郎

福島縣農事試驗場技師兼福島縣農業技師ニ任ス　千葉縣農業技師從五位勳五等　石山騰太郎

五級俸下賜　馬政局技師　中西水之丞

三級俸下賜　種馬所長　南澤時義

七級俸下賜　種馬所長　澤村狷藏

八級俸下賜（以上六月二十五日　內閣）　種馬所長　島本格十郎

二級俸下賜　廣島縣蘆品郡長　齋藤次郎

四級俸下賜　廣島縣蘆品郡長　小林正敏

五級俸下賜　廣島縣比婆郡長　荒木喬

六級俸下賜　廣島縣世羅郡長　古玉壽太郎

五級俸下賜（以上六月二十四日　內務省）　廣島縣山縣郡長　田原喜藏

補韓國駐箚憲兵隊分隊長　陸軍憲兵中佐　山形閑

免本職補韓國駐箚憲兵隊副官　韓國駐箚憲兵隊分隊長陸軍憲兵少佐　藥師川常義

陸軍憲兵大尉　大橋常三郎

陸軍憲兵大尉　鈴木平

陸軍憲兵大尉　野田三郎

第7800号　本文

陸軍憲兵大尉　小師三郎
陸軍憲兵中尉　吉田馬吉
陸軍憲兵中尉　石崎直太郎
陸軍憲兵中尉　立川吉太郎
陸軍憲兵中尉　小栗直臣
陸軍憲兵中尉　阿部操太郎
陸軍憲兵中尉　藤井泰秀
陸軍憲兵中尉　加藤菊治
陸軍憲兵中尉　井原德松
陸軍憲兵中尉　柏田金助
陸軍憲兵中尉　鈴岡正一
陸軍憲兵中尉　三上直治
陸軍憲兵中尉　古森雄能夫
陸軍憲兵中尉　伊集院榮吉
陸軍憲兵中尉　金田準助
陸軍憲兵中尉　木村儀平
陸軍憲兵中尉　加屋賜孫
（各通）
補韓國駐箚憲兵隊附（以上六月十二日　陸軍省）

陸軍工兵少佐　中村正一
補鐵道聯隊附（六月二十日　同）

陸軍三等軍醫正　三田重吉
陸軍砲兵中尉　横關小三郎
（各通）
豫備被仰付（六月二十五日　同）

監獄醫　美濃部龍吉
監獄醫　江口康一郎
二級俸下賜
（各通）

監獄醫　時澤幾造
敎誨師　鎌田霽岳
四級俸下賜
六級俸下賜

敎誨師　藤居神通
敎誨師　苅屋哲公
七級俸下賜（以上六月二十四日　司法省）
（各通）

東京區裁判所判事兼東京地方裁判所判事　長谷川道也
東京區裁判所判事兼東京地方裁判所判事　石井博
東京區裁判所判事兼東京地方裁判所判事　岩本勇次郎
（各通）
解本職專補東京地方裁判所判事

東京區裁判所判事判事　岡本武侑
東京區裁判所判事判事　遠藤誠
東京區裁判所判事判事　笠井健太郎
東京區裁判所判事判事　新保勘解人
東京區裁判所判事判事　山根千代吉
（各通）
兼補東京地方裁判所判事

東京地方裁判所判事判事　長谷川道也
八級俸下賜

東京地方裁判所判事判事　石井博
東京地方裁判所判事判事　岩本勇次郎
（各通）
九級俸下賜

司法官試補　神津正之
宇都宮區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補　齋田貞三
宇都宮區裁判所檢事代理ヲ命ス（以上六月二十五日　同）

盛岡高等農林學校敎授　村松舜祐
十級俸下賜（六月二十四日　文部省）

東京帝國大學理科大學敎授理學博士　坪井正五郎
學術上取調ノ爲長野縣下ヘ出張ヲ命ス（六月二十四日　東京帝國大學）

海事局技師　荒木賢保
三重縣四日市ヘ出張ヲ命ス（六月二十五日　遞信省）

○宮廷錄事

○節折大祓次第　本月三十日節折竝ニ大祓次第左ノ如シ

節折次第

正午十二時御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス（鳳凰ノ間ヲ用フ）
午後第一時宮內省官員參候
次掌典長
出御ヲ奏請ス
次掌典長以下進テ庇ニ候ス
出御
次掌典長進テ　天氣ヲ候フ
次侍從荒世ノ御服ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
次掌典長荒世ノ御麻ヲ執テ侍從ニ附ス
次侍從御麻ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典長ニ傳フ
次掌典荒世ノ竹ヲ執テ侍從ニ附ス
次侍從竹ヲ以テ　御體ヲ量リ奉ル（五度）畢テ掌典ニ傳フ
次掌典荒世ノ壺ヲ執テ侍從ニ附ス
次侍從壺ヲ供ス畢テ返シ給フ侍從掌典ニ傳フ
次和世ノ具ヲ進ル　其式荒世ノ儀ノ如シ畢テ入御
次掌典御贖物ヲ執テ大河ニ參向ス
次掌典補御麻ヲ執テ祓所ニ向フ
次各退出

大祓次第

午後第一時三十分庭上ノ舖設竝ニ祓物ヲ具備ス
同第二時掌典長以下著床
同時各廳勅奏判任官各一人著床
次掌典補二人庭中案上ノ御麻ニ祓ノ稻ヲ挿ム
次掌典長掌典ヲ召テ祓ノ事ヲ仰ス
次掌典案前ニ進テ大祓ノ詞ヲ讀畢ル掌典一人進テ案上ノ大麻ヲ執テ退キ著床ノ諸員ニ向ヒ祓ヒ畢テ大麻ヲ掌典補ニ授ク
此間著床ノ諸員起ツ
次掌典補祓物ヲ執テ大河ニ參向ス
次各退出

○彙報

○官廳事項

○瑞典國公使歸任　本邦駐箚瑞典國特命全權公使グスタフ、オスカル、ワルレンベルグ本月二十一日歸任復職セシ旨同公使ヨリ同日附ヲ以テ通知アリ

○官吏發著　曩ニ弘前地方ヘ出張ノ本多騎兵第三旅團長ハ本月十九日、師團長ニ隨行ノ第五師團參謀長古海嚴潮及中目第五師團軍醫部長ハ同二十日、愛媛縣松山市ヘ出張ノ佐治歩兵第九旅團長ハ同二十二日、宇都宮及栃木地方ヘ出張ノ由比歩兵第二十七旅團長ハ同二十三日孰モ歸著●山口縣吉敷郡山口町ヘ出張ノ木越第五師團長ハ同二十日歸著更ニ歩兵第七十一聯隊第三期敎育檢閱及重砲兵第四聯隊第二期敎育檢閱視察ノタメ廣島縣賀茂郡原村ニ向ヒ同二十一日、木村第十八師團長ハ佐世保、長崎重砲兵大隊及歩兵第五十五聯隊檢閱視察ノタメ佐世保、長崎、佐賀地方ニ向ヒ同師團參謀長宇宿行輔ハ師團長ニ隨行ノタメ同地方ニ向ヒ同二十一日、鮫島第十四師團長ハ歩兵第二聯隊工兵第十四大隊水戶聯隊區司令部及水戶衞戍病院臨時檢閱ノタメ水戶地方ニ向ヒ同師團參謀長矢野伊平ハ師團長ニ隨行ノタメ同地方ニ向ヒ同二十三日孰モ出發セリ

訴訟事件ニ付キ茨城縣下ヘ出張ヲ命セラレタル田中行政裁判所評定官ハ一昨二十四日出發セリ

曩ニ上京ノ石川縣事務官片岡文理ハ本月十九日出發歸任●德島縣事務官堀內秀太郎ハ同二十三日上京セリ

○官吏死去　山口縣警視正八位勳八等渡邊昴ハ本月二十日死去セリ

○陸海軍

○水路告示第二千百六十九號

一艦船ニ於テ此告示ヲ領受シタルトキハ速ニ其關係ノ圖誌ヲ改正增補センコトヲ要ス
一方位ハ總テ磁針ニシテ燈臺ノ方位ハ海方ヨリ取ル
一經緯度ハ別ニ記事ナキトキハ總テ概位ナリ
一燈臺等ノ光達距離ハ晴夜ニ於ケルモノナリ
一霧中信號ハ暗礁若クハ霧靄アル天氣ノ時ノミ施行ス然ラサルモノハ特ニ其旨ヲ注記ス
一水深ハ平均大低潮面下ノモノヲ示ス
一高ハ平均大高潮面上ノモノヲ示ス

第六六五九項
內海　友ケ島水道加太瀨戶
危險物ノ沈置
一記　事　明治四十二年六月二十五日官報海軍省告示第一二二號ヲ注視スヘシ

右告示ス

明治四十二年六月二十六日
水路部長　中尾雄

注　意

一當部刊行ノ圖誌類ハ左記ノ各地ニ於テ之ヲ販賣ス
日本郵船株式會社東京本店〇神戶、長崎、函館、門司ノ四支店及大阪荷扱所
一此告示ノ印刷物ハ若干部ヲ前記ノ圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者臨時ノ要望ニ應スヘシ
一此告示ノ印刷物ハ左記ノ韓國沿海各理事廳及帝國領事館ニモ送付シアルヲ以テ各航海者ハ隨時該處ニ就テ覽閱スルヲ得ヘシ
鎭南浦　馬山　仁川　木浦　群山　元山　城津〇孟買　新嘉坡　馬尼剌　香港　盤谷
廈門　汕頭　上海　漢口　杭州　福州　芝罘　天津　牛莊　浦鹽斯德　晚香坡　シヤトル
桑港　ホノルヽ　シツニー
一海上ノ危險ヲ發見シ又ハ航海上現行圖誌ノ改補ニ必要ナル實驗ヲ爲シタルトキハ速ニ其當事者ヨリ直接水路部ニ報告アランコトヲ希望ス依テ便宜ノ爲メ水路報告用紙ト題セル印刷物若干部ヲ第一號ニ記セル各圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者ノ要望ニ應ス但必スシモ此用紙ヲ用ユルニ及ハス

○生徒退校　陸軍中央幼年學校豫科第二學年生徒河合五郎ハ同校條例第十七條第四號ニ依リ本月二十二日退校セリ（陸軍省）

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ

艦名	月日	著	發	行先
卷雲	六、二四		佐世保	吳
赤城	同	旅順		
武藏	同	內保		
大和	同		富內	小樽
隅田	同	九江		
千歲	同	上海		
朝風	六、二五		吳	安藝灘
松江	同		能登呂	小樽
阿蘇 宗谷	同	ホノルル		
淺間	同	下關		

英國軍艦「モンモース」ハ威海衞ヲ發シ本月十八日、米國軍艦「チヤウンシー」「デール」「バアリー」「ベインブリッヂ」ハ橫濱ヲ發シ同日、同「レインボー」ハ同所ヲ發シ同十九日孰モ長崎ヘ投錨、佛國軍艦「ダレトルカストー」ハ同二十二日橫濱ニ向ヒ同所ヲ拔錨セリ（長崎縣）

（海軍省）

○學事

○手工科敎授視察復命　曩ニ手工科敎授視察ノタメ長野、新潟兩縣ヘ出張シタル文部省視學委員岡山秀吉ヨリ該科敎授上ノ注意ニ關シ復命シタル大要左ノ如シ（文部省）

手工科敎授上ノ注意

（一）作業ノ種類ハ土地ノ事情ニ顧ミテ精選スルヲ要ス

今回視察セシ各學校ノ敎授細目ニ就キテ見ルニ師範學校ノ敎材ハ大體當ヲ得今回文部省委員ノ調査報告トシテ發表セラレタル師範學校敎授要目ニ比シテ大差ナシ又女子師範學校ニ在リテハ從來確定セルモノナカリシカ今後ハ右師範學校敎授要目ノ示ス所ニ準シテ選定セントスルモノヽ如クニシテ未タ之ニ就キテ適否ノ論スヘキモノナシ然ルニ小學校ニ在リテハ現今使用セル敎授時間ノ概シテ少キニ拘ラス尙ホ又土地ニ依リテ多少事情ノ異ナルモノアルニ關セス概ネ文部省編纂（小學校敎師用）手工科敎科書ニ所載ノ諸細工ヲ成ルヘク遺漏ナク且ツ輕重ナク敎ヘント企圖セルモノヽ如シ素ヨリ小學校ニ於ケル手工ハ一般的ナル製作ノ技能ヲ與フルヲ以テ主要目的トシ特種的專門的ナルヲ許サレハ其範圍ノ廣キハ寧ロ喜フヘシト雖モ敎授時間ノ少數ナルニ餘リニ多數ノ種類ヲ網羅セントシ或ハ土地ノ事情ニ毫モ顧慮スル所ナク徒ラニ敎科書ヲ死守スルカ如キハ決シテ策ノ得タルモノト謂フヘカラスサレハ今少シク敎授時間數ト土地ノ事情トヲ參酌シテ或ハ之ヲ取捨シ或ハ之ニ輕重ヲ付スル等ノコトアランヲ要ス又或ル注意ノ下ニ敎科書以外ノ地方的ノ細工ヲ加フルヲ妨ケサルナリ文部省編纂（小學校敎師用）手工敎科書ノ凡例ニ曰ク「本書ハ標準ヲ全國ニ取リテ成ルヘク各地通有ノ敎材ヲ選擇シ又敎材ノ敎育的價値ヲ普通的ニ觀察シテ之カ敎材ノ配當ヲ行ヒタリ故ニ殊ニ特別ノ事情アル土地ニ適切ナラシメント欲セハ其事情ニ應シテ細工ノ種類ヲ加除シ或ハ各細工ニ對スル敎授時間ノ割合ヲ變更シ又他ニ適當ト認ムル細工アラハ本書ノ例ニ依リ方案ヲ定メテ適宜敎授スルコト素ヨリ必要ナラン然レトモ地方產業等ノ關係ヨリ一二ノ細工ノミヲ採リ之ニ熟練セシメテ直接ニ生產ノ幇助タラシメンコトヲ計ルカ如キハ寧ロ避クルヲ至當トス云々」ト同書ヲ使用スルモノ其意ノ在ル所ヲ察知シ宜シク發動的ニ研究スル所アルヲ要スヘシ

（二）工夫製作ヲ多クスヘシ

敎授細目ニ徵シ且ツ敎授ノ實況ニ就キテ見ルニ現今手工敎授ノ大勢ハ物品ノ製作方法ヲ敎ヘ込ムニ急ニシテ生徒自ラヲシテ工夫創作セシムルコト極テ稀ナルカ如シ今回視察セシ二十六箇學級ノ授業中二三ヲ除クノ外ハ殆ト皆摸倣的注入的ノ敎授ナリキ卽チ孰モ敎師自己ノ豫定セシ製作ノ順序方法ヲ單ニ生徒ニ摸倣セシムルニ在リキ素ヨリ此ハ手工敎授上必要ナル一ノ敎法ニシテ且ツ新奇ナル工具ノ使用練習或ハ工作法ノ基礎的練習等ニ於テハ此ノ敎法ニ依リテ嚴格ナル規律ノ下ニ敎師ノ摸範ニ倣ヒテ作業セシムルコト必要ナリト雖モ而モ兒童ノ漸ク使用工具ノ用法及某種製作ノ基礎的方法ニ習得スルニ及ヒテハ又時々兒童自ラヲシテ或ハ自己ノ希望セル製品ヲ選定セシメ或ハ敎師ノ指定セル敎授題目ノ下ニ自己ノ意匠工夫ヲ實地ニ發表セシメ以テ此等心的作用ノ發達ヲ促サヽルヘカラス此ハ實ニ製作ニ對スル根本力ノ養成タルノミナラス又心意鍛錬ノ良法ニシテ現今ノ敎科案上手

第7800号　本文

工科ヲ見ルニ至リシ所以ノモノ亦此ニ存スルモノ多キヲ信ス但シ此種ノ作業ハ兒童ノ動作區々ニシテ彼ノ注入的摸倣的ノ教授ニ比スレハ多少其指導及管理ニ困難ヲ覺ユルカ如キ場合ナキニアラスト雖モ教師ニシテ相當ノ伎倆ヲ有シ適當ニ之ヲ誘導啓發スル所アランニハ其ハ兒童ニ一層深厚ナル興味ヲ與ヘテ能ク彼等ヲ鼓舞シ其作業上ニ非常ナル奮勵努力ヲ用ヒシムルニ至ランコト予カ經驗ニ徴シ信シテ疑ハサル所ナリ

（三） 説明ノ時間ヲ短クシ實習ノ時間ヲ長クスヘシ

手工ハ物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トシ從テ生徒ノ活動ヲ專トスヘキ學科タルコト素ヨリ論ナシサレハ摸倣的製作ナルト工夫製作ナルトヲ問ハス製作ニ際シテ爲ス所ノ説明或ハ問答ノ如キハ成ルヘク簡單明瞭ニ少時間ニ於テ之ヲ終ヘ其觀念ヲ製品ニ發表セシムヘキ實習ニハ成ルヘク多クノ時間ヲ用ヒシムル如ク爲サヽルヘカラス然ルニ今回視察シタル授業ノ多クハ事之ニ反シ説明或ハ問答ニ多クノ時間ヲ費シ甚シキニ至リテハ其教授ノ目的ノ實習ニ在リシニ拘ラス漸ク兒童ヲシテ材料工具ニ手ヲ觸レシメタルノミニテ既ニ時限ノ鐘聲ヲ聞キタルサヘアリキ斯ノ如ク教師ノ活動的ニシテ生徒ノ受働的ナル教授ハ他ノ知識的教科ニ於テハ或ハ恕スヘケンモ手工ノ如キ技能的教科ニ於テハ斷シテ之ヲ禁セサルヘカラスサレハトテ製作ニ必要ナル觀念ヲ明瞭ナラシメスシテ製作ニ着手セシメンカ是レ又種々ノ混雜ヲ生シテ到底教授ノ目的ヲ達シ得ヘキニアラス故ニ製作前ニ於テ爲サントスル説明或ハ問答ニ關シテハ豫メ充分ニ其内容ヲ精選シ順序ヲ定メ且ツ標本或ハ掛圖等ヲ利用シ以テ迅速ニ其要領ヲ收得セシムルノ工夫アランコトヲ望ム

（四） 成ルヘク標本及掛圖ヲ利用スヘシ

本科教授ニ於テ製作セシムヘキ物品ノ形狀構造等ヲ敏活明瞭ニ知ラシムル最モ有效ナル手段ハ實物標本ヲ示スニ在ルヤ素ヨリ論ヲ俟タサルコトニシテ之ニ反シ何等直觀ノ方便ヲ用ヒス只單ニ長々シキ談話ヲ爲スカ如キハ迂遠ノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス但シ其標本ハ教室内ノ何ヨリ望ムモ明ニ看取シ得ヘキモノニアラサレハ良ク其目的ヲ貫徹シ得サルヘキヲ以テ成ルヘク大形ノモノタルコト必要ナリ然ルニ今回ノ視察中ニ於テハ必要ニ際シ全ク之ヲ缺キテ長々シキ談話ヲ爲シタルモノ或ハ之ヲ用ヒシモ其形餘リ小ニ過キタルモノ等遺憾ニ感セシ場合甚タ多カリキ

又掛圖ハ製品ノ寸法削屬形製作ノ次第等實物標本ノ及ハサル點ヲ指示スルニ便ナレハ標本ト共ニ成ルヘク教師ノ勞力ニ依リテ之ヲ備フルノ要アリ是レ簡單ナル圖ハ教授ニ際シ直ニ板書スルヲ以テ可トスレトモ稍〻複雜ナルモノニ至リテハ爲ニ多クノ時間ヲ費シ大ニ教授ノ進捗ヲ妨クルノミナラス其圖モ亦多クハ不完全ナルヲ免レ難ケレハナリ而シテ之カ増殖ヲ計ルノ一法ハ時ニ應シ板書スル代ニ豫メ教師自ラ紙ニ描キ置キテ使用シ一旦使用シタル後之ヲ掛圖ニ製シテ他日ノタメニ保存スルニ在リ今回視察ノ學校中一二此等ノ點ニ注意セルモノナキニアラサリシモ概シテ未タ甚タ不充分ナルヤノ感アリタレハ將來一層此等ノ點ニ力ヲ加ヘ以テ教授ノ便利ヲ計ルノ必要アリト信ス

（五） 工具ノ選定及其使用法手入法ニ意ヲ用フヘシ

工具ハ製作ト大ナル關係ヲ有シ工具不適當ナレハ決シテ佳良ナル製品ヲ得ル能ハサルノミナラス其仕事モ亦愉快ナル能ハサルナリ然ルニ今回觀察セシ學校ノ中ニハ比較的不必要ナル工具ヲ備ヘテ必要ナルヲ遺シ又其大サノ過大過小或ハ品質ノ粗惡ニシテ殆ト使用ニ堪ヘサルヲ備フルモノ少カラサリキ但シ是等ノ失誤ハ稀ニハ經費ノ都合上賤價ノ物品ヲ採ルノ已ムヲ得サルニ出テ或ハ教師ノ之カ良否ヲ甄別スルノ明ヲ缺クルニ因ル場合ナキニアラスト雖モ其多クハ購入ノ粗忽ニ歸スルカ如クナレハ之ヲ購入スルニ當リテハ特ニ豫メ工具ト其用途及使用者トノ關係ヲ嚴密ニ調査シ苟モ其處置ヲ誤ルカ如キコトヲ勿ラシメサルヘカラス是レ今日ノ學校經濟上大ニ注意ヲ要スヘキコトナラン又手工ニ於テハ適當ナル工具ヲ選フト共ニ之カ適當ナル使用法及手入法ヲ授クルヲ要ス製作ノ能ヲ與フルヲ以テ手工教授ノ目的ニ向ヒテハ工具ノ使用法手入法ヲ授クルト物品ノ製作法ヲ教フルトハ其價値ニ於テ何等逕庭ナキナリ彼ノ「工匠ノ伎倆ヲ知ラント欲セハ先ツ其用具ヲ檢スヘシ」トハ寔ニ不磨ノ至言ナリトス而モ現今手工教授ノ大勢ハ工具ノ使用法及手入法ニ向ヒテ幾分注意ヲ拂フニ至レリト雖モ其教授ノ主力ハ依然物品製作ノ上ニノミ注カレ工具ニ就キテハ輕ク顧ミラルヽニ過キサルカ如シ今回ノ觀察中ニ於テモ生徒ノ工具ヲ使用スルニ方リ嚴禁ニ値スヘキ所爲ヲ敢テシ或ハ研磨法ヲ誤リ或ハ裏刃ノ切レタルヲ所持スル者等屢〻之アリシモ教師ノ之ニ對シテ適當ノ指導ヲ與ヘシハ甚タ稀ニシテ中ニハ刃物手入ノ場所トシテ最モ必要ナル研場ノ設備ヲ缺ケルモノサヘアリキサレハ向後ハ工具ノ選定ニ注意スルト同時ニ又其使用法及手入法ニ向ヒテ一段ノ注意ヲ加フルコト是レ亦手工教授ノ改善上必要ナル一事項タルヘシ

○衛生

○本邦内地「ペスト」流行狀況　明治四十、四十一兩年中ニ於ケル「ペスト」流行ハ本邦内地ニ於ケル第三回流行ノ繼續ニシテ大阪府及兵庫縣ヲ主トシテ奈良、和歌山、愛媛、福岡、長崎及神奈川ノ諸縣ニ蔓延シ其他東京府及滋賀、德島兩縣ニ一二ノ患者ヲ發見スルニ至レルモノナリ左ニ各地方ノ病況ヲ略敍ス（内務省）

大阪府

流行ノ狀況及經過

大阪府　大阪市ニ於テハ明治三十八年二月以來本病ノ流行連綿トシテ絶エス同四十年六月ニ至リテハ患者ノ發生大ニ減少シ七月ニ入リテハ新患者ノ發生ヲ見サリシカ九月頃ヨリ漸次再ヒ流行狀態ヲ呈シ十月以降病勢猖獗ニ傾キ十一月ニハ患者實ニ二百四十九人ノ多數ニ達シ合計患者五百三十三人、有菌鼠三千二百四十九頭ヲ發見セリ今各區ニ付キテ區別スレハ患者ハ南區ニ最モ多クシテ三百八人、有菌鼠二千三十七頭、西區之ニ次キ患者百廿六人、有菌鼠六百六十一頭、北區ハ患者五十六人、有菌鼠二百四十七頭、東區ハ患者四十三人、有菌鼠二百九十六頭、外水上警察署管内ニ於テ有菌鼠十數頭ヲ算セリ而シテ患者發生區域ハ南區ニ於テハ難波方面殊ニ稻荷町、櫻川町、東西關手町、反物町、難波元町附近ヲ中心トシ關西、南海兩鐵道線路ノ間ニ在ル難波元町、河原町、木津勘助町、高岸町ニ及ヒ猶ホ本區ノ北部ニシテ道頓堀以北東西兩區ニ亦在セル部分ニ於テハ松屋町ヲ中心トシテ東ニ瓦屋町、國島町、西關谷町、北桃谷町、西ニ安堂寺町、瞰島町ヨリ三津寺町ニ亦多數ノ患者ヲ發生セリ西區ニ於テハ南區難波及見橋停車場ニ鄰接シタル幸町、南北堀江、西道頓堀ヲ中心トシテ北東ニハ新町、薩摩堀、立賣堀、堀江通及西南ニハ木津川ヲ越エテ九條町、西九條町、三軒家町、市岡町、春日出町附近ニ及ヘリ而シテ北區ニ於テハ中之島五丁目、常安町、玉江町、上福島、曾根崎新地、天滿橋筋ヲ主トシテ其他樋上町、老松町、大工町附近ヨリ下福島、西野田玉川町、本庄藏道町ニ及ヒ東區ニ於テハ南區ニ鄰接シタル久寶寺町、和泉町、農人町ヲ主トシ兩替町、鍛屋町、本町、内本町ヨリ平野町、道修町附近及空堀谷町、森ノ宮町ニ及ヘリ然レトモ昨四十一年ニ於テハ病勢漸次衰退シ七月ヨリ十月ニ至ル間患者ノ發生ヲ見ス有菌鼠ハ除鼠措置ノ勵行ト共ニ一時劇増シテ二月ノ如キ千三百三十六頭ヲ發見セシモ六七月ノ頃ヨリ大ニ減少シ東區ニ於テハ七月以降一頭モ發見スル能ハス除鼠ノ成績ハ大ニ見ルヘキモノアリキ患者合計七十人、有菌鼠合計四千百四十頭ナリ

堺市ニ於テハ明治三十九年十月大阪市ヨリ歸著シタル患者ヲ發見シ當時有菌鼠ハ檢出スルコト能ハサリシカ同四十年四、五月ニ及ヒ有菌鼠四頭ヲ發見シ次テ患者一人發生セリ而シテ昨四十一年ニ於テハ六月ニ至ル間ニ患者六人、有菌鼠四頭ヲ發見セリ然レトモ七月以降何等異常ヲ認メス

郡部ニ在リテハ明治四十年二月以降西成郡鷺洲村、同勝間村、同西中島村、同粉濱村及東成郡天王寺村、同鯰江村、同中本村及南河内郡日置莊村、同太田村、同黒山村及北河内郡北交野村及泉南郡岸和田町、同北近畿村及泉北郡舳松村、同三寶村ニ於テ患者十五人、有菌鼠五頭ヲ散發シ次テ昨四十一年ニ於テハ七月ニ至ル間東成郡榎並村、同中本村及西成郡今宮村、同豐崎村及泉北郡湊村及三島郡茨木町ニ於テ患者四人、有菌鼠二十四頭ヲ散發セリ

附記「ペスト」猫ノ發見　明治四十年七月大阪市南區淡路町ニ於テ一患家ヨリ左頸腺「ペスト」ニ罹レタル雌猫一頭ヲ發見シ次テ又十月難波反物町ノ一患家ヨリ一頭ノ病猫ヲ發見セリ本病猫ハ顏面左下顎、犬齒部ニ該當スル皮膚ニ底面暗黑褐色ヲ呈セシ約一錢銅貨大ノ類圓形ノ潰瘍ヲ形成シ周圍ニ浸潤アリ且ツ左頸部ノ淺在淋巴腺母指頭大ニ腫脹シ周圍皮下組織ニ高度ノ浸潤ヲ呈シ皮膚「ペスト」タルコトヲ確認セシモノナリ

大阪府患者及有菌鼠表（括弧内ハ有菌鼠）

地方／月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治四十年													
大阪市	一〇 (一四五)	三 (一一〇)	五 (一〇五)	一六 (一二六)	一七 (一一五)	五 (四六)	一 (一〇)	三 —	一八 (三九)	一一〇 (三四八)	二四九 (八二四)	八六 (一,〇六九)	五三三 (三,二四九)
堺市	— —	— —	— —	— (一)	一 (四)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 (四)
西成郡鷺洲村	— —	一 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —
同勝間村	— —	— —	— —	— —	一 (一)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 (一)
同西中島村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	一 —
同粉濱村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	一 —
東成郡天王寺村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	— —	— —	二 —
同鯰江村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	一 —
同中本村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— (三)	— (三)
南河内郡日置莊村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
同太田村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
同黒山村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	一 —
北河内郡北交野村	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —
泉南郡岸和田町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
同北近畿村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	一 —
泉北郡舳松村	— —	— —	— —	— (三)	— (一)	— —	一 —	— —	— —	— —	— —	— —	一 (三)
同三寶村	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —
合計	一〇 (一四五)	四 (一一〇)	五 (一〇五)	一七 (一二九)	一九 (一二〇)	六 (四八)	一 (一〇)	三 —	一八 (三九)	一一五 (三四八)	二五二 (八二四)	八八 (一,〇七〇)	五四八 (三,二五八)
同四十一年													
大阪市	一八 (六八九)	一〇 (一,三三六)	四 (九二七)	一〇 (五五〇)	一三 (三三四)	一〇 (六四)	— (八)	— (二)	— (三)	— —	一 (四)	四 (一五)	七〇 (四,一四〇)
堺市	— (一)	二 (三)	— (一)	— —	二 —	二 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	六 (四)
西成郡今宮村	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同豐崎村	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同不明	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東成郡榎並村	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同中本村	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
泉北郡湊村	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三島郡茨木町	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

兵庫縣　神戸市ニ於テハ有菌鼠ノ發生明治四十年六、七月ノ頃ニ至リテ其數大ニ減少シ八月ニハ之ヲ發見スルコト能ハサリシモ九月ヨリ再ヒ續發スルニ至リ同年中合計四百十七頭ヲ算セリ患者ノ發生ハ五月上旬兵庫匠町ニ於テ一人、外荒田町ニ於テ十二月上旬大阪ヨリ歸著シタル患者一人ヲ發見セシニ過キサリキ然レトモ昨四十一年ニ於テハ有菌鼠ノ續出市内諸方面ニ亙リテ漸ク多キヲ加ヘ五月下旬ヨリ患者發生スルニ至レリ病毒ハ特ニ鐵道線路以南ノ地域ニ於テ廣ク且ツ濃厚ニ瀰蔓セシモノヽ如ク患者ハ主トシテ葺合方面殊ニ八幡通、磯上通、御幸通、小野柄通、雲井通、濱邊通及東川崎町、東出町、北宮内町附近竝ニ榮町、元町附近ニ發生シテ都合五十九人ヲ續發シ其他ハ中山手通、北長狹通、相生町、多聞通、古湊町、橘通、三川口通、西尻池等ニ於テ各〻一二人ノ患者ヲ散發シ合計七十三人ヲ算シ有菌鼠ハ十月以降劇增シテ毎月數百頭ニ達シ合計千二百六十一頭ヲ發見セリ以上首要ナル有病地域ヲ觀察スルニ葺合方面ニハ仲仕其他勞働者ノ居住多ク本市唯一ノ不潔ナル部落ニシテ榮町、元町附近ハ内外貨物ノ集散地ニシテ下水溝渠倉庫等ノ構造猶ホ不完全ナルヲ以テ鼠族ノ巢窟ニ適スルモノアリ西出町附近又細民ノ居住尠カラス而シテ東川崎町附近ニ於テ發病セシモノハ主トシテ川崎造船所ノ職工若クハ其關係者ニシテ八月上旬該造船所ニ入渠シタル移民船嚴島丸カ齎セシ病毒ニ歸因セシモノナリ本船ハ六月中旬南米秘露ヲ發シ七月下旬横濱ニ寄港シ次テ神戸ニ入港セシモノニシテ航海中既ニ二三ノ疑ハシキ死亡者ヲ生シ且ツ入渠中數頭ノ有菌鼠ヲ檢出セシモノナリ

郡部ニ在リテハ武庫郡西宮町ニ於テ明治四十年十一、十二月中大阪ヨリ歸著セシ患者三人ヲ發見シ且ツ有菌鼠一頭ヲ檢出セシモ爾來昨四十一年九月中旬ニ至ルマテ異常ヲ認メサリキ然ルニ九月下旬突然同町酒造株式會社及日本攝酒株式會社ニ通勤セシ者及其關係者ニ數人ノ患者ヲ發生シ十月以後該會社附近一帶ノ地域ヨリ患者ノ續發スルモノ益〻多キヲ加ヘ十二月末マテノ間ニ患者五十二人、有菌鼠二百九十一頭ヲ算スルニ至レリ同町ニハ該會社ノ外ニ幾多精米所アリ病毒ハ明ニ阪神地方ヨリ米穀類ト共ニ輸入セラレタルモノニシテ精米所ニ於テハ患者發生前屢〻斃鼠ヲ散見セシコトアリト云フ而シテ同所ニ鄰接セル今津村及芝村ニ於テ十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ五人ノ患者ヲ發見セシモ孰モ西宮町ニ於テ病毒ニ感染シタルモノヽ如シ其他同郡精道村ニ於テ明治四十年十一月大阪ヨリ歸郷セシモノ「ペスト」肺炎ヲ發シ同族及親近者四人ニ病毒ヲ傳播シ又同郡御影町字上石屋村ニ於テ昨四十一年八月系統不明ナル患者二人ヲ發見セシコトアリシモ是等ハ幸ニシテ病毒ヲ土著セシムルニ至ラサリキ

[illegible]

第7800号 本文

以降有菌鼠三頭ヲ出シ又物部村ニ於テ十月下旬由良町ニ行商セシ者一人發病シタルヲ初トシ十二月ニ至ルマテニ六人ノ患者ヲ續發シ有菌鼠モ十月以降ニ於テ十八頭ヲ發見シ猶ホ潮村ニ於テ十二月上旬有菌鼠一頭ヲ檢出セシカ孰モ病勢甚シキニ至ラサリキ洲本町ハ由良ノ北西約二里ニ在リ物部村及潮村ハ洲本町ニ鄰接シ是等ノ町村ニ於テハ明治三十九年ノ流行ニ際シテモ五月ヨリ八月ニ至ル間ニ患者十五人、有菌鼠百八十六頭ヲ發生セリ

川邊郡尼ケ崎町ニ於テハ明治四十年中有菌鼠二十八頭續テ昨四十一年中二十頭ノ有菌鼠ヲ發見セシモ幸ニ患者ノ發生ヲ見ス

同郡長尾村及園田村ニ於テハ昨四十一年十月三人ノ患者ヲ發見セシモ患者ハ孰モ流行地西宮町ヨリ歸著シタルモノニシテ病毒ヲ土著セシムルニ至ラサリキ明治四十年十月神崎郡長谷村ニ於テ發見セシ患者ハ大阪ヨリ移轉シタルモノナリ

兵庫縣患者及有菌鼠表（括弧內ハ有菌鼠）

地方／月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
明治四十年													
神戸市	—（七六）	—（七三）	—（五七）	—（七二）	一（五〇）	—（一七）	—（三）	— —	—（二）	—（三）	—（七）	一（六二）	二（四一七）
武庫郡西宮町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	一（一）	三（一）
同精道村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	五 —	— —	五 —
三原郡沼島村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	六（四）	六（四）
津名郡由良町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（二）	—（二）
川邊郡尼ケ崎町	—（一二）	—（三）	—（三）	—（八）	—（二）	—（二）	— —	— —	— —	— —	—（三）	—（二）	—（三八）
神崎郡長谷村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	（二）—	— —	— —	（二）—
合計	—（八七）	—（七五）	—（五九）	—（七九）	一（五二）	—（一八）	—（三）	— —	—（二）	一（三）	七（八）	八（六八）	一七（四五二）
同四十一年													
神戸市	—（五七）	—（三二）	—（二七）	—（二三）	一（四六）	一（八）	三（八）	—（三）	五（二七）	二二（二四一）	四（二〇九）	三七（五九二）	七三（一、三六二）
武庫郡西宮町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	七（六）	一三（九五）	二六（一〇八）	七（八二）	五三（二九一）
同今津村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
同芝村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	四 —	四 —
同御影町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	— —	— —	— —	— —	二 —
三原郡沼島村	—（三六）	—（一）	—（四）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（四一）
同灘村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	— —	— —	— —	二 —
津名郡由良町	—（三）	—（二）	—（六）	—（四）	—（九）	—（一三）	—（一二）	六（三四）	四八（一〇六）	三三（一七二）	二四（四七）	一（六）	一一二（四一二）
同洲本町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	—（二）	—（三）	一（三）
同物部村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一（三）	一（八）	四（八）	六（一八）
同潮村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（二）	—（二）
川邊郡尼ケ崎町	—（二）	—（三）	—（五）	—（六）	—（四）	—（二）	— —	— —	— —	— —	— —	—（二）	—（二〇）
同長尾村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
同園田村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	— —	— —	二 —
合計	—（九六）	—（三六）	—（四二）	—（三三）	一（五九）	一（二二）	三（二〇）	八（三六）	六三（一三九）	七一（五〇九）	五五（五七三）	五三（六九二）	二五五（三、〇四六）

奈良縣　明治四十年四月上旬北葛城郡王寺村ニ於テ次ニ五月下旬高市郡八木町ニ於テ有菌鼠ヲ檢出シ後十、十一月ニ至リ南葛城郡掖上村及北葛城郡高田町、同郡松塚村ニ於テ大阪市ヨリ歸鄕セシ患者四人ヲ發見シ爾來何等ノ異常ヲ認メサリシカ昨四十一年四月下旬北葛城郡志都美村ニ系統不詳ナル患者發生シ引續キ同郡陵西村、上牧村、高田町ニ於テ又奈良市及南葛城郡御所町及磯城郡櫻井町ニ於テ六月ニ至ル三箇月間ニ患者合計十六人、有菌鼠五十六頭ヲ發見セリ病毒ノ系統ハ審ナラサレトモ機業用ノ紡績綿絲等主トシテ大阪市ヨリ輸入セラレ又肥料トシテ比較的多量ニ使用セル油糟モ阪神地方ヲ經由スルモノ多ク其他大阪市ト交通頻繁ナル事實等ヨリ推測スレハ同地方ヨリ病毒ノ侵襲ヲ蒙リタルコト疑ナキカ如シ

奈良縣患者及有菌鼠表（括弧內ハ有菌鼠）

地方／月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
明治四十年													
北葛城郡王寺村	— —	— —	— —	—（二）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（二）
同高田町	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	一 —	— —	二 —
同松塚村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	一 —
南葛城郡掖上村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	— —	一 —
高市郡八木町	— —	— —	— —	— —	—（二）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（二）
合計	— —	— —	— —	—（二）	—（二）	— —	— —	— —	— —	二 —	二 —	— —	四（四）
同四十一年													
奈良市	— —	— —	— —	— —	一（七）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一（七）
北葛城郡高田町	— —	— —	— —	— —	— —	二 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二 —
同志都美村	— —	— —	— —	二（五）	四（四）	一 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	七（九）
同陵西村	— —	— —	— —	—（三）	一（二四）	一（七）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二（三三）
同上牧村	— —	— —	— —	— —	一（三）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一（三）
南葛城郡御所町	— —	— —	— —	— —	— —	—（三）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（三）
磯城郡櫻井町	— —	— —	— —	— —	一（二）	二（三）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	三（五）
合計	— —	— —	— —	二（七）	八（三八）	六（一二）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一六（五六）

和歌山縣　和歌山市ニ於テハ明治四十年十二月大阪市ヨリ歸著シタル患者一人ヲ發見シタルノミニシテ有菌鼠ハ前年ヨリ引續キ陸續發見セシト雖モ八月以來其跡ヲ絕テリ郡部ニ在リテハ有田郡廣村ニ於テ明治四十年四月中旬一家ニ二人、次テ五月中海草郡岡町村ニ於テ一人ノ患者ヲ散發シ猶ホ十一月中旬伊都郡端場村ニ一患者ヲ發見セシモ此ハ大阪市ニテ感染シ歸鄕シタル者ナリ而シテ前年流行猖獗ヲ極メ一大慘狀ニ陷リシ湯淺町ニ在リテハ其後患者ノ發生ナク有菌鼠モ三月以降之ヲ檢出セス病毒遂ニ熄滅ニ歸セリ

和歌山縣患者及有菌鼠表（括弧內ハ有菌鼠）

地方／月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
明治四十年													
和歌山市	—（六）	—（三）	—（九）	—（一七）	—（二）	—（四）	—（二）	— —	— —	— —	— —	一 —	一（四三）
有田郡湯淺町	—（一二）	—（三）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（一五）
同廣村	— —	— —	— —	二（三）	—（七）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	二（一〇）
海草郡岡町村	—（二）	— —	— —	— —	一（三）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一（四）
伊都郡端場村	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	一 —	— —	一 —
同橋本町	— —	—（一）	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	—（一）
合計	—（二〇）	—（六）	—（一〇）	二（二〇）	一（一〇）	—（四）	—（二）	— —	— —	— —	一 —	一 —	五（七二）

（未完）

○雜事

○外國渡來旅客數　去月中渡來外國旅客國別比較左ノ如シ（大藏省）

國籍	四十二年五月	四十一年五月
英吉利	三七八	三〇八
米國	三六〇	三〇七
獨逸	九三	一〇二
佛蘭西	六四	五七
露西亞	一二八	一四七
清國	三三五	四八六
韓國	一一三	二七一
伊太利	二	一七
澳地利	一〇	九
和蘭	一	六
印度	一一	七
フィリピン	二	—
白耳義	七	八
西班牙	二六	三
諾威	一	六
瑞典	四	一〇
瑞西	四	三
葡萄牙	一〇	一
丁抹	五	二
土耳其	四	—
暹羅	—	五
埃及	—	一
英領加拿陀	一	—
墨西其	一	—
モンテネグロ	二	—
計	一、五六二	一、七五六
比較減	一九四	—

正誤

昨二十五日本欄行政裁判所判決ノ項中五三三頁下段二行充當シタルノ下ニハノ字ヲ脫ス（誤植）

○地方行政

○縣參事會員就職　神奈川縣郡部名譽職參事會員龜井佐一、蜂須賀又次郎辭職ニ付キ補闕トシテ補充員前田善太郎、安田新五兵衞就職セリ（神奈川縣）

○在外公館報告

○湘江水量變調　湘江ニ於ケル水量變調ノ件ニ付キ在長沙領事館事務代理外務書記生林善一ヨリ本月七日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

湘江ノ水量ハ增量以來別段ノ變化ナカリシカ最近ニ於テ五月二十六日十九呎ニ上リシヲ最高トシ漸次減量シ本月三日ニ至リテハ九呎六吋ヲ示シタルヲ以テ一時ハ此上ノ減水如何アラント氣遣ヒタルモ事實ハ豫想ニ反シ翌四日ヨリ今日ニ至ルマテ俄然左ノ如キ激增ヲ爲シタリ

六月	呎吋
四日	一五・七
五日	二三・九
六日	二六・一
七日	二九・五
八日	三一・二

斯カレハ當地城外河岸ハ太古、海關ノ兩碼頭ヲ除ク外悉ク水ニ浸サレ大汽船ヘノ荷物積卸ハ凡テ小船ニ依リ居レリ尙ホ城外ノ街路ハ水ノ浸入ヲ受ケ人脚ヲ沒スルニ至レリ今回ノ水量激增ハ之ヲ昨年六月二十日前後ニ於ケルモノニ比シ殆ト同模樣ナレハ一、二日ニシテ直ニ減退スヘシト思惟セラル由來湘江カ每年四月ヨリ六月ノ間ニ於テ水量ノ激增アルハ上流衡州、桂州地方ニ於テ炎暑ニ入ラントスル際雨降ラサルコト數十日其一度雨ヲ催スヤ大雨沛然已マサルコト數日ノ久シキニ及フカ故ナリ然レハ本年ノ如キモ湘江上流ノ出水ハ甚シキモノアリテ數日前衡州地方ニ於テハ河水暴漲三十餘尺人家田甫悉ク水中ニ埋沒スルコト一晝夜ニ及ヒ人畜ノ被害少カラサリシ模樣ナリト傳ヘラル

○蘇州新絲市況　蘇州ニ於ケル新絲市況ニ付キ在同地領事館事務代理外務書記生大賀龜吉ヨリ本月十二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

當地方產出ノ本年新絲ハ昨十一日ヲ以テ市場ニ上レリ其相場最上等品每百兩（約我百匁）四十三、四弗、中等品四十弗、下等品三十四、五弗ニシテ鄕村ヨリ續々出荷シ來リ市場頗ル殷賑ヲ極メ居レリ

○長沙蠶桑公社　長沙蠶桑公社ニ關シ在同地領事館事務代理外務書記生林善一ヨリ本月二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

設立ノ由來　由來湖南ノ地タルヤ土地豐穰蠶桑ニ適スルモ人民蠶兒飼育ノ方法ヲ識ラス日常著服スル絹布ハ其價格ノ不廉ナルニ拘ラス全部蘇杭地方ヨリ其供給ヲ仰クノ止ムヲ得サルノ有樣ナリシカ今ヲ距ル十三年以前卽チ光緒二十三年（我明治三十年）海關道朱延熙、候選道楊鞏外五人ハ此現狀ヲ慨嘆シ提唱協力シテ浙江省杭州ヨリ蠶業技師ヲ聘シ專ラ斯業ノ普及ヲ圖ラントセリ是レ本公社設立ノ濫觴トス

地位及面積　長沙省城北門外約三哩湘江ノ沼岸馬廠裏ニ在リ其面積四百五十畝（我三町八畝强）ヲ有ス

建物　家屋敷地トシテハ五百七十六方（我五百七十六坪）ヲ有ス其本公社設立ト同時ニ建設セラレシ建物ハ左ノ如ク都合九棟ヲ有ス

蠶室	奧行十五尺總百四尺ノモノ	三棟（一棟八室ヲ有ス）	炊事場	一棟
住宅	四十八坪	一棟	物置	一棟
貯桑室	二十四坪	一棟	附屬建物	二棟

建物ハ總テ平家建ニシテ純粹ナル支那式構造ナリ

資本及株主　資本金十万元ニシテ左記七人ノ出資ヨリ成リ合資組織トス

株主　海關道	朱延熙	候選道	楊鞏
翰林院	黃自元	知縣	李桃臣張伯熙
補用知府	湯秩安	補用知府	劉秩荃

本邦ニ派遣セル蠶業留學生　本公社ハ開設以來熱心斯業ノ隆盛ヲ期セサルニアラサリシモ蠶業ニ無學ナル飼育者等ハ其方法ヲ識ラス斯業ヲ以テ牧畜同樣ニ心得更ニ其研究ニ勉メサリシ結果事業年ヲ經ルモ更ニ其進步ヲ見サリキ是ヲ以テ本公社ハ明治三十九年當地實業家ト相謀リ養蠶學實習トシテ蔡錫周、龍汝翼外三人ヲ選拔シ本邦群馬縣藤岡町東亞蠶業學校ニ留學セシメ以テ本邦養蠶ニ關スル一般ノ狀況ヲ研究シ本社ノ衰頽ヲ挽回セント試ミタリ是等留學生ハ螢雪ノ苦ヲ積ムコト三箇年昨年盡ク業ヲ卒ヘテ湖南ニ歸レリ歸鄕以來ノ彼等ハ日夜

第7800号 本文

寢食ヲ忘レテ本社ノタメニ盡瘁シ專ラ蠶業ノ普及發展ヲ圖ランタメ同心協力シテ別ニ經綸社ナル附屬蠶業學堂ヲ設立シ生徒ヲ募集シ蠶業ニ關スル一般ノ學科竝ニ實地ニ就キ懇ニ教鞭ヲ執リ居レリ

桑園　湖南ノ土地古來ヨリ自然樹トシテ桑樹ノ發生ヲ見サルニアラサルカ其之ヲ栽培シ桑園ノ經營ヲ爲セシハ主トシテ本公社ノ手ニ關シ光緖二十三年杭州ヨリ桑苗大小樹十万本ヲ購入シ來リ四百五十畝ノ空地ニ植付ケタル時ニ在リト云フ

(一)桑園ニ適セル土壤　土地ハ赤土砂交リニシテ能ク桑園ニ適シ別段肥料ヲ施サヽルモ桑樹繁茂シ綠陰滴ルノ枝葉ヲ生シ居レリ然レトモ植付當時ヨリ桑園ヲ耕シ桑樹ニ對スル培養方法ヲ識ラサルカタメ桑樹ハ自然ノ儘ニ成長シ高キハ二丈餘ノ大樹モアリテ桑園ト云フト雖モ一見鬱然タル林ヲ成セリ

(二)種類　呂宋桑ノミナリ

(三)肥料　土壤ハ前述ノ如ク肥沃ナルヲ以テ別段肥料ニ就キテハ研究セサレトモ自然ノ儘ニテ克ク桑葉ヲ採取スルヲ得ト云フ然レトモ近年ニ至リテハ人糞廐肥ナトノ少量ヲ試驗的ニ施シツヽアリトノコトナリ

蠶兒ニ對スル氣候

(一)春蠶　古來ヨリ湖南ハ三山六水一部田ト謳ハレタル土地柄トテ濕氣多ク加フルニ三月下旬ヨリ春蠶飼育中ハ極テ降雨甚シキモ四面山ヲ以テ圍マレタル大陸ハ割合ニ換氣ノ便ヲ得且ツ補溫ニ付キテハ木炭其他日常品ノ廉價ナルヲ以テ飼育上聊モ不自由ヲ見ス寒暖計ハ平均七十度前後ヨリ七十七八度ヲ昇降シ居レリ

(二)夏蠶　夏蠶ハ未タ飼育セシコトナカリシモ歸國留學生ノ熱心ニ依リ本邦ヨリ原種ヲ持來リ二化蠶ノ最モ早キモノヲ掃立ツルコトヽ爲レリ然レトモ炎暑灼クカ如キ天候ナルヲ以テ其經過ノ良否測リ知ルヘカラス

(三)秋蠶　秋季ハ降雨稀ニシテ溫度モ順調ナルヲ以テ秋蠶ニ適スルモ原種ノ貯藏ニ適當ナル冷藏庫ノ設備ナク且ツ桑葉ノ備ナキヲ以テ飼育ノ運ニ至ラス然レトモ目下人工風穴ヲ高山ニ設タルトカ又桑園ニ付キテモ夫々準備スルコトニ勉メ居ルヲ以テ近キ將來ニ於テ秋蠶ノ飼育ヲ見ルニ至ルヘシ

蠶室

(一)蠶室ノ構造　蠶室ハ純粹ノ支那家屋ニシテ總テ平家建奧行十五尺經十三尺ノ室二十四室ヲ有ス各室ノ兩側ハ總テ壁ニシテ正面ニ一箇ノ小窓ヲ有スルノミナレハ空氣ノ流通惡シク濕氣甚シキヲ以テ近年土間ニハ板ヲ張リ天井ニハ不完全ナル空氣拔ヲ設ケタリト云フ

(二)蠶棚　蠶棚ハ本邦ト異ナル所ナク兩側ヘ竹ヲ以テ棚ヲ作リ蠶籠ノ出入不自由ナカラシム

(三)蠶籠　蠶籠ハ本邦篩ノ圓形大ノモノニ彷彿シ下ニ蓆ヲ敷ケルモノナルカ其餘リニ大形ナルタメ二人ニテモ運搬ニ不自由ヲ爲シツヽアリ

(四)蠶網　蠶網ハ本邦同樣麻絲ニテ網ヲ造リ除沙ニ便ニス然レトモ四眠後ニ至リテハ網ヲ用ヒサルヲ以テ除沙ニ不自由ナルノミナラス濕氣及不潔ヲ免レス

(五)上蔟用具　從來上蔟用トシテハ藁ヲ束ネタル不完全ナルモノヲ用ヒタレトモ本年ヨリ本邦同樣完全ナル「マブシ」ヲ使用シツヽアリ

春蠶ノ模樣

(一)留學生ノ飼育　親シク本邦ニ學ヒ斯業ニ精練セル蔡錫周、龍汝翼外三人ハ歸國早々本公社ノ事業ニ寢食ヲ忘レ熱心ニ飼育スルヲ以テ舊昔ノ方法ヨリ補溫、換氣、剉桑、給桑、除沙等ニ付キ改良頗ル勉メ現時ハ更ニ本邦ト其方法異ナルナシ然レトモ彼等歸國早々ノ際トテ蠶室其他萬般ノ設備ハ未タ改造ノ運ニ至ラス從來ノ不完全ナル室ニ於テ飼育シツヽアリ

(二)蠶種ノ種類　蠶種ハ全部本邦群馬縣藤岡町東亞蠶業學校ヨリ取寄セタル青熟、又昔、大圓頭ノ三種トス

(三)掃立期　掃立期ハ例年西曆四月上旬頃ナリト云フ

(四)本年春蠶飼育ノ溫度

華氏寒暖計	室內平均溫度	屋外平均溫度
一眠マテ	七一	四二
二眠マテ	七三	四八
三眠マテ	六六	六六
四眠マテ	七八	八二
四眠起キ	七二	七三

(五)經過及天候　本年春蠶掃立ノ模樣ヲ聞クニ西曆四月十三日ニシテ左ノ割合ニテ上蔟シタリ

五日目ニシテ一眠、五日目ニシテ二眠、五日目ニシテ三眠、六日目ニシテ四眠、九日目上蔟

本春蠶期ハ通シテ霖天勝ナリシモ火力ヲ以テ室內ノ濕氣ヲ保チ百方注意怠ラサリシヲ以テ蠶兒ハ頗ル良好ナリシカ上蔟中不注意ノ點アリシヲ以テ死蠶ヲ多ク生シタリト

收繭額及賣買　當地方ニ於テ養蠶業ヲ試ルモノハ本公社ノ外ニ三アルニ過キサルヲ以テ從テ收繭少ク本年ハ春蠶合計二十貫前後ニシテ悉ク自家製糸ニ供シ居レリ斯ク僅少ノ收繭ナルヲ以テ賣買ヲ目的トスル者ナク從テ繭相場等皆無ノ有樣ナリ

製絲　製絲ニ付キテハ尤モ不完全ナルモノニシテ二十五六粒ヨリ三十粒ヲ以テ木綿太ノモノヲ製シ居レリ斯ル有樣ナルヲ以テ本繭、玉繭ヲ論セス收繭直ニ眞綿ヲ製シ絹絲ニ付キテハ更ニ研究セサル樣見受ケラレタリ

附屬經綸社　本社附屬ノ經綸社ハ蠶業速成學堂ニシテ蠶業ニ關スル知識ヲ與ヘ湖南ニ於ケル蠶業ノ改良ニ資スルヲ目的トシ特設セルモノニシテ速成ヲ旨トシ六箇月ヲ以テ卒ヲ畢フ

(一)教師及生徒　教師ハ嘗テ我國ニ留學歸朝セル五人專ラ之ヲ擔當シ生徒ハ目下三十八ノ一組ヲ有スルノミ

(二)學科　理論ト實習トノ二ニ分チ理論ニ於テハ養蠶法、桑樹栽培法、蠶體生理、病理大意、蠶體解剖及指蔟法トシ實習ニ於テハ春夏秋蠶ノ飼育、蠶種製造、蠶種檢査、蠶病消毒、生絲製造、繭檢査、顯微鏡使用法ナリトス

(三)月謝　月謝トシテハ一箇月洋銀二弗ヲ食費トシテ收ムレハ足ルモノニシテ其以外ニ何等ノ學費ヲ要セス

(四)入學ノ程度　年齡十五歲以上ノ男子ニシテ身體ノ強壯能ク勞苦ニ堪ヘ得ルノ資格アル者トス

○觀象

○七月ノ氣候　中央氣象臺ニ於テ調査シタル各測候所累年觀測成績左ノ如シ（文部省）

七月ハ本邦附近一般ニ氣壓最低ノ時期ニシテ其配置ハ殆ト前月ト異ナルナク大平洋方面ヨリ大陸ニ向ヒ遞減シ氣層ノ傾斜稍々加ハリ風力ハ支那東海、九州附近、南海岸等ニ於テ稍々增勢シ其他ニ於テハ稍々減衰ス氣溫ハ益々上昇シ南西諸島ハ中旬或ハ下旬ニ於テ年中ノ高極ニ達スルヲ常トシ北海道ニ於テモ月中ノ高極ハ內部ニ於テ普通三十度ヲ超ユ而モ低極ハ嘗テ標茶ニ於テ氷點下零度七ニ達セシコトアリ濕度ハ南西諸島ニ低下シ其他ハ一般ニ上昇シ降水モ亦南方ニ減少シテ北方ニ增加シ濃霧ハ北海道東岸ニ最モ多ク發現日數二十日以上ニ及フ今平均氣壓、氣溫、濕度、降水及天氣ノ概況ヲ敍スレハ左ノ如シ

氣壓及風　平均氣壓ハ一般ニ前月ヨリモ稍々低ク其差ハ本邦ニ於テハ一粍以下ニ止マルモ支那方面ニ於テハ殆ト二粍ニ及フ高壓部ハ大平洋ニ在リテ小笠原島附近ハ七百五十九粍ヲ示シ低壓部ハ大陸ニ在リテ支那本部ハ一體ニ七百五十四粍以下ニ在リ本邦ハ概シテ七百五十六粍餘ヲ示ス最多風向ハ各地概ネ偏南風ニ屬シ平均風力ハ前月ニ比シ石垣島以北本州西部ニ亙リテ一般ニ稍々增加シ其他ハ概ネ稍々減衰ス強風以上ノ日數ハ大平洋沿岸ニ於テハ布良ニ十六日、長津呂、八丈島ニ各々十四日、足摺ニ十二日、都井埼ニ十一日、橫濱、金華山、鶴巢ニ各々十日アリ日本海沿岸ニ於テハ露都ニ二十日、龍飛ニ十七日、西鄕ニ十六日、宗谷ニ十四日、角島ニ十二日アリ其他筑波山ニ十六日、長崎ニ十二日、石垣島、紗那ニ各々十二日、四阪島ニ十一日アリ淸韓方面ハ木浦ニ十二日、大連ニ十日、釜山、龍岩浦ニ各々九日アリ

氣溫　平均氣溫ハ南西諸島ニ於テハ凡テ二十七度ヲ超エ石垣島ハ二十八度餘ヲ示シ小笠原島ハ二十六度餘ナリ九州及四國附近ハ概ネ二十五六度ニシテ本州中部ハ概ネ二十三度餘ナルモ信飛高原ハ二十一二度ヲ示シ北海道ハ凡テ二十度以下ニ在リ根室、紗那、大泊ハ十五度ニ及ハス韓滿地方ハ概ネ二十三四度ナルモ城津ハ二十度ニ及ハス揚子江沿岸地方ハ概ネ二十七度內外ニシテ漢口ハ二十八度餘ヲ示ス即チ前月ニ比シテ高キコト臺灣島附近ハ一度內外ニ過キサルモ九州以北ハ概ネ四度內外ノ上昇ナリトス一日中氣溫高低ノ差ハ平均ニ於テ內陸ハ約九度ニシテ北海道ノ旭川ハ十二度ニ及フ沿海地方ニ於テハ六度以下ノ所尠カラス八丈島ハ二度六ニ過キス淸韓ハ奉天、天津ニ於テ十度ヲ現シ釜山、城津ハ六度ニ及ハス揚子江畔ニ於テモ七度ヲ超エス月中ノ最高ハ累年ノ中數ニ於テ各地概ネ三十二三度ヲ示シ臺北ハ三十五度一ニ達ス北海道ハ沿岸地方ニ於テ三十度ニ及ハス襟裳ノ如キハ二十二度ニ達セス大陸ハ支那本部ニ於テ概ネ三十六度以上ニ達シ杭州ハ三十八度一ニ昇リ淸韓地方ハ概ネ三十二三度ヲ示ス更ニ其極度ヲ擧クレハ嘗テ臺灣ニ於テ臺東ハ三十七度二、九州ニ於テ熊本ハ三十八度三、四國ニ於テ高知ハ三十六度二、本州ニ於テ岐阜ハ三十八度二、北海道ニ於テ網走ハ三十五度八ニ昇リ大陸ニ於テ天津ハ三十九度七、元山及杭州ハ各々三十九度六ヲ示セシコトアリ又月中ノ最低ハ累年ノ中數ニ於テ南西諸島ハ凡テ二十一度以上ニ在リテ澎湖島ハ二十三度四ニ停ル九州以北本州中部ニ亙リテハ概ネ十六度乃至十九度ニシテ信飛地方ハ十三四度ヲ示シ北海道ハ壽都ヲ除ケハ凡テ十度以下ニ降リ紗那ハ二度七ニ達ス淸韓ハ元山ニ於テ十三度八ニ降ルモ其ヨリ以南ハ概ネ十七度以下ニ落チス更ニ其極度ヲ擧クレハ嘗テ臺灣ニ於テ臺北ハ十九度五、九州ニ於テ鶴見埼ハ十三度七、本州ニ於テ高山、金山ハ各々十度、宮古ハ六度六、北海道ニ於テ標茶ハ氷點下零度七ニ達シ淸韓ハ元山ニ於テ十二度四ニ降リシコトアリ

濕度　平均濕度ハ概ネ八十%乃至八十五%ニシテ沿海地ニ於テハ九十%ヲ超ユル所尠カラス之ニ反シテ畿內地方ハ八十%ニ達セス大阪ニ於ケル七十七%ヲ最低トス淸韓ハ概ネ八十%餘ニシテ天津ハ七十二%ナルモ城津、旅順ハ各々九十%ヲ超ユ又月中ノ最低ハ累年ノ中數ニ於テ沿海地ハ概シテ五十%以下ニ降ラス殊ニ襟裳ハ七十三%、西鄕ハ六十七%其他六十%內外ニ止マル所尠カラサルモ內陸ニ於テハ四十五%以下ニ降ル所多ク高山ハ四十%ニ達ス淸韓ハ概ネ四十五%內外ニシテ天津ハ二十八%ニ達シ城津ハ六十%ニ止マル

降水　降水總量ハ南西諸島、九州、四國、畿內附近ヨリ北ハ能登、東ハ安房地方ニ亙リテ二百粍ヲ超エ潮岬及別子山ハ四百粍內外ニ達シ臺灣南西部、佐多岬、熊本、嚴原、高知、日ノ御埼、岐阜、高山、飯田、茅ケ崎、八丈島、足尾ハ三百粍乃至三百五十粍ノ間ニ在リ北海道ハ概ネ百粍內外ニシテ紗那ハ六十餘粍ニ過キス淸韓ハ釜山及元山ニ於テ三百數十粍ニ達シ南京モ二百五十粍ヲ示シ其他ハ概ネ百三十粍乃至二百粍ノ間ニ在リ前月ニ比スレハ南西諸島ヨリ九州南部ニ亙リ概ネ百粍內外ノ減少ニシテ中國西部及伊勢灣附近等ニ於テモ亦稍々減少スル所アルモ其他ニ於テハ概ネ增加ス大陸ハ揚子江畔ニ於テ概ネ減少スレトモ南京以北滿韓方面ハ概ネ百粍內外ヲ增ス最大日量ハ各地概ネ百粍乃至二百粍ニ達スルコトアリ嘗テ臺中ハ三百五粍、嚴原、福岡、德島、岐阜ハ各々二百五十粍內外ニ及ヒタリ淸韓ハ嘗テ釜山及木浦ニ於テ二百粍ヲ超エタルモ其他ハ概ネ五十粍乃至百粍內外ヲ極度トセリ

天氣　降水日數ハ本州中部ノ內陸ニ多ク概ネ十七日以上ニシテ足尾ノ二十二日ヲ最多トス之ニ反シテ內陸地方及北海道ニ少ク概ネ十二三日ニシテ九州最北部ヨリ山陰道ニ亙リテモ概ネ十四日ナリ其他ハ概ネ十六日內外ニシテ臺灣ハ恒春ニ於テ二十一日ニ達シ澎湖島ハ九日ニ過キス淸韓ハ概ネ十三日內外ナルモ元山ニ二十日、城津ニ十六日アリテ旅順ハ九日ニ過キス前月ニ比スレハ南西諸島ヨリ內海地方ニ亙リテ約二日ヲ減シ本州中部及北部竝ニ淸韓方面ニ於テハ概ネ三日內外ヲ增ス快晴日數ハ基隆ニ於ケル六日ヲ最トシ臺東、澎湖島、宮崎、德島、水澤ニ各々四日アリテ其他ハ概ネ一二日ナリ大陸ハ奉天、城津ニ於テ各々一日ナルモ其他ハ概ネ三四日アリ前月ニ比スレハ基隆ニ於テ四日ヲ增ス外全國著シキ增減ナク大陸ハ渤海附近ニ於テ概ネ二三日ヲ減ス日照時數ハ本州中部ヨリ北海道南東部ニ亙リ概ネ四十%ニ達セス殊ニ本州東海岸ニ於テハ三十%ニ達セサル所アリ之ニ反シテ內海中部及那覇以西ハ凡テ五十%ヲ超エ那覇ハ七十一%ニ及フ韓滿地方ハ營口、奉天ニ於テ五十%ヲ超エ元山、城津ハ約三十%ニ過キス濃霧ハ本州東岸ヨリ北海道沿岸ニ亙リテ增加シ襟裳ハ二十二日、金華山及根室ハ各々十七日ニ及ヒ宗谷ニ十日、紗那ニ九日、大泊ニ八日、石卷、銚子、網走ニ各々六日アリ又九州沿岸ノ高所ニ於テ志自岐埼、大瀨埼ニ各々十八日、野母埼ニ十五日、都井埼ニ十二日アリ日本海岸ニ於テハ龍飛ニ十三日、經ケ岬ニ十二日、西鄕、皆月ニ各々七日アリ內陸ニ於テハ筑波山ニ二十二日、高山ニ六日、帶廣ニ五日アリ大陸沿岸ハ大連ニ八日、仁川、城津、旅順ニ各々七日アリ

測候所	觀測年數	氣壓 平均海面	氣溫 平均	氣溫 平均最高	氣溫 平均最低	氣溫 最高極	氣溫 最低極	濕度 平均	濕度 最小	降水量 總量	降水量 日量最大	風 平均速度	風 最多方向	風 最大速度	風 同上方向	天氣日數 快晴	天氣日數 曇	天氣日數 雨雪
恒春	一二	七五四•九	二七•五	三〇•七	二四•八	三三•四	二〇•九	八五	五四	三七〇•三	二一七•六	四•三	東	二三•七	東	二	一〇	二一
臺東	八	七五四•四	二七•四	三一•五	二三•九	三七•二	二〇•五	八〇	三七	一七七•〇	一二三•一	三•八	北西	二一•四	南	四	九	一二
臺南	一二	七五四•五	二七•六	三二•〇	二四•三	三六•九	二一•六	八二	四二	三六六•九	二三六•七	三•九	南東	一九•九	西	一	八	一七
澎湖島	一二	七五四•五	二七•六	三〇•二	二五•七	三三•〇	二一•八	八六	五三	一八六•二	二八八•〇	五•九	南	三三•〇	南南西	四	七	九
臺中	一二	七五四•八	二七•四	三一•六	二三•九	三六•五	二一•一	八〇	三七	二七九•三	三〇五•二	二•六	南	一八•一	北	一	一〇	一五
臺北	一二	七五四•四	二七•八	三二•六	二四•〇	三六•五	一九•五	七八	三一	二二五•九	一三二•二	三•三	東	二一•一	東北東	三	八	一四
基隆	一二	七五四•五	二七•四	三一•一	二四•五	三四•七	二一•五	八四	四八	一四三•六	一七三•四	三•八	南西	二六•九	北	六	一〇	一〇
石垣島	一二	七五四•〇	二八•二	三一•四	二六•〇	三四•七	二〇•九	八二	五一	二二一•四	二〇四•三	七•二	南西	五八•二	南西	二	九	一五
那覇	一八	七五五•七	二七•八	三一•二	二五•〇	三五•〇	二一•四	八一	四六	一八二•三	一八四•九	三•四	南	三四•三	北西	一	一一	一四
名瀨	一二	七五六•一	二七•二	三〇•八	二四•三	三四•三	二〇•一	七九	四四	二八六•〇	二三五•七	三•七	南	三三•九	北北西	一	一四	一八
佐多岬	八	七五六•一	二五•〇	二八•一	二二•九	三五•二	一五•五	八九	五一	三四四•一	二二八•七	三•六	東	二八•四	南	二	一三	一七
都井埼	六	七五五•八	二三•八	二八•五	二一•八	三四•〇	一七•〇	九二	五九	二六五•五	一八二•九	四•八	南西	二一•九	南西	二	一六	一八
鹿兒島	二六	七五六•六	二五•八	二九•八	二三•六	三六•二	一五•九	八二	三六	二九三•五	二〇六•六	四•四	東	三三•二	南南東	三	一三	一七
宮崎	二六	七五六•七	二六•〇	三〇•〇	二二•四	三六•三	一六•〇	八四	四四	二六九•三	一九八•二	三•二	西南西	二八•八	南	四	一二	一六
牛深	六	七五五•四	二五•一	二八•七	二二•八	三三•七	一六•五	八五	四九	二五四•六	一四四•八	四•九	北	二五•二	南	二	一六	一六
熊本	一八	七五六•一	二六•〇	三〇•七	二一•八	三八•三	一四•六	八二	三四	三〇四•〇	一四六•〇	二•七	南西	二一•七	東	二	一三	一七
佐賀	一八	七五五•八	二五•八	三〇•〇	二二•四	三六•六	一五•〇	八一	三六	二九五•五	一三八•一	二•八	南	三七•三	南	二	一五	一五
佐世保	一五	七五五•八	二五•二	二九•一	二二•二	三五•九	一四•七	八二	四二	二九一•一	一六一•三	三•〇	南西	二三•七	北東	一	一六	一四
長崎	三〇	七五六•二	二五•六	二九•四	二二•四	三五•八	一五•〇	八二	三九	二四三•九	一六二•〇	五•七	南西	三九•四	南	二	一三	一四
野母埼	八	七五四•九	二三•五	二六•九	二一•四	三三•一	一四•五	九二	五九	一九四•二	一四三•三	三•三	南	二〇•一	南	一	一八	一六
大瀨埼	八	七五五•六	二三•五	二六•八	二一•二	三三•六	一五•五	九一	五四	二一七•二	一三一•九	五•二	南	二九•二	南	一	一九	一六
志自岐埼	八	七五五•一	二三•八	二六•四	二〇•三	三二•五	一四•四	八九	四一	二六七•七	一五三•六	四•八	南	四一•二	南東	一	一九	一五
嚴原	一九	七五六•〇	二四•二	二七•八	二一•二	三五•八	一三•三	八五	三〇	三六八•六	一三〇•三	二•九	南	二八•七	南南西	二	一八	一六
六連島	四	七五四•九	二四•〇	二七•三	二一•六	三二•五	一六•八	八四	六二	二四八•七	一四五•三	四•四	南東	二一•三	西	三	一三	一五
福岡	一九	七五五•八	二五•二	二九•六	二一•七	三六•四	一四•一	八一	三三	二七七•三	一五七•六	二•九	南東	三六•六	南	二	一三	一四
大分	三	七五五•九	二四•九	二八•六	二一•八	三五•四	一四•三	八六	三三	二三五•三	一八三•四	一•九	北東	二三•八	南	三	一三	一四
鶴見埼	六	七五五•二	二三•六	二六•二	二一•四	三〇•九	一三•七	八八	五〇	二〇一•六	九五•五	四•一	南西	二八•〇	南南東	一	一四	一六
下關	二六	七五六•三	二四•五	二八•〇	二一•九	三四•一	一五•二	八五	四三	二五六•二	一五三•五	四•一	東	四三•九	東	二	一四	一三
角島	六	七五五•〇	二三•五	二五•四	二一•三	三一•〇	一五•四	九〇	六〇	一九一•七	九五•四	六•二	北東	二八•六	南	一	一三	一五
廣島	二八	七五六•五	二五•三	二九•三	二一•八	三七•二	一四•二	八〇	三三	二一九•二	一四三•九	二•六	南西	三八•七	南西	三	一三	一二
吳	一四	七五六•〇	二五•〇	二九•五	二一•六	三五•四	一四•九	八〇	三一	二五二•四	一三七•三	一•五	西	二三•四	北東	一	一六	一三
松山	一九	七五六•三	二五•二	二九•八	二一•四	三六•〇	一五•三	八〇	三四	一七四•二	一二二•一	二•二	北西	二〇•九	南	三	一四	一三
四阪島	五	七五五•七	二四•三	二八•一	二一•六	三三•六	一七•二	八二	四三	一六〇•五	一一〇•九	五•三	北東	三八•七	東北東	二	一二	一二
新居濱	八	七五五•九	二五•〇	二八•九	二二•〇	三五•六	一六•五	八一	三六	二二九•六	一〇二•一	二•九	北東	二九•七	東北東	一	一四	一六
別子	八	七五六•四	一九•九	二三•四	一七•一	三〇•七	一一•六	八三	四〇	四一四•〇	一七八•九	—	—	—	—	一	一七	一九
岡山	一八	七五六•二	二五•四	二九•四	二一•九	三五•一	一三•九	七九	三四	一五六•〇	一七七•四	二•六	北東	三〇•〇	東	二	一五	一三
味野	一四	七五六•一	二四•九	二八•四	二一•九	三五•九	一四•九	八一	三八	一四七•六	七三•二	三•〇	西	二七•〇	東	二	一六	一三
多度津	一六	七五六•〇	二五•四	二九•〇	二二•六	三九•三	一六•二	八一	三九	一四九•六	一一六•九	三•四	西	二四•八	西南西	二	一三	一二
神戶	一二	七五六•二	二四•九	二九•一	二一•七	三五•八	一五•五	七九	四一	一九五•九	一一六•五	二•八	西	二〇•〇	東	一	一七	一三
大阪	二六	七五六•七	二五•七	三〇•一	二二•五	三六•五	一五•二	七七	三三	一六九•五	一三二•五	三•七	西	三三•三	西	二	一三	一二
和歌山	二九	七五六•六	二五•七	二九•五	二二•三	三六•六	一四•四	七八	二九	一七七•七	一八九•一	二•六	南西	三三•五	南	三	一八	一二
德島	一七	七五六•一	二五•四	二九•二	二二•〇	三五•八	一五•八	八一	三六	二四一•〇	二四五•八	一•九	南東	三三•三	南南東	四	一二	一三
高知	二六	七五六•七	二五•〇	二八•九	二一•六	三六•二	一四•六	八五	三四	三三八•三	二〇四•〇	一•八	南東	三一•五	東南東	三	一六	一六
足摺	六	七五六•二	二五•一	二七•六	二三•八	三四•五	一六•九	八六	四六	一九六•九	一六一•五	六•三	西	四〇•八	北	一	一四	一六

第7800号本文

日ノ御埼	九	七五六・一	二三・七	二六・七	二一・三	三一・九	一五・九	八七	四九	三〇九・三	一六六・五	四・九	南東	二八・〇	北西	三	一三	一五
潮岬	九	七五六・〇	二四・四	二六・四	二二・二	三二・二	一六・六	八八	五三	三八九・一	一三九・三	五・〇	西	三〇・二	南西	一	一五	一六
波切	七	七五六・五	二三・八	二七・五	二二・〇	三四・九	一六・一	九一	五八	三二二・七	九八・六	五・〇	南西	三七・二	南南西	一	一六	一六
津	一九	七五六・六	二四・九	二八・五	二一・九	三五・二	一五・八	八三	三三	三〇一・五	一三五・七	三・一	南東	二五・八	東南東	一	一五	一五
名古屋	一八	七五六・四	二五・四	二九・九	二一・七	三六・三	一四・〇	七九	二五	三二四・四	一五八・〇	二・六	南	三一・四	南東	二	一五	一五
濱松	二六	七五七・一	二四・四	二八・五	二一・三	三七・二	一五・四	八五	三二	三三〇・一	一二六・二	二・九	西南西	一七・五	東	一	一七	一四
沼津	二六	七五七・〇	二四・三	二八・〇	二一・三	三四・〇	一四・五	八二	四三	三三五・一	一二〇・九	三・四	南西	二三・〇	南南西	一	一二	一五
長津呂	一二	七五七・一	二三・三	二六・四	二一・二	三二・一	一六・二	八九	四三	一八二・九	一一九・〇	六・七	東	三一・二	東	〇	一九	一三
茅ケ崎	六	七五六・九	二三・六	二七・八	二〇・六	三四・三	一四・五	八六	四〇	二九五・八	一五三・八	五・二	南	二四・二	南南西	二	一四	一七
横須賀	一五	七五六・八	二三・三	二七・二	二〇・六	三五・九	一四・四	八七	四八	二一九・三	二〇九・〇	三・八	南	二一・〇	南南東	二	一九	一五
横濱	一二	七五六・七	二三・七	二七・一	二一・〇	三五・二	一四・七	八二	四一	一八九・五	一〇一・六	五・二	南西	二三・二	南南西	二	一八	一六
東京	三三	七五七・二	二四・〇	二七・九	二〇・七	三六・六	一三・〇	八四	二八	一三九・五	一四六・二	三・五	南	一九・三	南南東	一	一五	一五
八丈島	七	七五七・九	二四・六	二五・〇	二三・四	三〇・三	一七・九	八六	六〇	二九八・三	一三五・九	七・二	南西	二六・七	南西	〇	二三	一八
父島	七	七五八・九	二六・五	三〇・二	二四・五	三四・四	二一・二	八一	五三	一五九・四	一三三・六	三・一	南	一六・八	東	一	一五	一二
布良	一一	七五六・五	二三・九	二五・七	二一・〇	三一・五	一五・四	九〇	五二	二〇八・一	一一二・三	七・三	南東	二八・五	南	一	一六	一四
銚子	二二	七五七・二	二二・七	二五・八	二〇・三	三三・四	一四・七	八九	四七	一三四・七	一二〇・二	五・三	南	三二・〇	北	一	一六	一三
水戸	三二	七五六・八	二二・一	二六・四	一八・九	三四・六	一三・二	八七	四二	一五一・〇	一四四・六	三・三	北東	二一・四	南西	一	二一	一七
金山	一〇	七五六・六	二〇・九	二四・七	一七・四	三四・二	一〇・〇	八六	三五	七二・一	一四四・〇	一・五	南東	九・五	東北東	〇	二三	二〇
石巻	二一	七五六・九	二〇・八	二四・〇	一八・一	三四・五	九・六	八九	四〇	一四四・五	一一五・二	三・九	南東	二六・六	南	一	一八	一六
金華山	六	七五七・三	一九・一	二一・三	一六・九	三一・二	一一・五	九一	四九	一六一・二	六九・〇	六・八	北	三六・七	南	一	二〇	一六
宮古	二五	七五七・四	一九・六	二四・二	一六・一	三五・六	六・六	八八	四〇	一四二・五	一五二・六	一・七	西	二五・二	南	一	一九	一六
八木	一二	七五六・二	二五・三	二九・九	二一・五	三四・九	一三・八	七九	四〇	二四九・九	一七三・二	二・五	北	一八・二	北東	一	一五	一六
京都	二八	七五六・八	二四・九	三〇・一	二〇・五	三六・五	一二・二	七九	三四	二三三・八	一三五・七	一・八	南	二〇・一	東	一	一七	一五
彦根	一五	七五六・五	二四・一	二八・三	二〇・六	三四・一	一三・〇	八一	四七	二三三・〇	一二七・〇	二・〇	北西	一四・七	東南東	一	一五	一六
岐阜	二六	七五六・九	二五・二	二九・八	二一・六	三八・二	一三・八	八〇	三四	三〇〇・〇	二五七・二	二・一	南	二八・八	南東	二	一五	一六
高山	九	七五六・七	二一・六	二七・四	一七・五	三三・三	一〇・〇	八一	三一	二八六・〇	一一八・一	一・六	南	一三・三	南南西	〇	一九	一八
飯田	一一	七五六・六	二三・五	二七・九	一八・三	三五・〇	一〇・一	八〇	三七	二九四・一	一一六・七	二・四	南西	一七・〇	西南西	一	一六	一八
甲府	一四	七五六・二	二四・一	二九・一	二〇・五	三六・六	一三・〇	七九	三六	一七一・七	一七〇・五	二・一	西	一八・三	西	〇	二一	一六
松本	一一	七五六・〇	二一・八	二七・五	一八・〇	三四・五	一一・五	八〇	三八	一五三・〇	一三二・二	三・二	北西	一七・九	南南東	〇	二〇	一七
長野	二〇	七五六・一	二二・七	二八・四	一八・七	三五・〇	一〇・二	七八	三三	一六八・七	一〇八・二	二・六	南西	一七・五	北北西	一	一七	一七
前橋	一二	七五六・六	二三・一	二七・一	一九・七	三四・四	一四・〇	八四	三六	一八九・七	七一・六	三・四	南東	二三・一	北	〇	二一	二〇
熊谷	一二	七五六・七	二三・四	二七・七	二〇・〇	三五・二	一四・二	八四	三七	一六七・五	一〇五・二	二・五	南東	二四・三	南南東	一	二〇	一七
筑波	七	七五七・二	一八・四	二一・六	一六・一	二八・三	九・四	九三	三九	二〇五・八	一二三・八	五・六	南西	二七・四	東	〇	二三	一八
宇都宮	一八	七五六・八	二二・八	二七・五	一九・五	三四・五	一一・八	八四	三八	二三九・〇	一四五・六	一・七	南	一八・〇	南南西	〇	一九	二〇
足尾	一〇	七五七・三	一九・三	二三・九	一七・七	三二・三	一〇・〇	八五	三四	二四六・一	一六六・六	一・八	東	一五・三	南	〇	二一	二二
福島	一九	七五六・六	二二・四	二七・四	一八・八	三五・九	一〇・一	八一	二九	一五七・五	一〇五・二	二・四	北東	二一・三	西	一	二二	一八
山形	一九	七五六・四	二二・五	二七・六	一八・一	三四・九	八・九	八〇	三三	一四六・二	一〇一・二	二・〇	北	一四・九	南西	一	一七	一六
水澤	四	七五七・一	二〇・八	二五・三	一七・二	三二・六	九・四	八三	四一	一二三・一	五四・四	三・三	南	一三・八	南	四	二二	一六
濱田	一六	七五五・八	二四・一	二七・九	二〇・七	三五・二	一二・三	八二	四五	一七七・四	一〇一・八	四・三	北東	三八・二	南西	三	一四	一五
境	二六	七五六・三	二四・五	二八・三	二一・二	三五・〇	一二・一	八三	四三	一八〇・七	一四一・〇	三・三	北東	二七・五	南西	二	一五	一四
西郷	八	七五六・一	二一・七	二四・六	一九・九	三〇・二	一三・一	八九	六一	二一三・六	二一一・七	七・〇	西	二二・七	東	一	一七	一四
經ケ岬	六	七五六・〇	二二・九	二六・二	二〇・八	三二・三	一三・〇	八四	五二	一九三・〇	五〇・八	二・九	東	二五・八	東南東	二	一六	一五
宮津	八	七五六・一	二三・八	二八・四	二〇・三	三五・八	一三・五	八二	三四	一八九・九	七七・七	二・一	南西	一六・七	南	一	二〇	一六
舞鶴	七	七五六・三	二四・二	二九・四	二〇・四	三六・一	一三・四	八一	四四	二〇八・三	七九・五	二・〇	南東	一〇・二	南	〇	一九	一五
敦賀	七	七五六・二	二三・八	二八・三	二一・一	三五・三	一三・五	八二	四六	二二九・四	一〇三・六	二・八	南	一四・三	北北東	三	一八	一七
福井	一二	七五六・一	二四・二	二九・一	二〇・六	三六・一	一三・五	八四	三八	二四七・五	一九三・六	二・五	北西	一三・五	西南西	二	一六	一七
金澤	二七	七五六・七	二三・九	二八・一	二〇・一	三五・六	一一・〇	八三	四〇	二一一・四	一一〇・七	二・〇	南東	二一・七	南西	二	一八	一五
皆月	八	七五五・五	二一・七	二五・二	一九・九	三二・八	一三・九	八三	三一	一九七・三	一一九・四	五・四	南	三〇・五	南	一	一七	一五
伏木	二四	七五六・五	二三・九	二七・三	二〇・八	三五・六	一一・七	八五	四〇	一九七・一	九八・三	三・五	北東	二二・一	南西	一	一八	一五
新潟	二七	七五六・七	二三・四	二七・二	二〇・三	三五・七	一三・三	八三	二六	一五三・〇	七八・六	三・二	南東	二四・四	西南西	一	一六	一五
加茂	六	七五六・二	二二・六	二六・一	一九・一	三四・四	一五・七	八四	四九	二〇一・七	一二七・一	四・〇	南東	一二・五	南東	二	一九	一七
秋田	二六	七五六・九	二一・九	二五・八	一八・三	三四・四	一〇・二	八五	三二	一八四・六	一一八・二	三・六	南東	一九・七	南東	二	一九	一七
青森	二七	七五六・九	二〇・四	二四・三	一七・三	三三・九	八・三	八二	三二	一三一・一	一一二・一	二・六	北	一三・八	西北西	二	一五	一四
龍飛	七	七五六・七	一七・九	二一・〇	一五・八	二四・四	九・三	九〇	五六	一五九・八	八二・八	六・九	東	三六・六	南西	一	二〇	一六
函館	三五	七五七・一	一八・八	二二・四	一五・二	三三・六	六・三	八七	三九	一二七・一	七九・九	三・八	南東	二四・九	東	二	一七	一三
壽都	三三	七五六・五	一八・三	二一・七	一五・六	三三・〇	七・一	八六	四三	九二・七	六八・三	九・一	南南東	三八・六	西南東	一	一七	一三
札幌	三二	七五六・五	一九・一	二四・三	一四・六	三三・一	五・二	八四	三一	八四・三	一一三・五	四・二	南東	二〇・九	北西	二	一五	一二
宗谷	三三	七五六・六	一五・三	一八・四	一一・七	二九・〇	四・七	九〇	三八	七四・三	八五・七	九・一	東	三三・八	北東	一	一八	一一
上川	二〇	七五六・七	一八・九	二五・二	一三・二	三四・九	一・〇	八〇	三〇	一一五・八	一二七・六	一・九	西	一三・八	南南東	一	一七	一四
十勝	一六	七五七・四	一七・六	二四・〇	一一・七	三四・八	一・八	八四	三三	一〇六・七	七四・四	一・六	東	一九・五	北西	〇	二〇	一六
穠雲	二二	七五七・一	一五・一	一七・二	一三・〇	二五・一	五・六	九四	五四	一一三・一	一〇九・六	—	西	—	—	〇	二三	二二
釧路	一五	七五七・三	一六・二	二一・五	一二・一	三二・四	(一)〇・七	八六	四〇	一〇四・六	一二〇・六	二・五	南西	一六・八	南	〇	二三	一六
網走	一九	七五六・九	一六・四	二一・〇	一三・一	三五・八	二・八	八五	四二	二八・五	五二・五	一・四	南	一六・五	南	一	一八	一三
根室	二九	七五七・六	一四・三	一八・三	一〇・七	三一・九	〇・四	九一	四〇	八七・三	一一〇・二	四・三	南南西	二四・一	北北東	一	二〇	一五
紗那	六	七五七・九	一三・五	一八・二	九・四	三〇・七	(一)〇・二	八八	二九	六三・七	三二・五	五・五	南東	二一・二	南	二	二〇	一三
大泊	三	七五七・七	一三・九	一八・〇	一〇・六	二七・九	一・七	八九	四九	八〇・三	五四・四	四・二	南	二一・六	北東	二	一九	一二
釜山	五	七五五・三	二三・三	二六・二	二〇・八	三三・六	一五・三	八二	三一	三一四・〇	二一八・五	五・一	北東	二五・四	北北東	四	一三	一三
木浦	五	七五四・五	二四・〇	二七・五	二一・六	三三・〇	一五・〇	八七	四四	一四三・二	二〇〇・一	五・九	南東	一九・四	南	三	一四	一三
仁川	五	七五四・六	二三・三	二六・九	二〇・五	三二・八	一四・五	八三	三八	一二八・八	一五二・五	五・二	南西	二四・八	南東	四	一六	一四
元山	五	七五五・三	二一・六	二六・一	一八・七	二九・六	一二・四	八七	三九	三二二・七	一五三・六	三・三	東	一八・九	東北東	二	二〇	二〇
城津	四	七五五・二	一九・〇	二二・七	一六・九	二九・〇	一三・〇	九〇	四八	一二七・五	八六・五	三・二	南	一九・八	北東	一	一九	一六
龍岩浦	五	七五四・四	二三・七	二六・五	一九・八	三二・九	一五・六	八五	四〇	一七三・一	七三・二	五・二	南	二六・〇	南	二	一七	一五
大連	四	七五三・四	二三・二	二六・六	二〇・六	三二・三	一六・七	八三	三〇	一六五・二	八〇・六	五・一	東	二四・四	南	三	一五	一〇
旅順	三	七五三・三	二二・四	二六・二	二〇・〇	三二・九	一六・六	九二	四一	一二七・五	五二・五	三・三	南東	一四・二	南	三	一二	九
營口	四	七五二・九	二四・二	二八・〇	二〇・五	三二・三	一五・四	七八	二九	一五九・五	八九・七	四・八	南	一九・三	南西	四	一〇	一二
奉天	四	七五二・六	二三・九	二九・二	一九・〇	三五・一	一三・一	七八	二八	一八五・七	六九・五	三・一	南	一七・六	東南東	一	一三	一六
天津	四	七五二・四	二六・二	三二・一	二二・〇	三九・七	一七・〇	七二	二一	一五五・四	七一・六	三・七	南東	一六・五	東北東	五	八	一三
芝罘	四	七五三・三	二三・八	二七・九	二〇・六	三三・七	一七・三	八五	三〇	一六八・〇	九七・八	四・〇	南	二三・四	南	五	二二	一二
杭州	四	七五二・六	二七・八	三三・〇	二四・四	三九・六	一八・五	八二	四六	一七二・〇	一一五・一	一・八	南東	七・七	北北西	四	一四	一三
南京	四	七五四・〇	二六・九	三〇・九	二三・九	三八・〇	一八・七	八五	三六	二五九・九	一〇七・二	一・八	南東	一二・五	北西	三	一三	一四
漢口	四	七五二・一	二八・二	三三・一	二五・六	三七・一	二〇・七	八〇	四〇	一八六・二	八一・九	二・五	南東	一三・六	南西	四	一三	一四
沙市	四	七五〇・九	二七・三	三一・一	二四・六	三七・二	二〇・二	八三	四七	一六七・〇	七六・三	二・六	南	一一・五	南	四	一二	一三

（備考）氣壓及降水量ハ粍、溫度ハ攝氏ノ度但シ氷點以下ノ度ハ(一)ヲ附シテ區別ス、風ノ速度ハ一秒時間ノ米、濕度ハ百分率、天氣ハ一日中ノ降水量一粍ノ十分ノ一以上アリシ日ヲ雨雪トシ雲量十分ノ二未滿ヲ快晴、同十分ノ八以上ヲ曇トス

〇全國天氣豫報

自六月二十五日午後六時
至六月二十六日午後六時
二十四時間ノ天氣豫報　二十五日發

第一區　南ノ風、概ネ晴
第二區　南西ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第三區　第二區ニ同シ
第四區　第二區ニ同シ
第五區　南ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第六區　第五區ニ同シ
第七區　南東ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第八區　北ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第九區　第五區ニ同シ
第十區　第五區ニ同シ

〇東京地方天氣豫報

南ノ風、曇少雨

〇東京氣象

六月二十四日

氣壓（海面ノ度）　平均　七五九・二粍
氣溫　平均　一九・〇度（平年ヨリ二・七度低シ）
　最高　二一・〇度
　最低　一六・九度
濕度　平均　九五・〇%
水蒸氣張力　平均　一五・五粍
雲量　平均　一〇・〇
日照時間　〇・〇時
風　平均速度　一・八米
　最大速度　三・〇米
　最多方向　北北東
降水　總量　六・九粍
　一時間最大量　二・四粍
蒸發　總量　〇・二粍
記事　前日來ノ降雨午後二時五十三分ニ歇ミシカ同三時三十分ヨリ再ヒ微雨同十時五十三分ニ至リテ歇ム更ニ又同十一時三十七分ヨリ微雨ヲ催シ翌日ニ亘ル

（以上中央氣象臺）

〇土地收用公告

左ノ事業ハ土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スルコトヲ得ルモノト認定ス

起業者　大阪府大阪市
事業ノ種類　軌道敷設
起業地　大阪府大阪市西區九條町、梅本町、本田町通一丁目、本田三番町、本田二番町、本田壹番町、川口町、南區日本橋筋東二丁目、逢阪下之町、逢阪上之町、末吉橋通一丁目、松屋町、西新瓦屋町、東新瓦屋町、谷町筋六丁目、北桃谷町、上本町筋二丁目、內安堂寺町通一丁目、內安堂寺町通二丁目、北區中之島七丁目、中之島六丁目、常安町、玉江町二丁目、玉江町一丁目、宗是町、中之島三丁目地內

右公告ス

明治四十二年六月二十六日　內閣總理大臣　侯爵桂太郎

〇廣告

〇圖書發行

本局編纂
一法令全書　明治四十二年第五號　全一冊　代價郵稅共金十八錢　但シ郵送ヲ要セサルモノハ金四錢ヲ減ス

右本月二十五日發行本局直賣ノ外左記官報販賣所ニ於テ販賣ス

明治四十二年六月　印刷局

官報販賣所 販賣區域	位置	
東京府、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、神奈川縣、埼玉縣、山梨縣	東京市京橋區銀座一丁目	大日本圖書株式會社
大阪府、兵庫縣、和歌山縣、鳥取縣	大阪市西區靭中通一丁目	玉手弘通
京都府、奈良縣、滋賀縣	京都市上京區柳馬場通二條下ル	合資會社商報會社
靜岡縣、愛知縣、三重縣、岐阜縣	名古屋市東區京町四丁目	合名會社永東書店
廣島縣、岡山縣、島根縣、山口縣	廣島市大手町二丁目	早速勝三
香川縣、高知縣、愛媛縣、德島縣	丸龜市大字富屋町	木村許一郎
福岡縣、長崎縣、佐賀縣	福岡市中島町	石田忠兵衞
熊本縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣	熊本市新町二丁目	長崎次郎
新潟縣、長野縣	新潟市本町通四番町	高橋モト
石川縣、富山縣、福井縣	金澤市片町	宇都宮源平
北海道、宮城縣、福島縣、岩手縣、青森縣、山形縣、秋田縣	仙臺市東三番丁	佐々木重兵衞

〇觀覽差止

表慶館ハ特別陳列ヲ本月三十日マテトシ來ル七月一日以後ハ陳列替等ノタメ當分公衆ノ觀覽ヲ止ム

明治四十二年六月　東京帝室博物館

〇外交官及領事官試驗

本年九月二十日ヨリ外交官及領事官試驗ヲ施行スヘキニ付キ志願ノ者ハ明治二十七年六月外務省令第七號ニ依リ九月十日マテニ出願書ニ履歷書及論文並ニ之ヲ外國文ニ翻譯シタルモノヲ添ヘ外交官及領事官試驗委員長ニ宛テ外務省ニ差出スヘシ

前項翻譯ニ用フヘキ外國文ハ英文、佛文又ハ獨文ニ限ル

試驗期日前ニ召集ヲ受ケサル者ハ不合格者ト心得ヘシ

論文題

封鎖ヲ論ス（用紙美濃紙十二行三十字詰ニシテ十五枚以下トス但シ譯文ハ此限ニアラス）

明治四十二年六月　外交官及領事官試驗委員長　石井菊次郎

〇講習生募集

本所ニ於テ今般第二十八回講習生ヲ募集ス志願者ハ左ノ事項承知ノ上本年八月二十日マテニ履歷書ヲ添ヘ願書差出スヘシ

明治四十二年六月　傳染病研究所

一志願者ハ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ
　醫術開業免狀ヲ有スル者　獸醫免狀ヲ有スル者
一講習期間ハ三箇月トシ本回ハ本年九月十三日ヨリ開始ス
一講習生ハ講習料金二十圓ヲ本所ニ納付スヘシ
一右ノ外講習ニ關スル費用ハ自辨タルヘシ
一講習生ノ許可ヲ得タル者ハ保證人ヲ定メ誓約書ヲ本所ニ差出スヘシ
　但シ保證人ハ戶主ニシテ相當ノ財産若クハ資格アル者ニ限ル

講習生志願書書式（用紙美濃紙以下之ニ同シ）

講習生志願書

自分儀傳染病研究所講習生志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

明治四十二年　月　日
居所
本籍地
族稱　何　某㊞　年月日生

傳染病研究所長醫學博士北里柴三郎殿

履歷書書式（隨意）

誓約書書式（印紙參錢貼用）

誓約書

自分儀今般貴所講習生タルコトヲ御許可相成候ニ付テハ講習ニ關スル御規則遵守可致ハ勿論在所中ニ生シタル一切ノ事件ハ自分ニ於テ處理可致此段誓約候也

明治　年　月　日　何　某㊞

右何某ニ於テ誓約履行不致候節ハ自分引受ケ處辨可致此段保證候也

明治　年　月　日
居所
本籍地
戶主、族稱、職業　何　某㊞　年月日生

傳染病研究所長醫學博士北里柴三郎殿

第7800号 本文

○賞賜物件拜受者居所不明

左記ノ者所在不明ノタメ明治三十七八年戰役ニ關スル賞賜物件ヲ交付シ能ハサルニ付キ心當ノ者ハ至急當隊ニ申出ツヘシ

明治四十二年六月　重砲兵第五聯隊

賞賜	原籍地	所屬部隊	官等	氏名
御沙汰書	佐賀縣佐賀郡松梅村三五	元下關要塞砲兵聯隊	砲兵伍長	中島龍吉郎
從軍記章	同縣同郡嘉瀬村字萩野九〇	元大連灣要塞砲兵大隊	同一等卒	大島萬吉

○裁判所書記試驗及第者

曩ニ當地方裁判所ニ於テ擧行ノ裁判所書記登用試驗ニ及第セシ者左ノ如シ

明治四十二年六月　福岡地方裁判所書記登用試驗委員長　大野吉利

佐賀縣平民　岩橋朝一
福岡縣平民　榎木鐵治
佐賀縣士族　尾形龜太郎
鹿兒島縣士族　八ケ代義則
福岡縣平民　柴田甲四郎
岡山縣平民　猪平源太郎
福岡縣平民　富久繁太郎
廣島縣平民　杉原忠雄
長崎縣士族　鶴猪七
福井縣士族　木本篤
長崎縣士族　早川蕭
福岡縣平民　矢賀部箸米
廣島縣平民　今西鑑造
福岡縣平民　永尾梅吉
佐賀縣士族　堤謙造
岡山縣平民　佐伯剛
福岡縣平民　安武俊三
大分縣平民　廣瀬道雄
熊本縣平民　田代末記
福岡縣平民　高野貫
熊本縣平民　緒方朝來
福岡縣平民　太田久次郎
大分縣平民　河野龍太
佐賀縣平民　松尾常六
鳥取縣士族　坪崎信正
福岡縣平民　柴田久吉
福岡縣平民　井上長三郎
熊本縣平民　木原末次
福岡縣平民　上村眞隆
福井縣平民　柄谷末吉
福岡縣平民　森高源藏
長崎縣士族　久田貞光
長崎縣平民　杉原壽保
熊本縣平民　菊川惇
長崎縣平民　川端強助
福岡縣士族　坂田嚴之
香川縣士族　小野二郎吉
福岡縣平民　藤原千太郎
岡山縣平民　入澤周治

○免許證交付

左記ノ者ニ對シ今般案内業者取締規則第二條ニ依リ免許證ヲ交付セリ

明治四十二年六月　長崎縣

免許證番號	外國語種類	住所	氏名
第二十四號	英語	福岡縣門司市錦町五丁目野口方寄留士族	菊村敏夫
第二十五號	露語	長崎縣長崎市廣馬場町十六番地居住平民	谷口市郎

○購買入札

一鐵「ボールト」及座鐵　二點　上野納

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當部倉庫課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月十二日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道院計理部長平井晴二郎擔任ス

明治四十二年六月二十六日　鐵道院計理部

一線路用篩砂利　二百五十立坪
一同　三百五十立坪
一同　六百五十立坪
以上間々田（土浦又ハ熊ケ谷）大麻生間納

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月三日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ東部鐵道管理局長長谷川謹介擔任ス

明治四十二年六月二十六日　東部鐵道管理局

一洋紙類　三點　神戸納

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月十二日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ西部鐵道管理局長岩崎彦松擔任ス

明治四十二年六月二十六日　西部鐵道管理局

一彈機用平鋼　一万五千八百瓩
一屋根用麻布　一万八百呎　小倉納
一色紙屑　七万斤　門司納

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月十二日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ九州鐵道管理局長植村俊平擔任ス

明治四十二年六月二十六日　九州鐵道管理局

第一號　藁　三千九百貫　騎兵第十三聯隊納
第二號　同　五千九百貫　同第十四聯隊納
第三號　同　五千二百九十六貫　同第十五聯隊納
第四號　同　二千五百貫　同第十六聯隊納
第五號　同　二千五百六十貫　野砲兵第十五聯隊納
第六號　同　二千五百五十貫　同第十八聯隊納
第七號　同　二千貫　輜重兵第一大隊納
第八號　同　二百六十貫　陸軍大學校納
第九號　同　六百五十三貫　陸軍中央幼年學校納

以上來ル七月中所要

以上入札保證金各自見積代金百分ノ五以上（圓未滿圓位ニ切上ク）

右購買スヘキ入札望ノ者ハ當廠ニ就キ入札心得書、契約書案及標本等熟覽ノ上來ル七月二日午前十一時限當廠ニ入札スヘシ同時開札ス

此契約ハ陸軍糧秣本廠長渡邊賢次郎擔任ス

明治四十二年六月二十六日　東京市深川區越中島町　陸軍糧秣本廠

一精米　三百五十石　習志野原演習出張隊納　但シ來ル七月需用ノ見込

入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）、入札者ハ二年以上引續キ其業ニ從事セル旨郡市區町村長ノ證明アル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ來ル七月一日マテ（執務時間内）ニ當部ニ出頭標本、入札心得書及契約書案等ヲ熟覽シ承諾書及營業證明書ヲ差出シタル上同二日午前九時四十分限入札保證金ヲ納入シ同十時マテニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ近衞師團經理部長辻村楠造擔任ス

明治四十二年六月二十六日　近衞師團經理部

一帆布（粗製）　六千「メートル」
一白綱　千五百瓩

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上、契約保證金請負代價百分ノ十（圓未滿切上ケ圓止トス）、入札者ハ二年以來其業ニ從事スル者ニ限ル

右購買スヘキ入札望ノ者ハ當部計算課ニ就キ入札心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月十二日午後一時限營業證明書及入札保證金ヲ添ヘ同課ニ入札書差出スヘシ同時三十分同課ニ於テ開札ス

一電働機　十臺
一檜丸太　百二十本
一雲母　百瓩
一「チーク」材　尺〆五百本
一米國松材　尺〆百五十本
以上來ル七月十二日入札

一「レンズ」「プリズム」用硝子板以下二點
右來ル七月二十四日入札

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上、契約保證金請負代價百分ノ十（圓未滿切上ケ圓止トス）、入札者ハ二年以來其業ニ從事スル者ニ限ル

右購買スヘキ入札望ノ者ハ當部計算課ニ就キ入札心得書及契約書案等熟覽ノ上各〻入札當日午後一時限營業證明書及入札保證金ヲ添ヘ同課ニ入札書差出スヘシ同時三十分同課ニ於テ開札ス

以上契約ハ孰モ横須賀海軍工廠會計部長櫻孝太郎擔任ス

明治四十二年六月二十六日　横須賀海軍工廠會計部

第一號　外國白米　百石
第二號　精麥　百石

以上入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）、入札者ハ二年以上其業ニ從事シタル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ當監獄第三課ニ就キ入札心得書、契約書案及標本等熟覽ノ上來ル七月六日午前十一時限營業證明書ニ入札保證金ヲ添ヘ入札スヘシ同時三十分開札ス

此契約ハ秋田監獄典獄江澤精造擔任ス

明治四十二年六月二十六日　秋田監獄

（三四）

○工事請負入札

一北海道線釧路停車場計重臺基礎及上家設置工事　一箇所
一計重臺基礎工
一計重臺上家木造柾葺平家新設　建坪二十坪
一同附屬附屬家新設　建坪二坪餘
一土管伏設　延長十二呎
一吸込枡　一箇所

以上入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右請負望ノ者ハ當局又ハ釧路保線事務所ニ就キ入札人心得書、契約書案、示方書、圖面及現場等熟覽ノ上來ル七月十日午前十一時限入札書ヲ當局ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ北海道鐵道管理局長野村彌三郎擔任ス

明治四十二年六月二十六日　北海道鐵道管理局

一高田師團司令部外九箇所各建物煖爐煙筒上屋根三角形雪止木新設工事
一高田各部隊屋根雪止木增設用修理工事

以上入札保證金各自見積金高百分ノ五以上、契約保證金請負金高百分ノ十、入札者ハ滿二年以來其業ニ從事シアル旨並ニ金高千圓以上ニ在リテハ明治四十一年六月十九日陸軍省令第十三號ノ資格アル旨市區町村長ノ證明アル者ニ限ル總テノ資格證明書ハ入札前日午前九時マテニ、入札保證金ハ入札當日午前九時マテニ當部ニ差出スヘシ

右請負望ノ者ハ入札前日マテニ當部ニ就キ入札心得、契約書案、設計書、圖面及現場等熟覽ノ上來ル七月三日午前十時限當部ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ臨時陸軍建築部仙臺支部長西村貫之助擔任ス

明治四十二年六月二十六日　新潟縣中頸城郡高田町　臨時陸軍建築部仙臺支部

一本校應用化學科工場增築工事　一箇所

入札保證金各自見積價格百分ノ五以上、入札者ハ滿二年以上其業ニ從事セル確實ナル證明アル者ニ限ル

右請負望ノ者ハ當校會計掛ニ就キ仕様書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル七月二日午前十時マテニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ東京高等工業學校長手島精一擔任ス

明治四十二年六月二十六日　東京高等工業學校

○入札拂下

一菱形浮標外八點

入札保證金各自見積價格百分ノ五以上

右買受望ノ者ハ來ル七月十一日マテニ當局會計課ニ就キ入札人心得書及現品熟覽ノ上同十二日午前十一時三十分マテニ入札保證金納付ト同時ニ入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ長崎郵便局長藪內敬之助擔任ス

明治四十二年六月二十六日　長崎郵便局

○商業登記

株式會社登記簿第一册第二號

日淸燐寸株式會社登記事項中左ノ通變更ス

一取締役堀內茂吉ハ明治四十二年三月二十五日辭任セリ
一廣島縣廣島市八丁堀三十二番地ノ二堀內茂吉ハ明治四十二年三月二十五日臨時總會ニ於テ取締役ニ選任セリ

明治四十二年六月十二日登記

右公告ス

在淸國長春　帝國領事館

（三五）

一合名會社仁記公司解散及淸算人選任ニ關シ左ノ通登記ス
一總社員ノ同意ニヨリ明治四十二年六月七日解散セリ
一淸算人ノ住所氏名
淸國漢口　黃元根
同上　王錫懋
同上　平野伸

右明治四十二年六月七日登記

在淸國漢口　帝國領事館

岡山電燈株式會社

一取締役淸水福次郎ハ明治四十二年六月十四日辭任シタリ
一明治四十二年六月十四日臨時株主總會ニ於テ取締役補缺選擧ニ依リ左ノ者當選就任ス
岡山市大字橋本町十一番地　淸水福次郎
一明治四十二年六月十五日優先株式一千五十株ニ對シ左ノ拂込ヲナシタリ
一株ニ付十二圓五十錢

右明治四十二年六月二十一日登記

岡山區裁判所

○法人登記

森具永保社理事變更登記　理事上野宗十郎、南野助五郎、前田榮太郎、阪下惣二郎、阪下松之介、小賀文吉ハ再選重任シ武庫郡大社村ノ內森具村字屋敷五百九十六番地上野淸三郎ハ當選就任ス

右明治四十二年六月二十一日登記

神戶區裁判所西宮出張所

○產業組合登記

有限責任仙臺市埋木細工販賣原料購買組合登記事項中左ノ通登記ス

一明治四十二年六月十八日總會ノ決議ニ依リ解散ス
一淸算人ノ氏名住所
仙臺市川內山屋敷七十六番地　石垣宗喜
同市國分町四丁目三十一番地　後藤宗兵衞
同市川內山屋敷二十二番地　今野爲之助
同市國分町三丁目百四十七番地　山口三之助
同市鍛屋下三十番地　佐藤米治

右明治四十二年六月二十二日登記

仙臺區裁判所

○財產管理人選任

京都市下京區大宮通八條上ル大黑町二百九十五番地平民最後ノ住所同所
不在者　池澤鶴吉
明治十年八月二十二日生

明治四十二年（ウ）第三八一號財產管理人選任事件ニ付京都市下京區大宮通八條上ル大黑町二百九十五番地池澤みつノ申請ニ依リ同所池澤さとヲ前記池澤鶴吉ノ財產管理人ニ選任シタリ

明治四十二年六月二十二日

京都區裁判所
判事　樋木八郎

○相續財產管理人選任

愛知縣知多郡阿久比村大字卯坂五十八番戶　新美英吉

愛知縣知多郡阿久比村大字卯坂字奥比二十六、二十七、二十八合番地平民被相續人亡都築間治ノ相續財產管理人池田竹三郎ハ明治四十二年六月二十一日辭任シタルニ付前記新美英吉ヲ相續財產管理人ニ選任シタリ

明治四十二年六月二十一日

半田區裁判所
判事　緒方卓爾

○準禁治產宣告

群馬縣碓氷郡里見村大字下里見村千三百五十八番地平民農　富澤好太郎

右ニ對シ群馬縣碓氷郡里見村大字中里見村五番地乾竹次郎ノ申立ニ因リ當裁判所ハ明治四十二年六月十六日準禁治產ノ宣告ヲ爲シタリ

明治四十二年六月二十二日

高崎區裁判所
判事　高橋昇

第7800号　本文

第7800号 本文

○公示催告

一荷物引替證　一通

證券番號坂ホ第九七號運送品種類鐵板運送品ノ數量三箇到著地掛川町荷送人住所氏名大阪市川合喜太郎荷受人氏名住所掛川町鳥居商店荷物引替證發行人内國通運株式會社大坂支店支店長勝本相定荷物引替證宛名内國通運株式會社掛川取引店飯田覺次郎荷物引替商作製地大阪市荷物引替證作製年月日明治四十二年一月三十日

一荷物引替證　一通

證券番號坂ニ第六五號運送品種類鐵板運送品ノ數量五箇到著地掛川町荷送人住所氏名大阪市佐渡島商店荷受人住所氏名掛川町鳥居商店荷物引替證發行人内國通運株式會社大坂支店支店長勝本相定荷物引替證宛名内國通運株式會社掛川取引店飯田覺次郎荷物引替證作製地大阪市荷物引替證作製年月日明治四十二年一月二十二日

一荷物引替證　一通

證券番號坂ニ第六七號運送品種類麥稈眞田運送品ノ數量二俵到著地掛川町荷送人氏名住所大阪市藤井商店荷受人氏名住所大須村服部豐次郎荷物引替證發行人内國通運株式會社大坂支店支店長勝本相定荷物引替證作製地大阪市荷物引替證宛名内國通運株式會社掛川取引店飯田覺次郎荷物引替證作製年月日明治四十二年一月二十二日

右證券ハ靜岡縣小笠郡掛川町掛川四百七十八番地飯田覺次郎ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニ依リ其所持人ハ明治四十三年一月十五日午前九時マテニ當區裁判所ニ權利ヲ屆出テ且證券ヲ提出スヘシ若右期日マテニ屆出テ及提出ヲ爲サヽルトキハ其證券ノ無效宣言ヲ受クヘシ

明治四十二年六月二十一日

掛川區裁判所
判事　道前彰

○失踪宣告

兵庫縣三原郡沼島村七百三十六番屋敷平民漁業
不在者　青井九郎
弘化二年六月十三日生

右ノ者ニ對シ其家督相續人青井きよノ申立ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

明治四十二年六月十九日

洲本區裁判所
判事　遠山嘉又

三重縣宇治山田市大字河崎町百三十六番屋敷同居平民無職
不在者　堀内せい

右ノ者ニ對シ鈴木六助ノ申立ニヨリ失踪者ト宣告シタリ

明治四十二年六月二十一日

山田區裁判所
判事　中村雛太郎

秋田縣由利郡平澤町芹田二十二番地戸主平民漁業
不在者　阿部十治
嘉永二年十一月一日生

右ノ者ニ對シ長男阿部卯之助ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ明治四十二年六月十七日失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

明治四十二年六月二十一日

本莊區裁判所
判事　福原資忠

○華族世襲財產

一記名大日本帝國政府五分利公債證書合額面二万六千圓
男爵池田勝吉所有

右世襲財產ト爲シタキ旨願出テタル趣宮内大臣ヨリ達セラル依テ該財產ニ對シ故障アル向又ハ記番號承合セラレタキ向ハ本年八月二日マテニ當銀行ニ申出テラルヘシ

明治四十二年六月二十六日

日本銀行

○東京郵便局外國郵便締切時限

明二十七日横濱マテ汽車便送同地ヨリ「モンゴリア」號ヲ以テ布哇經由歐米ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

		東京局	市内各局
通常	普通	二十七日午前十時半	二十七日午前八時
	書留	同日午前十時	同上
小包		二十六日午後七時	二十六日午後五時
爲替	聯合	二十七日午前九時半	同日午後四時
	特別	二十六日正午十二時	同日午前九時半

（備考）小包ハ北米合衆國及其屬地宛トス

○同上締切豫告

本月中外國郵便締切豫定日左ノ如シ

一布哇經由歐米諸國宛　三十日頃締切ノ筈

一西伯利經由ノ歐洲諸國及南米（亞爾然丁、伯剌西爾、智利、巴拉圭、烏爾圭）宛ハ毎週火、土曜日ニ上海、香港竝ニ印度地方ヘハ毎週數回ノ差立アルニ依リ隨時差出ス方速達ヲ得ヘシ

○日本郵船株式會社汽船横濱出發表

山口丸　明二十七日午前十時横濱出帆本月三十日午前十時神戸出帆門司、長崎上海行

安藝丸　明後二十八日正午十二時横濱出帆七月一日午前十時神戸出帆ビクトリア、シアトル行（歐米各地行通船客切符及通船荷證券ヲ發行ス）

河内丸（歐洲行）　七月七日正午十二時横濱出帆同十日午前十一時神戸出帆門司、上海、香港、新嘉坡、彼南、コロンボ、蘇士、ポートサイド、馬耳塞、倫敦、アントワープ行

錫蘭丸　同十二日午前十時横濱出帆同十六日午前十時神戸出帆門司、上海、香港行（船客ヲ搭載セス）

○同上神戸等出發表

信濃丸（米國行）　本月三十日午前十時神戸出帆七月六日午後四時横濱出帆ビクトリア、シアトル行（歐米各地行通船客切符及通船荷證券ヲ發行ス）

竹島丸　七月二日午前十時神戸出帆門司、大連、芝罘、大沽、牛莊行

擇捉丸　同三日未明神戸出帆門司、香港、新嘉坡、コロンボ、孟買行（船客ヲ搭載セス）

立神丸　同四日午前十時神戸出帆門司、長崎、釜山、元山、淸津、浦潮斯德行

毎日（午後九時青森發翌朝三時函館著
　　（午後八時青森發翌朝八時室蘭著

鎌倉丸　毎月神戸發正午（三日 十七日）門司發（四日 十八日）基隆著午前（七日 二十一日）

○大阪商船株式會社汽船神戸等出發表

韓國行

安平丸　明後二十八日午後三時大阪出帆翌二十九日午前十時神戸出帆門司（下關）、仁川、鎭南浦、安東縣行

廈門丸　本月二十九日午前九時大阪出帆同日午後一時神戸出帆門司（下關）、釜山、木浦、群山、仁川行

城津丸　七月三日午前八時大阪出帆同日正午十二時神戸出帆門司（下關）、釜山、元山、城津、淸津行

淸國行

大信丸　明二十七日正午十二時大阪出帆翌二十八日午前十時神戸出帆門司、天津行（天津行ハ白河ヲ遡航シ居留地碼頭ニ横付ス）

開城丸　同日正午十二時大阪出帆翌二十八日午前十時神戸出帆門司、大連行

天草丸　七月一日正午十二時大阪出帆翌二日午前十時神戸出帆門司、大連行

嘉義丸　同四日午後四時神戸出帆翌五日午後四時宇品出帆門司、大連行

大智丸　同五日正午十二時大阪出帆翌六日午前十時神戸出帆門司、天津行（天津行ハ白河ヲ遡航シ居留地碼頭ニ横付ス）

鐵嶺丸　同八日正午十二時大阪出帆翌九日午前十時神戸出帆門司、大連行

臺灣行

恆春丸　明二十七日午前八時神戸出帆門司、基隆、安平、打狗行

臺中丸　七月一日午後三時横濱出帆同四日正午十二時神戸出帆宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗行

さくら丸　毎月一日、十一日、二十一日午後二時神戸出帆門司、基隆行

臺南丸　毎月八日、二十三日正午十二時神戸出帆門司、基隆行

蘇州丸　毎月十五日、三十日午前六時神戸出帆門司、基隆行（船客ヲ搭載セス）

大義丸　毎月十五日、三十日午前六時神戸出帆門司、基隆行

浦潮斯德行

鳳山丸　本月二十九日午後五時敦賀出帆七月一日浦潮斯德著

土曜日午後二時浦潮斯德出發歐洲行急行列車ニ連絡ス

○附錄　今二十六日發刊敍任及辭令四頁

官報第七千八百號附錄

明治四十二年六月二十六日

○敘任及辭令

本欄敘賜ノ項ニ「功四級（年金五〇〇）旭四等」トアルハ明治四十年（四十一年）韓國暴徒鎭壓事件ノ功ニ依リ功四級金鵄勳章竝ニ年金五百圓及勳四等旭日小綬章ヲ授ケ賜ヒシ者又同項ニ「旭七等二〇〇」トアルハ同シク勳七等靑色桐葉章及金二百圓ヲ授ケ賜ヒシ者又賜金ノ項ニ單ニ「三〇」トアルハ同シク金三十圓ヲ賜ヒシ者ナルモ卷帙浩瀚ニ渉ルヲ以テ其要略ノミヲ揭ク其他皆此例ニ倣フ

歩兵第四十九聯隊

敘賜（勳等　賜金）　陸軍官等位勳功爵　氏名

○明治四十一年九月三日　旭七等　二〇〇　歩兵伍長　野口源兵衛
○明治四十一年七月十二日　旭七等　一四〇　歩兵上等兵　可兒重雄
○明治四十一年九月十九日　旭八等　一〇〇　歩兵上等兵　岩崎雄治郎
○明治四十一年八月八日　旭八等　一〇〇　歩兵二等卒　一ノ瀨竹十郎
○明治四十一年七月七日　旭八等　一〇〇　歩兵上等兵　繁田仙太郎
○明治四十一年七月十二日　旭八等　一〇〇　歩兵二等卒　河本仲三
○明治四十一年七月七日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　矢島熊藏
同　同　同　柴崎茂十郎
○明治四十一年七月十日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　久保田右市
○明治四十一年七月七日　旭八等　一〇〇　歩兵二等卒　山田菊次郎
○明治四十一年七月十日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　高梨佐助
同　同　歩兵二等卒　藤田定五郎
○明治四十一年十一月十一日　瑞八等　六〇　歩兵二等卒　角田常治
○明治四十一年八月二十二日　瑞八等　六〇　歩兵上等兵　松本信次郎
○明治四十一年八月二十七日　瑞八等　六〇　歩兵一等卒　根本久藏
○明治四十一年十一月五日　瑞八等　六〇　歩兵二等卒　金田源四郎
○明治四十一年二月十七日　瑞八等　六〇　歩兵一等卒　多比良賴治

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏名

○明治四十一年十一月七日　三五　歩兵上等兵　內藤右門泰
○明治四十一年七月八日　三〇　歩兵二等卒　原田要六
○明治四十一年八月二十四日　三〇　歩兵一等卒勳八等　吉岡牛次郎
○明治四十一年九月十日　二〇　歩兵一等卒　森川由太郎
○明治四十一年七月十一日　三〇　歩兵二等卒　田浦玉藏
○明治四十一年九月二十二日　三〇　歩兵二等卒　古屋善一
○明治四十一年八月十日　三〇　歩兵一等卒　秦野公明
同　同　木原八十次郎
○明治四十年八月二十七日　一〇　歩兵上等兵　藤村太一
○明治四十一年五月十七日　一〇　歩兵二等卒　曾谷朝則

歩兵第五十聯隊

敘賜（勳等　賜金）　陸軍官等位勳功爵　氏名

○明治四十年十月二十一日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　山田治左衛門
○明治四十年十二月三十一日　旭八等　一五〇　歩兵一等卒　黑澤萬平
○明治四十年九月二十七日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　貝瀨正作
○明治四十年十二月十五日　旭八等　一五〇　歩兵上等兵　太田兼平
○明治四十年十月二十一日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　目黑亮太
○明治四十一年八月二十四日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　遁所宇喜知
○明治四十一年九月十三日　旭八等　八〇　歩兵二等卒　小林芳助
○明治四十一年九月二十七日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　諸橋六一郎
○明治四十一年七月十三日　旭八等　八〇　歩兵二等卒　熊井林精
○明治四十年十一月二日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　小柳淳三
○明治四十一年五月十六日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　石田常五郎
○明治四十年十二月二日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　西卷六四郎
○明治四十年十一月二十五日　旭七等　八〇　歩兵上等兵勳八等　根本市太郎
○明治四十年十一月七日　旭八等　八〇　歩兵二等卒　佐藤俊次
○明治四十年十一月二十五日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　田村長五郎
○明治四十一年十月四日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　田邊石平
○明治四十一年一月十日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　有賀常太郎
○明治四十一年九月十二日　旭八等　八〇　歩兵二等卒　朝倉喜兵衛
○明治四十一年五月十六日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　横山成治
○明治四十年十一月二十四日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　星野林三郎
○明治四十年十一月二十三日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　中村留造
○明治四十一年五月十六日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　小松橋一郎
○明治四十年十一月二十四日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　高橋角藏
○明治四十一年十一月二十五日　旭七等　一〇〇　歩兵上等兵勳八等　北田和三郎
○明治四十一年五月十六日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　江津定重
○明治四十年十一月二十三日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　高橋佐吉
○明治四十年十二月三十一日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　今井藤次郎
○明治四十年十一月二十三日　旭七等　八〇　歩兵上等兵勳八等　吉田安藏
○明治四十年九月五日　旭八等　八〇　歩兵二等卒　後藤京一
○明治四十年十一月二十四日　旭八等　八〇　歩兵一等卒　山宮重衛
○明治四十一年九月二十二日　旭八等　八〇　歩兵上等兵　中澤勝市
○明治四十一年十月八日　旭七等　一二〇　歩兵伍長勳八等　佐竹新吉
○明治四十一年九月十三日　旭六等　四〇〇　歩兵特務曹長勳七等　佐久間德三郎
○明治四十一年六月二十九日　旭八等　一〇〇　歩兵二等卒　小林作藏
○明治四十年十一月六日　旭七等　二〇〇　歩兵軍曹勳八等　武田信
○明治四十一年五月二十二日　旭八等　一五〇　歩兵上等兵　宮村通象
○明治四十一年三月二十九日　旭八等　一〇〇　歩兵一等卒　坂井樞三郎
○明治四十一年七月二日　瑞七等　六〇　歩兵一等卒勳八等　早坂長治
○明治四十一年十一月七日　瑞八等　四五　歩兵二等卒　上條靜雄
○明治四十一年十一月二十六日　瑞八等　四五　歩兵上等兵　杉山茂登造
○明治四十一年九月十三日　瑞八等　六〇　歩兵二等卒　松野義雄
○明治四十年十二月十七日　瑞八等　六〇　歩兵二等卒　堀川熊太郎
○明治四十年十一月七日　瑞八等　三〇　歩兵上等兵　渡邊末太
○明治四十一年十月十三日　瑞八等　四五　歩兵二等卒　柳澤謙一郎
○明治四十年十一月三十日　瑞八等　四五　歩兵一等卒　北川榮一
○明治四十一年九月十一日　瑞八等　三〇　歩兵一等卒　山內寅吉
○明治四十一年九月二十日　瑞八等　三〇　歩兵二等卒　矢花角市
○明治四十年十月二十四日　瑞八等　三〇　歩兵一等卒　土屋福藏

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏名

○明治四十一年八月二十三日　三〇　歩兵二等卒　古畑七郎治
○明治四十年十一月二日　二〇　歩兵一等卒勳八等　佐久間利八
○明治四十一年五月三日　二〇　歩兵二等卒　須澤重三
○明治四十年十月二十九日　一〇　歩兵一等卒　關川龍次
○明治四十一年九月十九日　三〇　歩兵二等卒　黑澤長吉
○明治四十一年八月十四日　二〇　歩兵二等卒　岩崎粲次郎
○明治四十一年九月十八日　三〇　歩兵二等卒　曲尾榮三郎
○明治四十年九月十日　二〇　歩兵二等卒　河野淺次郎
○明治四十一年九月十四日　三〇　歩兵二等卒　高橋忠松
○明治四十一年八月十三日　三〇　歩兵二等卒　岩淵岩造
○明治四十一年十一月十六日　三〇　歩兵二等卒　宮崎鐵弥
○明治四十年十一月十三日　二五　歩兵伍長勳八等　柿沼元吉
○明治四十年十月十日　二〇　歩兵一等卒　笠井甚松
○明治四十年十月一日　一〇　歩兵一等卒勳八等　今井武平
○明治四十一年二月三日　三〇　歩兵一等卒　和城松五郎

第7800号　付録

付録

第7800号付録

歩兵第五十一聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年六月十七日	旭七等	二〇〇	歩兵上等兵	森 政吉
○明治四十年九月六日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	岸田 駒吉
○明治四十一年八月十四日	旭六等	一四〇	歩兵特務曹長勲七等功七級	筏井 勝太郎
○明治四十年八月一日	旭六等	三〇〇	歩兵特務曹長勲七等功七級	熊本 爲次郎
○明治四十年九月二十七日	旭七等	一五〇	歩兵一等卒勲八等	永田 繁吉
○明治四十年九月二十三日	旭七等	一五〇	歩兵一等卒勲八等	森田 清一郎
○明治四十年八月一日	旭七等	一五〇	歩兵一等卒勲八等	梶 粂吉
○明治四十一年七月二十二日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	原 孫次郎
○明治四十一年四月十三日	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	江本 安太郎
○明治四十一年七月三日	旭八等	一五〇	歩兵一等卒	清水 二之助
○明治四十年九月六日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	久世 八藏
○明治四十一年八月十三日	旭八等	一五〇	歩兵一等卒	服部 説治
○明治四十一年九月一日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	大内 仁作
○明治四十一年五月十四日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	太田六左衞門
○明治四十年十二月二日	旭八等	八〇	歩兵二等卒	鳥居 德次
○明治四十一年六月五日	旭八等	八〇	歩兵上等兵	大島 鐘次郎
○明治四十一年八月十七日	旭八等	八〇	歩兵二等卒	早川 鉼
○明治四十一年十一月二十八日	旭七等	一一〇	歩兵伍長勲八等	堀川 才之丞
○明治四十一年七月十二日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	横山 要次郎
○明治四十年十一月二十六日	旭七等	八〇	歩兵一等卒勲八等	江川 錢久吉
○明治四十一年十月二日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	横井 庄松
○明治四十一年九月二十七日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	進藤 清五郎
○明治四十年八月二十日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	島田 清五郎
同		同	同	栗田 留吉
○明治四十一年一月五日	瑞八等	六〇	歩兵上等兵	平田 長次郎
○明治四十年十二月十五日	瑞八等	六〇	歩兵一等卒	岩佐忠右エ門
○明治四十年十二月二十一日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	長谷川和兵衞
○明治四十一年八月二十一日	瑞八等	六〇	歩兵一等卒	戸田 喜七
○明治四十一年七月三日	瑞七等	六〇	歩兵一等卒勲八等	渡邊 梅吉
○明治四十年十一月六日	瑞八等	四五	歩兵二等卒	竹内 富次郎
○明治四十年十一月二十日	瑞八等	四五	歩兵一等卒	前川 林藏
○明治四十年十一月十一日	瑞八等	四五	歩兵二等卒	石原 甚九郎
○明治四十一年八月二十二日	瑞八等	四五	歩兵二等卒	山口 榮五郎
○明治四十年十一月二日	瑞八等	四五	歩兵二等卒	佐野 豐吉
○明治四十年十一月二十一日	瑞八等	四五	歩兵一等卒	植田 嶌治郎
○明治四十一年一月十日	瑞八等	四五	歩兵一等卒	松岡 大吉
○明治四十年十一月十四日	瑞八等	四五	歩兵一等卒	山田 鍬吉
○明治四十年十二月一日	瑞八等	三〇	歩兵一等卒	水谷 深三郎
○明治四十年十一月二十日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	伊藤 由三郎
○明治四十年八月十九日	瑞八等	三〇	歩兵上等兵	伊藤 市太郎

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年八月一日	三〇〇	歩兵曹長勲七等	平野 正次郎
○明治四十年十一月八日	三〇	歩兵二等卒	吉田 八藏
○明治四十年十月十日	三〇	歩兵一等卒勲八等	杉浦 清一
○明治四十年十一月九日	三〇	歩兵二等卒	増田 政吉
○明治四十年十一月十七日	三〇	歩兵一等卒	大脇 雅秋
○明治四十一年七月三日	三〇	歩兵二等卒	後藤 五三郎
○明治四十年九月二十日	三〇	歩兵一等卒	森岡 榮三郎
○明治四十一年十一月二十九日	三〇	歩兵二等卒	藤木 吉兵衞
○明治四十一年十月二十九日	三〇	歩兵二等卒	中西 宇十郎
○明治四十一年七月二十日	三〇	歩兵二等卒	濱口 龜次郎
○明治四十年九月二日	二〇	歩兵一等卒勲八等	青島 惣太郎
○明治四十一年七月二十三日	二〇	歩兵二等卒	杉本 吉次郎
○明治四十一年九月二十九日	二〇	歩兵二等卒	中山 忠吉
○明治四十一年八月二十一日	二〇	歩兵二等卒	竹内 正雄
○明治四十一年九月八日	二〇	歩兵二等卒	藤岡 權四郎
○明治四十一年六月十一日	二〇	歩兵二等卒	米川 秀藏

歩兵第五十二聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年十月二十三日	旭八等	八〇	歩兵二等卒	佐藤 作治
○明治四十一年三月八日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	佐藤 岩藏
○明治四十年十月十八日	旭七等	八〇	歩兵上等兵勲八等	大江 忠松
○明治四十年十一月十四日	旭八等	八〇	歩兵二等卒	齋藤 庄一
○明治四十一年八月三日	旭八等	一五〇	歩兵一等卒	沼田 金作
○明治四十一年四月十四日	旭八等	一五〇	歩兵一等卒	長谷川三之助
同		同	同	伊東 德松
○明治四十一年二月二十一日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	山本 七三郎
○明治四十一年一月十日	旭八等	一〇〇	歩兵二等卒	江利山 末吉
○明治四十一年一月二十九日	旭七等	一〇〇	歩兵一等卒勲八等	渡邊 慶助
○明治四十一年七月七日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	石塚 嘉一
○明治四十一年十一月十七日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	阿部 岩吉
○明治四十一年九月二十六日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	戸澤 長次郎
○明治四十一年九月三日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	對馬 豐吉
○明治四十一年九月二十八日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	石澤 忠八
○明治四十一年八月五日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	須藤 鶴三郎
○明治四十一年九月九日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	畠山 勉治
○明治四十一年八月八日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	小松 長市
○明治四十一年九月二十三日	瑞八等	三〇	歩兵一等卒	巣守 豐松

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年十一月六日	三〇	歩兵一等卒	中島 耕平
○明治四十一年九月二十五日	三〇	歩兵二等卒	山下 種次郎
○明治四十年十一月十四日	三〇	歩兵一等卒勲八等	木村 勇吉
○明治四十一年五月四日	三〇	歩兵二等卒	成田 幸次郎
○明治四十一年十一月二十四日	三〇	歩兵一等卒勲八等	檜川 長作
○明治四十年九月十四日	二〇	歩兵二等卒	竹内 伊三郎
○明治四十一年十一月一日	三〇	歩兵二等卒	鈴木 定五郎
○明治四十一年九月九日	三〇	歩兵二等卒	宮川 鶴吉
○明治四十年八月十五日	二〇	歩兵二等卒	佐々木金之丞
○明治四十一年二月二十五日	三〇	歩兵一等卒	古舘 留吉
○明治四十年十月二十八日	二〇	歩兵二等卒	佐々木重太郎
○明治四十一年六月一日	三〇	歩兵上等兵勲八等	佐藤 養治
○明治四十年十月二十四日	二〇	歩兵一等卒	平松 松太郎
○明治四十年九月二十九日	一〇	歩兵二等卒	高橋 傳三郎
○明治四十年九月九日	一〇	歩兵二等卒	小笠原 三郎

騎兵第十七聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年六月十日	旭八等	一五〇	騎兵一等卒	大瀧 貫一
○明治四十一年一月二十三日	旭八等	一五〇	騎兵一等卒	石田 慶治
○明治四十一年十月二十一日	旭八等	一五〇	騎兵一等卒	山谷 桂助
○明治四十一年一月七日	旭八等	一五〇	騎兵一等卒	牧浦 信治郎
○明治四十一年九月十二日	旭八等	八〇	騎兵一等卒	富榮 專藏
○明治四十一年三月二十三日	瑞八等	四五	騎兵二等卒	内山 孝三
○明治四十一年九月十七日	瑞八等	三〇	騎兵二等卒	石川 太一郎
○明治四十一年七月二十四日	瑞八等	三〇	騎兵一等卒	西條 百治

野砲兵第十九聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年十月三十一日	瑞七等	四五	砲兵上等兵勲八等	成島 濱之助
○明治四十年十月二十四日	瑞八等	四五	砲兵一等卒	山田 權七
○明治四十一年七月二十日	瑞七等	三五	砲兵伍長勲八等	双木 宗五郎

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年十一月十四日	三〇	砲兵二等卒	加藤 彌三郎
○明治四十一年十月十九日	三〇	砲兵二等卒	菅原 長藏
○明治四十年十一月四日	一〇	砲兵一等卒	木村 與次郎
○明治四十一年八月十二日	二〇	砲兵一等卒	桂川 錢二
○明治四十一年七月十三日	一〇	砲兵二等卒	羽馬 清鄕
○明治四十年十一月二十三日	一〇	砲兵二等卒	遊佐 萬次郎
○明治四十一年一月十七日	一〇	砲兵二等卒	高田 吉藏
○明治四十一年九月二十日	一〇	砲兵二等卒	佐藤 乾
○明治四十一年八月三十一日	一〇	砲兵二等卒	竹村 德伊

工兵第十三大隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年七月十五日	瑞八等	三〇	工兵二等卒	井上 伍助
○明治四十一年十二月十八日	瑞七等	三五	工兵伍長勲八等	吉田 省三

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年九月十二日	一〇〇	工兵曹長勲七等功七級	佐野 正男
○明治四十一年十月五日	三五	工兵上等兵	小鹿 芳松
○明治四十一年一月七日	一〇	工兵上等兵	古澤 中次郎
○明治四十一年一月五日	一〇	工兵上等兵	淺田 義一
○明治四十一年一月十一日	一五	工兵曹長勲七等	佐藤 三郎

輜重兵第十三大隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年十月三日	瑞八等	三〇	輜重兵上等兵	酒井 春三郎

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年十月三十一日	一〇	輜重兵一等卒	桑原 久吉

歩兵第十四聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年十月十三日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	増田 登
○明治四十年八月十日	旭七等	二〇〇	歩兵曹長勲八等	矢野 崎太
	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	林 周助
○明治四十一年二月十日	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	小西 勝四郎
○明治四十一年十一月二十三日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	上野 榮次郎
○明治四十年八月十日	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	古賀 佐七
同		一〇〇	歩兵一等卒	企救岳市次郎
同		一五〇	同	鄕 圖作
同		同	同	倉迫 米造
○明治四十年九月八日	旭八等	一〇〇	歩兵上等兵	草野 文助
同		同	歩兵一等卒	有吉 學治
同		同	同	眞鍋 律助
○明治四十年十月二十九日	旭八等	一〇〇	歩兵二等卒	井上 太八
○明治四十一年四月二十一日	旭七等	一一〇	歩兵伍長	山崎 增太郎
○明治四十一年七月五日	旭八等	一〇〇	歩兵上等兵	森田 應藏
○明治四十一年十一月五日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	末廣 次郎藏
○明治四十一年八月四日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	別府 熊夫
○明治四十一年九月四日	旭八等	一〇〇	歩兵上等兵	小野 主計
○明治四十一年一月十四日	旭八等	一〇〇	歩兵上等兵	小西 木治郎
○明治四十一年一月三十日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	善 兵太
○明治四十一年七月二十八日	旭八等	一〇〇	歩兵上等兵	甲斐 曾山
○明治四十一年九月三十日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	北野 清助
○明治四十一年十月十三日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	尾瀉 清一
○明治四十年十月二日	旭七等	一一〇	歩兵伍長	植野 實
○明治四十年十月九日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	早幸 定一
○明治四十一年十月二十日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	中野 純一
○明治四十一年二月二十五日	瑞七等	六〇	歩兵一等卒勲八等	島立 助松
○明治四十一年十月十七日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	中川 榮太郎
○明治四十一年二月十五日	瑞八等	三〇	歩兵上等兵	尾田 榮太郎
○明治四十年十月三十一日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	木原 秀藏
○明治四十年九月八日	瑞八等	三〇	歩兵一等卒	近木 督雄
○明治四十一年九月三十日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	廣渡 松五郎

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年二月二日	三〇〇	歩兵曹長勲七等	川浦 布建
○明治四十一年九月二十四日	一〇〇	歩兵曹長勲七等	矢次 勘治
○明治四十一年十月二日	三〇	歩兵二等卒	橋本 信二
○明治四十年八月三十一日	二五	歩兵伍長勲八等	長光 貫一
○明治四十年八月十一日	一五	歩兵伍長	田丸 清松

歩兵第四十七聯隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年三月二十五日	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	馬塲 新藏
○明治四十一年五月十六日	旭七等	二〇〇	歩兵伍長	上原 仙藏
○明治四十年八月十五日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	大野 林平
○明治四十一年六月十五日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	鈴木 恩次郎
○明治四十一年三月二十三日	旭八等	一五〇	歩兵上等兵	山西 針治
○明治四十一年七月二十二日	旭八等	一五〇	歩兵二等卒	冷川 德市
○明治四十一年三月一日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	日野 辰治
○明治四十一年四月十六日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	野尻 長五郎
○明治四十一年七月二日	旭八等	一〇〇	歩兵一等卒	林田 庄吉
○明治四十一年八月二十八日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	本田 千一
○明治四十一年十月三十日	旭六等	一四〇	歩兵特務曹長勲七等	吉良 幾次郎
○明治四十年十月十三日	旭八等	八〇	歩兵一等卒	結城 新三郎
○明治四十年十月三十日	旭八等	八〇	歩兵二等卒	高松 清六
○明治四十年十月十九日	瑞八等	六〇	歩兵上等兵	下瀬 周藏
○明治四十年十一月六日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	池邊 保
○明治四十年十月三十一日	瑞八等	六〇	歩兵二等卒	小山 茂
○明治四十年十一月二日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	堤 陸太郎
○明治四十年十月十二日	瑞八等	三〇	歩兵二等卒	富來 治郎

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年八月二十一日	二〇	歩兵一等卒	甲斐 傳次郎

鎭海灣重砲兵大隊

	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十年十二月三日	三〇	砲兵一等卒	今谷 仁助
○明治四十年十二月一日	三〇	砲兵上等兵	丸田 範次郎
○明治四十一年二月八日	一〇	砲兵一等卒	西垣 利太郎

韓國駐剳憲兵隊

叙賜	勲等	賜金	陸軍官等位勲功爵	氏名
○明治四十一年九月三日	旭八等	一五〇	憲兵上等兵	梅原 平太郎
○明治四十一年八月六日	旭七等	一五〇	憲兵上等兵勲八等功七級	渡邊 三四郎
○明治四十一年四月二十六日	旭七等	一〇〇	憲兵上等兵勲八等功七級	永戸 久維
○明治四十一年九月十八日	旭七等	一〇〇	憲兵上等兵勲八等	奥村 清吉
○明治四十一年六月十日	旭七等	一〇〇	憲兵上等兵勲八等	島崎 善治
○明治四十一年六月七日	旭七等	一〇〇	憲兵上等兵勲八等	岩下 源助
○明治四十一年二月二十四日	旭七等	八〇	憲兵上等兵勲八等	茂木 敬吉
○明治四十年十二月十三日	旭七等	八〇	憲兵上等兵勲八等	山崎 源造
○明治四十一年六月二十七日	旭八等	八〇	憲兵上等兵	松井 次郎
○明治四十一年八月二十四日	旭七等	一一〇	憲兵伍長勲八等	岡山 子之吉
○明治四十一年十一月二十六日	旭七等	八〇	憲兵上等兵勲八等	中山 吉久
○明治四十一年八月十八日	瑞八等	六〇	憲兵上等兵	宮田 長太郎
○明治四十一年十二月一日	瑞八等	六〇	憲兵上等兵	田中 博記
○明治四十一年十一月十二日	瑞八等	六〇	憲兵上等兵	北川 和平
○明治四十一年九月七日	瑞八等	四五	憲兵上等兵	下野 乙五郎
○明治四十一年八月十六日	瑞七等	六〇	憲兵伍長勲八等	久留 男熊

第7800号 付録

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十一月十日　憲兵上等兵勳八等　大口　洞禪
瑞七等　四五
○明治四十一年六月九日　憲兵上等兵勳八等　今福　周藏
瑞七等　四五
○明治四十年十一月十五日　憲兵上等兵勳八等　寺師　廣雄
瑞七等　四五
○明治四十一年十月二十五日　憲兵上等兵勳八等　堀　杢治
瑞七等　三〇

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年四月二十六日　憲兵上等兵勳七等　坪井　灘市
一四〇
○明治四十一年九月二十六日　憲兵上等兵勳八等　福田　泰作
三〇
○明治四十一年八月二十八日　憲兵上等兵　長屋寬右衛門
三〇
○明治四十一年十月十七日　憲兵上等兵　石川　政八
三〇

韓國派遣騎兵隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年六月十七日　騎兵上等兵　伊東　佐一
旭八等　一五〇
○明治四十一年四月十八日　騎兵一等卒　土屋　文次郎
旭八等　一五〇
○明治四十一年三月十三日　騎兵一等卒　岸　留吉
旭八等　一五〇
○明治四十一年八月二十六日　騎兵上等兵　加瀨　保男
旭八等　一〇〇
○明治四十一年八月七日　騎兵軍曹勳八等　川面　秀善
旭七等　一四〇
○明治四十一年八月二十二日
旭八等　八〇　騎兵伍長　小高　法輪
同　同　騎兵上等兵　森　頁助
○明治四十一年五月九日　騎兵一等卒　中澤　直憲
旭八等　八〇
○明治四十一年七月四日　騎兵一等卒　青木　福太郎
旭八等　一〇〇

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十一月十日　騎兵二等卒　堀江　子之吉
一〇

步兵第二十三聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月十四日　步兵一等卒　鳥丸　金太郎
瑞八等　四五

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十一月二十四日　步兵二等卒　柊　元廣
三〇
○明治四十一年十月二十三日　步兵二等卒　前原　貞
三〇
○明治四十一年十一月十三日　步兵上等兵　大久保喜藤次
二〇
○明治四十一年八月三十日　步兵二等卒　中村　勇一
一〇

步兵第二十七聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月八日　步兵二等卒　中山　三藏
旭八等　一五〇
○明治四十一年八月二十五日　步兵一等卒　紙谷　平太郎
旭八等　八〇
○明治四十一年六月二十二日　步兵二等卒　和田　太郎
旭八等　八〇
○明治四十一年八月二十三日　步兵一等卒　神山　才一郎
瑞八等　三〇
○明治四十一年九月二十六日　步兵二等卒　大口　與三郎
瑞八等　三〇

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月二十九日　步兵二等卒　三島　萬次郎
三〇
○明治四十一年十一月二十六日　步兵上等兵　村上　貞吉
三〇
○明治四十一年十一月二十九日　步兵上等兵　龜谷　雄吉
三〇
○明治四十一年十一月一日　步兵二等卒　村田　秀吉
三〇
○明治四十一年十一月十二日　步兵二等卒　平田　乙吉
三〇
○明治四十一年八月二日　步兵二等卒　兒玉　庄吉
二〇

步兵第二十六旅團司令部

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年九月五日　步兵曹長勳七等　加藤　芳三郎
一五

韓國駐箚軍司令部

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十月十九日　一等計手勳七等　大風　米市
四五

輜重兵第十三大隊

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十月二十九日　二等計手勳七等　森　與一郎
二五

步兵第十四聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年九月十三日　一等計手勳七等　廣山　保
青色桐葉章　一四〇

韓國駐箚陸軍倉庫

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十一月三日　一等計手勳七等功七級　多久　九七郎
一四〇
○明治四十一年七月一日　二等計手勳七等　一ノ木　法宣
一〇〇

第十三師團司令部

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十一月十九日　一等看護長勳七等　桂井　潤七
一〇〇

韓國駐箚陸軍倉庫

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十月三十日　二等看護長勳八等　奧谷　竹之助
三五

韓國駐箚鏡城衛戍病院

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十月四日　三等看護長勳八等　牛來　弘
三五

韓國駐箚軍司令部

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月六日　騎兵一等蹄鐵工長勳七等　堀田　伍次郎
一〇〇

步兵第二十六旅團司令部

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月二十二日　步兵大佐正五位勳三等功四級　横山　新治
四五〇

步兵第四十九聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年七月二十五日　步兵少尉正八位　野崎　齊三
瑞六等　五五

步兵第五十聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十一月二十三日　步兵少尉正八位　新谷　泰造
旭六等　一七〇

步兵第五十一聯隊

敍　賜
功級　勳等　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年八月一日　步兵大尉正七位勳五等功五級　梶原　義久
功四級（年金二〇〇）旭四等

步兵第五十二聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年三月二日　步兵大尉正七位勳五等功四級　上田　貫久治
旭四等　二一〇

步兵第四十七聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年四月三十日　步兵大尉正七位勳六等　喜々津　元一
旭五等　二七〇

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十月八日　步兵少尉正八位　浦野　常吉
五五

韓國駐箚陸軍兵器支廠

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十一月七日　砲兵中佐從五位勳三等功四級　井口　吉五郎
一六〇

步兵第五十聯隊

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年十月十七日　三等主計正八位　國行　義輔
瑞六等　九〇

工兵第十三大隊

賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十年十二月三十日　一等軍醫正七位勳五等　波多江　善賢
七〇

韓國駐箚京城衛戍病院

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年三月二十日　二等軍醫從七位勳六等　伊佐　光二
旭五等　三三〇

韓國駐箚鏡城衛戍病院

敍　賜
勳等　賜金　陸軍官等位勳功爵　氏　名
○明治四十一年八月二十日　二等藥劑官從七位勳六等　上田　英雄
瑞五等　五五